

|     |       |
|-----|-------|
| 経 営 | 1 3 3 |
| 経 済 | 2 3   |

# 合板の流通機構と価格形成

昭和40年 2 月

農林省林業試験場経営部

## お　こ　と　わ　り

合板の流通機構と価格形成についての調査と研究は、木材加工協会との協同で、昭和38年12月頃から着手されたが、その後、わたくしは昭和39年3月下旬から40日間にわたって、カンボジアに出張を命ぜられたので、この間中断を余儀なくされ、本格的には39年10月頃から始められたものである。

こういった経過からも知られるように、このレポートは、かなり急遽にとりまとめられたので、生半可なところも少なくない。したがって、正式に発表される場合には、今後充分検討されるべきであろうが、しかしこの段階のものであっても、ある程度役立つものを含んでいるであろうし、またある意味では却って捨て難い指摘も多々みられるものと思われる。

こういったわけで、あえて部内印刷にしたのである。

最後に、この調査研究のある期間、行動を共にした石川県庁の萱田行徳氏ならびに温い御指導と御鞭撻を下された木材加工協会、日本ベニヤ工業連合会、合板工業会およびその他関係者に、さらにこの段階におい



て部内印刷を心よく許された原経営部長に心よりお礼と感謝の意をあら

わしたいと思う。

昭和40年2月2日

経営部経済研究室

野村 勇

## 合板の流通機構と価格形成

### 目 次

|                      | 頁  |
|----------------------|----|
| 1. ま え が き           | 1  |
| 2. わが国における合板工業の歴史的展開 | 2  |
| 第1期 — 合板工業創設期        | 2  |
| 明治40年頃より大正2年         |    |
| 第2期 — 合板工業展開期        | 3  |
| 第1次展開期               | 3  |
| — 大正3年頃から昭和4年頃まで —   |    |
| 第2次展開期               | 6  |
| — 昭和5年頃から13年頃まで —    |    |
| 第3期 — 戦時経済期          | 9  |
| — 昭和13年頃から昭和2年まで —   |    |
| 第4期 — 合板工業復興期        | 13 |
| — 敗戦より昭和27年まで —      |    |
| 第5期 — 本格的発展期         | 15 |
| 第1次発展期               | 15 |
| — 昭和28年以降より34年頃まで —  |    |
| 第2次発展期               | 17 |
| — 昭和34年頃より現在まで —     |    |



|                        |     |
|------------------------|-----|
| 3 合板市場の構造              | 31  |
| 3-1 合板流通の概況            | 31  |
| 3-2 わが国における合板市場の構造     | 34  |
| 3-2-1 考察の布石            | 34  |
| 3-2-2 東京合板市場の構造        | 34  |
| 3-2-2-1 東京合板市場の概況      | 34  |
| 3-2-2-2 合板製造業          | 39  |
| 3-2-2-3 二次加工業          | 58  |
| 3-2-2-4 商 社            | 65  |
| 3-2-2-5 合板問屋           | 67  |
| 3-2-2-6 木材問屋           | 73  |
| 3-2-2-7 専門小売商および材木商    | 74  |
| 3-2-2-8 製造業および流通業の各種団体 | 76  |
| 3-2-3 大阪合板市場の構造        | 85  |
| 3-2-3-1 大阪合板市場の概況      | 85  |
| 3-2-3-2 合板製造業          | 89  |
| 3-2-3-3 二次加工業          | 100 |
| 3-2-3-4 商 社            | 101 |
| 3-2-3-5 合板専門問屋         | 103 |
| 3-2-3-6 木材問屋           | 106 |
| 3-2-3-7 専門小売商および材木商    | 110 |
| 3-2-3-8 製造業および流通業の各種団体 | 111 |
| 3-2-4 名古屋合板市場の構造       | 115 |
| 3-2-4-1 名古屋合板市場の構造     | 115 |

|                              |     |
|------------------------------|-----|
| 3-2-4-2 合板製造業                | 119 |
| 3-2-4-3 二次加工業                | 129 |
| 3-2-4-4 商 社                  | 130 |
| 3-2-4-5 合板専門問屋               | 131 |
| 3-2-4-6 木材問屋                 | 134 |
| 3-2-4-7 専門小売商および材木商          | 134 |
| 3-2-4-8 製造業と流通業の各種団体         | 136 |
| 3-3 東京、大阪および名古屋市場の特徴と相互の経済関係 | 139 |

|                  |     |
|------------------|-----|
| 4 合板需要の構造        | 144 |
| 5 合板価格変動の特徴とその機構 | 149 |
| 6 各地における価格資料     | 160 |



## 1. ま え が き

わが国における合板工業が創設され、展開を開始したのは明治40年頃からであり、現在まで約55年余しか経過してゐるにすぎない。それにもかかわらずその生産量はアメリカに次いで2位、需要量はアメリカ・ソ連に次いで3位、さらに輸出量については世界2ノ位と云つたためさしい発展を示している。

ところで最近、台湾および朝鮮等における合板工業の躍進あるいは昨半世とをにぎやかした、傷地再す俊にその一端を知ることができらうワシ原木入手の困難性増大といった問題が一層強く認識され、あらためてわが国における合板工業合理化の問題が深刻に討議されるようになった。そして将来においてもなお一層鮮明に顕在化される可能性をみている。

おおきくは以上のような視点に立脚して、ここでは合板の流通機構ならびに価格形成の問題について検討し、わが国における合板工業の発展のためのノフの定掛りを提供しようと考えている。

現在における合板の流通機構と価格形成の分析に入る前に、まずわが国における合板工業の歴史的展開についてふれておくが、これは「明日は、自らの選んだものになるだろう。しかし、この自由は、その前歴と能力との、ある限界内でおこなわれる」(注ノ) という意味において十分意義があろう。

(注ノ) アンドレ・モロワ 平岡昇他訳

フランス史(下) 226頁参照。



## 2. わが国における合板工業の 歴 史 的 展 開

### カ1期 — 合板工業創設期

— 明治40年頃より大正2年 —

原木を飽で薄く丸割ぎにするベニヤロータリーが、ヨーロッパにおいて始めて作られたのは約1870年（明治3年）頃であり、それより10年後の1880年頃から一般に工業化されたといわれている。

わが国においては、日清、日露の両戦争を経て急速に経済の拡大と活況を呈した明治40年（1907年）頃に合板工業の創設をみた。この創設は、伏見万次郎氏の援助を得て、ベニヤロータリー機を作った浅野吉次郎氏の浅野木工所（名古屋）の開設に始まるものである。その後、北海道北見に丸玉木工所（単板製造）、兵庫県尼崎に森薄板製造所が設立された。

この合板工業創設期において、当初、浅野木工所から、ついで森薄板製造所から三井物産の手を通じて南洋インド方面にベニヤチエスト（茶箱）が輸出されたことは注目に値することであろう。

最初、接着剤については明白を使ったり、あるいは磐石糊（米糊）を使ったりしたようであったが、結局皆からあつた膠が主として用いられ、接着強化のためにホルマリンを媒剤として使用したといわれている。なお原木については本曾ならびに紀州方面から生産されるモミ材が使用されていたが、日露戦争前後から漸次モミ材の不足をきたすようになり、このためにモミ材にかわって北海道のエゾマツ、トドマツ

を使用するようになった。こういった原料樹種の変化は全くパルプ工業における場合と同一であることは興味深いことである。このことは当初、原料関係においては合板工業とパルプ工業とは強い競合関係にあったことを物語るのである。

### カ2期 — 合板工業展開期

カ1 次展開期 — 大正3年頃から昭和4年頃まで —

大正3年夏東欧の一小国セルビアのサラエボにおいて生じた事件を契機として発展したカ1次世界大戦の勃発により、わが国の経済は急激な伸長を示した。（注2）

大戦がもたらした日本経済の発展をもっとも端的に表現するのは、貿易の異常な膨脹と稀にみる多額の輸出超過であった。このように大正4年（1915年）5、6月頃からみられる海外貿易関係の傾向は、1915年までつづいて年々いちじるしい増進を示し、4年間に輸出約54億円、輸入約40億円、差引輸出超過約14億円に達しているのである。また貿易外の収支勘定においても、商船トン数の増加、運賃の騰貴、海上保険料の増大等によって巨額の収支超過となった。船舶トン数は戦前の160万トンから終戦時の240万トンに増加し、それが遙かに地中海を経て大西洋はもちろん南北アメリカにいたる海上を縦横に活躍して運賃収入を増大させるとともに、海上保険料をも予想外に多額にさせ、この結果、この期間における貿易外の純収支勘定は約14億に達した。

このようにして4年の間に合計約28億円の正貨が流入したが、これが当時の経済発展の大きな原動力の1つとなった。



以上のことき経済一般の繁栄を基盤として合板工業もおおいに発展を示し、大一次発展時代をむかえた。当時における工場の概況を日本合板工業会の合板50年史よりみると（注3） 樺太以降数年ないし10手を経て浅野、日本楽器、森、鈴木等の各工場が漸次業績をあげるとともに合板の有望性が認識され、合板工場の新計画がぼつぼつ具体化してきた。すなわち大正4年に富山県高岡市に高岡合板株式会社が設立されたのを皮切りにして翌大正5年には横浜市に大日本ベニヤ製材株式会社、東京本所柳原に東京ベニヤ合資会社（翌6年12月株式会社に変更）がほぼ時を同じくして設立され、その翌年の大正6年には永井純一郎氏が名古屋に名古屋製板株式会社を開業したのに呼応して、北海道名寄に宮沢ベニヤ、上士別に石田薄板工場、留辺碛に高岡合板等の単板工場が設立された。

大正7年に入ると合板熱はますます上昇して、神戸市に東洋ベニヤ株式会社、東京深川に東京木材興業株式会社が設立され、翌昭和8年に、これまた優秀工場と目された北海道の新田ベニヤ工場が設立された。またこの前後に北海道各地に浅野、森、高岡、東洋ベニヤ等のベニヤチェスト工場に単板を供給する目的で単板工場が10数工場できた。

大一次展開期に入ってから当初における主な使用樹種は北海道産のカラ、カバならびにタモ等が使用されたが、大正7、8年頃になってカバ類が少なくなってきたシナが使用されるようになった。

現在の主要原料であるラワン材が最初、輸入されたのは大正11年になってからである。

わが国における合板工業の輸出は既述のごとくベニヤチェストが中

心であったが、大正6年になって合板ベニヤがイギリスに輸出され始めた。また合板にとって重要な原料の1つである接着剤はすでにふれたように当初膠が使用されていたが、大正5年になって三井物産によりミルクカゼインが輸入され使用されるようになったことは注目値する。

すでに述べたごとく合板工業の活況はオノ次世界大戦によりもたらされたが、その後大戦終結の余波をうけて大正10年には（注4）合板のデエスト輸出がストップしたため合板工場の整理期をむかえ、名古屋浅野合板、東京日本アライウッド工場など一時工場閉鎖の余儀ない半端に陥り、倉庫内にはデエスト合板が山積する状態となった。また丸五ベニヤ工場は北海道よりデエスト用単板を東京に出荷したが売れず、東京亀戸天神際、東京ベニヤ工場は破産するなど暗澹たる事態を出現した。しかし大正12年の関東大震災の勃発により復興資材需要の急増とともに活況をむかえた。この辺の消息は朝日ベニヤ工業株式会社の故永井純一郎翁年譜の次の文章の中に生々ともみることが出来る。（注5）

「東京尾久町の東屋の2階を復興本部にし（朝日ベニヤの前身の四ッ目合板製造所が大震災により焼失してしまったので——著者注）、太田、瀧島、白石の3名がここに集まった。……東京府下北豊島郡三河島町字花の木に只腰横一と共同で合資会社ナガ井ベニヤ製作所を設立、合資会社四ッ目合板製造所と解散する。工場は丸太組みで華房所とともに36坪の小規模のものであった。1月から操業を開始する。北海道丸五ベニヤ工場から乾燥単板を仕入して楓、樺、松、杉、檜の合板生産を行なう。製品は無仕上げであったが焼土と化した帝都復興に大



いに設立し、製品の販売は極めて順調であった。当時各工場在庫の格別のテスト合板の需給は急ぶように売れた。この時、東京の家具の寸法規格はテストの寸法を基準として誕生した。閉鎖工場も再び稼働を開始し、ベニヤ板と呼ばれる名称はこの時を契機として全国津々浦々に極めて短時間で知れわたる勢いで強力なPRとなった。

当時の工場数についてふれるならば、大震災直前に14工場ほど存在していたものが、震災後5工場が閉鎖され、10工場が開業したので結局19工場となった。

このように震災を契機にして小康を得た合板工業も昭和初頭における世界的恐慌の発生とともに、わが国の経済にも波及するにあやうでストップされることになった。

昭和5年にはわが国における合板工業の草分けで、その後のリーダーとして活躍してきた茨野木工場の破綻がみられた。さきに紹介した朝日ベニヤの前身ナガ井ベニヤ製作所も昭和7年には倒産し、債権者と日進ベニヤの志村善太郎氏の協力で、会社名を大東ベニヤ製作所と改称して操業を再開している。

しかしこの昭和初頭に激しく吸い寄せられた大不況は合板工業の壊滅をもたらすことにならず、むしろ次期発展のための地ならしを提供することになったのである。

#### 第2次展開期 ― 昭和5年頃から13年頃まで ―

上述のごとくわが国の経済は昭和初頭において世界的大不況の波にもまれたが、昭和6年（1931年）7月に勃発した満洲事変を契機と

して対内閣の徹底的な緊縮政策は撤回され、インフレ政策が遂行されることになった。これによりわが国の経済は活況を招き、それとともにわが国の合板工業界も発展の道を辿ることになったのである。

この期における合板工業界において、まずクワノに指摘されるべきことは、その後の発展の有力な原動力となったともいえる南洋材ラワン材の輸入が本格的におこなわれるようになったことである。

すでに述べたごとく最初のラワン材輸入は大正11年に北ボルネオから三井物産によっておこなわれたが、本格的には昭和5年以降になってからであり、そして主要生産地もボルネオからフィリッピンに移った。この点については現在においても変わっていない。

ラワン材の輸入数量は昭和2年には6万平方メートルであったものが、その後20～30%位ずつ増加して、昭和12年には昭和2年の約1.3倍に当たるクワ6,000平方メートルにまで増大している。当時における輸入商社はフィリッピン材については比律養木材、南洋物産、三菱商事、三井物産、ギンダー木材、住友商会、安宅商会、北ボルネオ材については野村商事、山田商店、日産養林、南ボルネオ木材については安宅商会、南洋林業、播磨造船等であった。

以上のごとくラワン材が合板の主要原料として使用されるようになって合板工場は東京、清水、名古屋、大阪等のごとく港湾をひかえ、しかも消費地を近くにもつ地域に集中的に増設されることになった。

工場数の増加も激しく、昭和6年には15工場、8年に38工場、10年には125工場、12年末には北海道に44工場、樺太に1工場、東北に12工場、合計187工場にまで増加している。

このような工場増設とともに生産量もオノ段にみられるごとく昭和



6年には9750万平方尺、8年には21500万平方尺、10年には41982万平方尺、12年には78865万平方尺と急増してきている。輸出先としてはアメリカを始めイギリス、その他の諸国であった。

オノ表 合板工場数と生産量

(単位 1000平方尺)

|      | 工場数 | 内 需 向  | 輸 出 向  | チェスト向  | 合 計    |
|------|-----|--------|--------|--------|--------|
| 昭和6年 | 15  | 55000  | 12500  | 30000  | 97500  |
| 7    | 25  | 83500  | 22300  | 42500  | 148300 |
| 8    | 38  | 110000 | 45000  | 60000  | 215000 |
| 9    | 85  | 172000 | 62200  | 83150  | 317350 |
| 10   | 125 | 251310 | 72210  | 96300  | 419820 |
| 11   | 171 | 413380 | 107660 | 96600  | 617640 |
| 12   | 187 | 517850 | 155300 | 115500 | 788650 |

この時期における合板工業の特徴を技術的にみた場合、3点を指摘できる。

オノ点は、合板工業の機械類が国内において生産されるようになったこと、このことはこの期間における合板工場数の急激な増加にも一役買っているものと考えることができる。

オヌ点は、粘着剤として大豆グルクが大正8年から昭和4～5年に至るまで主に使用されていたカゼインにかわって使用されるようになったことである。さわめて高価で、しかも純輸入品であったカゼインにかわって大豆グルクが非常に廉価で使用されるようになったことは先のラワン板の輸入とともに合板の需要拡大に対して大いに貢献した。

オウの技術上の特徴として、乾燥設備の一般的普及があげられる。当初、乾燥設備は一般工場にだけ設置されていたが、この時期になってからは2、3流工場においても乾燥機または乾燥室の設備が導入されるようになった。昭和10年から12年の3カ年間に亘る乾燥設備普及の事情を数量的に示すとオヌ表のとおりである。すなわち、工場数は119工場から187工場にまでかなりの増加を示したが、乾燥設備をもち工場数の増加率はさらに大きく、60工場から109工場と大巾に増加している。

オヌ表 年度別乾燥設備普及状況

| 年 度    | 工場数 | 乾燥設備を<br>もち工場 | 乾燥機<br>合 計 | 乾燥室<br>合 計 | 1ヵ月能力<br>(1000平方尺) |
|--------|-----|---------------|------------|------------|--------------------|
| 昭和10年末 | 119 | 60            | 42         | 55         | 39000              |
| 11 "   | 173 | 93            | 62         | 189        | 66520              |
| 12 "   | 187 | 109           | 67         | 229        | 89880              |

備考) 日本合板工業会、合板50年史258頁。

工場数がオノ表と若干相違しているが、これは調査時点の相違に由りずく。

### 第3期 一 戦時経済期

一 昭和13年頃から昭和20年まで 一

昭和6年の満州事変以来くすぶりつづけていたわが国と支那との対立は、昭和12年7月7日の盧溝橋事件を契機にして、遂に支那事変の勃発をみた。支那事変はその後とどまるところを知らず、するすると広



第5表 合板生産年表

4% 英厚  
単位: 1000 平方米

(総括 - 覽表)

| 年次<br>昭和 | 工場<br>数 | 内 需 向  |        | 輸 出 向  |       | ベニヤチエスト |      | 特 許 |     | 生産<br>指数 |
|----------|---------|--------|--------|--------|-------|---------|------|-----|-----|----------|
|          |         | 数量     | 生産比    | 数量     | 生産比   | 数量      | 生産比  | 数量  | 生産比 |          |
| 13       | 38      | 37 970 | 98.45  | 9 136  | 17.71 | 4 457   | 8.64 | -   | -   | 30       |
| 14       | 39      | 47 262 | 67.14  | 19 695 | 28.01 | 3 411   | 4.85 | -   | -   | 41       |
| 15       | 40      | 54 828 | 71.81  | 14 088 | 18.45 | 7 437   | 9.74 | -   | -   | 44       |
| 16       | 41      | 53 950 | 80.32  | 10 494 | 15.68 | 2 677   | 4.00 | -   | -   | 39       |
| 17       | 42      | 22 380 | 98.10  | 1 347  | 1.90  | 3 621   | 1.50 | -   | -   | 14       |
| 18       | 43      | 20 868 | 97.05  | 528    | 2.52  | 91      | 0.43 | -   | -   | 12       |
| 19       | 44      | 20 325 | 98.83  | 240    | 1.17  | -       | -    | -   | -   | 12       |
| 20       | 45      | 8 928  | 99.77  | 19     | 0.23  | -       | -    | -   | -   | 5        |
| 21       | 46      | 16 537 | 100.00 | -      | -     | -       | -    | -   | -   | 10       |
| 22       | 47      | 24 755 | 99.99  | -      | -     | 3       | 0.01 | -   | -   | 14       |
| 23       | 48      | 26 748 | 96.84  | 379    | 1.44  | 474     | 1.72 | -   | -   | 16       |
| 24       | 49      | 34 061 | 91.39  | 2 301  | 6.12  | 911     | 2.84 | -   | -   | 19       |

|    |    |         |       |         |       |       |      |             |       |         |     |
|----|----|---------|-------|---------|-------|-------|------|-------------|-------|---------|-----|
| 25 | 50 | 33 864  | 83.48 | 3 553   | 8.77  | 1 064 | 2.63 | 2 069       | 5.11  | 40 282  | 24  |
| 26 | 51 | 55 064  | 61.91 | 10 846  | 10.09 | 1 921 | 3.03 | 9 182       | 16.17 | 56 803  | 33  |
| 27 | 52 | 61 980  | 84.87 | 5 316   | 7.27  | 1 069 | 1.46 | 4 690       | 6.40  | 73 033  | 42  |
| 28 | 53 | 73 516  | 76.71 | 14 164  | 14.78 | 1 286 | 1.34 | 6 875       | 9.17  | 95 541  | 56  |
| 29 | 54 | 83 807  | 63.19 | 40 717  | 31.70 | 2 376 | 1.79 | 5 729       | 4.32  | 132 629 | 77  |
| 30 | 55 | 108 583 | 63.06 | 57 806  | 33.57 | 1 484 | 0.87 | 4 307       | 2.50  | 172 190 | 100 |
| 31 | 56 | 138 038 | 67.72 | 64 400  | 31.59 | 1 268 | 0.62 | 144         | 0.07  | 203 850 | 118 |
| 32 | 57 | 158 342 | 64.80 | 81 619  | 53.18 | 1 722 | 0.70 | 3 234       | 1.32  | 244 367 | 142 |
| 33 | 58 | 177 961 | 66.73 | 85 137  | 51.92 | 2 179 | 0.82 | 1 425       | 0.53  | 266 702 | 155 |
| 34 | 59 | 212 715 | 65.79 | 106 378 | 32.90 | 2 538 | 0.79 | 1 670       | 0.52  | 323 361 | 188 |
| 35 | 60 | 253 358 | 70.98 | 100 786 | 28.24 | 2 777 | 0.78 | (輸出に<br>含む) | -     | 356 921 | 207 |
| 36 | 61 | 302 281 | 95.66 | 94 235  | 28.59 | 8 024 | 0.75 | -           | -     | 399 520 | 282 |
| 37 | 62 | 354 113 | 76.63 | 104 969 | 22.10 | 3 102 | 0.67 | -           | -     | 467 124 | 268 |

(備考) (1) 内需の数量は生産即消費とみなす。

(2) 指数 = 30年を100とする。

(3) 二次加工合板は含んでいない。

(4) 自家消費量は含まない。

(5) 本表は日本合板工業組合、統計と資料より引用。



しの荒涼の中に足をふみ入れ、昭和16年には太平洋戦争に突入し、最後には悲惨な広島、長崎における原爆の投下をもって昭和20年8月に敗戦をむかえたのであった。この期間における合板工業の展開はどうであったろうか。

昭和12年7月における支那事変の勃発とともに、同年9月、輸出入品等に関する臨時措置法が公布され、木材は羊毛、棉花等とともに輸入制限または禁止をうけることになった。

木材については、甲—輸入の制限をすべきもの、乙—輸入を禁止すべきもの—の二者に分れ、前者の品目としては一般用材、後者の品目としては、特殊用材、すなわち、いわゆる銘木である紫檀、黒檀および木材加工品があげられている。この結果、主なる輸入材であった米材と南洋材とが制限されたので木材市場は大きな影響をうけることになった。この結果、オノ表に示されるごとく昭和12年の後半期から翌13年にかけて、合板工業は一時収縮の傾向を示したが、13年後半期以降、日本軍の大陸進出にともなう、いわゆる円ブロックとリわけ満州、南東州および北支に強い需要があらわれ、その後、昭和16年まで合板工業創設以来みられなかったほどの盛況を示したのであった。オノ表にみられるごとく昭和16年における工場数は22、総生産量は4,692万平方メートル（15年には最高の7,635万平方メートル）となっている。このうち輸出は1,049万平方メートルに達している。しかしながら、ここで十分注意されなくてはならないことは、この輸出先は主に戦争遂行のための円ブロックであったことである。

その後、昭和16年12月に太平洋戦争に突入するに及んで合板工業界の様相は大きく変化した。そのオノの点は、南洋材の輸入が杜絶

したこと、オノの点は、戦争の進展とともに一般の民衆が強く制限されたことである。オノの点は、昭和18年頃よりミナミなどの長距離爆撃機による都市空襲による工場被害、合板工場の前方占領地への送出（東京において最大工場の1つであった日進ベニヤのマレイ移転を始め、いくつかの工場が移転をおこなっている）等がおこなわれたこと、などである。

かくて生産は昭和20年まで一路減少傾向を示し、20年には875万平方メートルと激減するに至った。しかし戦時下においては、「航空機工業あるいはその他の部門において、高級な合板が要求された結果、石炭酸系樹脂接着剤等の合成樹脂接着剤の導入がおこなわれ、ホットプレスが漸次完備されて品質的にかなりすぐれたものが生産されるようになったこと」（注6）は注目されるべきである。

#### カ4期 — 合板工業復旧期

##### — 敗戦より昭和27年まで —

戦後における日本経済の足どりは、敗戦より27年までと、それ以降とに大別して考えることができる。27年以前の日本経済、とりわけ24年以前においては戦後の復興を主軸とする復旧経済の時期であった。

合板工業においても一般経済にみけると同じく、27年までは復旧時代と考えることができる。

敗戦により東京、清水、名古屋、大阪等の主要合板工場は壊滅に類し、ただ北海道、東北、長野、岐阜、山陰各地等にのみ工場が残存していた。



しかし急速な勢いで、壊滅工場は新設にありだし、また残存工場は増設に努力し、21年から23年にかけて工場数は激増した。

しかし昭和24年頃までは戦後の激しい経済混乱期であり、21年に原料面においては国産材の供給ならびに南洋材輸入に制限があったこと（昭和24年までは木材統制法が実施されていた）、22年に、設備としては、なお戦時中の劣悪なものを多く使用していたこと（たとえば現在一般にみられるホットプレス・ロール・ドライヤー等の設備はあまり使用されていなかった）、23年に、戦前、主要な接着剤として使用されていた大豆グルーは支那、満州より輸入が杜絶されて使用されなくなり、昭和24、25年頃から一般に使用されるようになった尿素樹脂接着剤も、まだ登場せず、ビスコース接着剤、アメリカから輸入されたモヤスコグルー等が用いられたが、しかし一般に接着剤は高価でなかったこと、等により合板生産量は24年に至っても3000万平方メートルといった低調な段階にとどまっていた。

以上のごとく敗戦より昭和24年までの時期は、生産が低調であったことと、さらに粗製乱造であったことを指摘しよう。

ところが昭和25年6月に朝鮮争変が勃発し、急激に特需があらわれ、さらに民間貿易が再開され（昭和25年に木材統制法廃止）、26年より南洋材が多量に輸入されるようになって、合板生産量は27年に、戦前の昭和14、15年水準の2300万平方メートルに達した。

また工場立地としては、主要原料として南洋材を使用する関係上、合板工場の主流は山元から港湾都市に移転集中し、東京、静岡、名古屋、大阪の近海隣接地域に、工場数からいって全体の50%、生産量からいって全生産量の80%以上が集中し、同時に大規模化の傾向を

示してきている。

## 第5期 — 本格的発展期

2次発展期 — 昭和28年以降より34年頃まで —

昭和28年以降における日本経済は、設備投資の増加と金融引き締めによるデフレ・ダウンとにより交互にありまぜた景気循環過程、つまり、投資増加 → 景気好転 → ブーム → 金融引き締め → 景気後退、といった景気変動をともないながら、趨勢としては技術革新と消費革命とが経済成長の基盤となって進展してきているのである。

具体的に昭和28年以降の景気変動についてふれるならば、28年の投資ブーム、31年の神武景気、34年の岩戸景気といった具合に強いブームを4度にわたって経験している。しかもいずれのブームの場合にも国際収支が悪化し、それに対応するデフレ政策が実施され景気後退がつついている。しかし趨勢としてはわが国の経済は28年の総所得56,500億円、29年59,800億円、33年83,600億円、34年96,700億円、35年114,700億円と経済成長の道を直進してきている。

以上のような日本経済全体の進展の中において合板工業もほぼ同じような景気変動の波を画いて推移してきているが、趨勢としては急速に一路発展してきているのである。しかし合板工業をめぐる経済条件の変遷とそれに対応しての合板工業自体の質的変化を考える時、28年から34年に至る期間とそれ以降現在に至る2つの期間に大別してみることが必要であるように思われる。

ここではまず前期の2次発展期についてふれる。



表4-4 合板輸出数量および金額

| 年度    | ラワン材合板            |          | 国産材合板             |         | 合 計               |          |
|-------|-------------------|----------|-------------------|---------|-------------------|----------|
|       | 数量 m <sup>2</sup> | 金額 千円    | 数量 m <sup>2</sup> | 金額 千円   | 数量 m <sup>2</sup> | 金額 千円    |
| 昭和25年 | 2875540           | 413022   | 1174482           | 201198  | 4050022           | 614220   |
| 26    | 9510035           | 2258294  | 3444590           | 795982  | 12954625          | 3054056  |
| 27    | 4391913           | 785555   | 991523            | 296286  | 5383436           | 1081841  |
| 28    | 11948940          | 2544785  | 2629629           | 879668  | 14578569          | 3424453  |
| 29    | 36392388          | 7423608  | 44811946          | 1712372 | 41209134          | 9185980  |
| 30    | 50448991          | 9991902  | 8085689           | 3161546 | 58534680          | 13153278 |
| 31    | 51968395          | 10315068 | 13145649          | 5094825 | 65114024          | 15389833 |
| 32    | 65864812          | 13257611 | 16150192          | 6558474 | 82015504          | 19816085 |
| 33    | 69666348          | 13615493 | 16464638          | 6372201 | 86130980          | 19987494 |
| 34    | 85671442          | 19180898 | 19445455          | 8334561 | 105116896         | 27515457 |
| 35    | 28614136          | 13805272 | 19793019          | 8925317 | 48407182          | 22531044 |
| 36    | 27716040          | 13971316 | 18510471          | 7146234 | 46226491          | 21117550 |
| 37    | 42941952          | 18231523 | 21301009          | 8659964 | 64242961          | 26391270 |

備考) 日本合板工業組合、合板工業の現況、2頁より引用。右の数字とかなりの差があるのは統計方法の相違によるものと推測される。

この期間においては前述のごとく一般の景気変動に対応してかなりの景気変動の波を画いたといっても趨勢的には強い国内需要の伸びと(右表にみられるごとく昭和28年には73516000平方メートル、30年には108588000平方メートル、32年には154342000平方メートル、34年には212715000平方メートルと一路急増してきている)。輸出の増大(右表に示されるように昭和28年14576000平方メートル、30年58505000平方メートル、32年82015000平方メートル、34年105117000平方メートルと激しく漸増してきている。

合板工場数も昭和28年170 30年171 32年223 34年218 と、傾向としては漸増を示している。

#### 第2次発展期 — 昭和34年頃より現在まで —

昭和34年頃より現在に至る第2次発展期も趨勢としては発展の道を辿ってきており、この点では第1次発展期と同じであるが、しかし前述のごとく、それをめぐる経済条件およびその質的性格においておおきな相違を示してきているのである。

まず発展の様相についてであるが、右表にみられるように総生産量は昭和24年に95841000平方メートル、30年に172190000平方メートル、32年に244367000平方メートル、34年に323301000平方メートル、37年に462124000平方メートルと逐年急増してきているし、また工場数は昭和28年に170 30年に171 32年に223 34年に218 37年に236と、これもまた増加傾向を示してきている。

しからは如何なる点において様相の変化を示しているのだろうか。その点の支観は、輸出、とりわけアメリカ向け輸出の停滞であり



オヌに、それに対応しての国内合板市場の開発、とりわけ二次加工合板市場の積極的な開発があげられ、オヌに商社が一層顕著な市場侵出が指摘され、最後に原木入手における困難性の問題の4つがあげられる。以下これらの事項について説明を加えてみる。

まずオノの合板輸出、とりわけアメリカ向け輸出の停滞についてであるが、オヌ表にみられるように合板の輸出は昭和28年以降急速に伸びてきたが、34年をピークとして以降やや停滞気味に推移してきている。38年に入ってもフワン材合板は依然として不振であり、国産材合板のみが好調な伸びをみせている。

合板の国別輸出数量の推移はオヌ表およびオノ図に示されるごとく、なんといってもアメリカが最高で、全体の過半を占め、ついでイギリス、カナダ、その他の順序となっている。国別輸出シェアの年次的推移をみると、34年には全輸出量の約61%であったアメリカ向け輸出が毎年そのウエイトを増し、37年には約75%を占めるようになった。それとともにイギリス、その他向けのウエイトはおちてきている。

以上のごとく、輸出国別シェアにおいてアメリカのウエイトは高くなるはなっているが、しかしアメリカの合板市場におけるわが国のシェアそのものは漸次フィリッピン、台湾等に蚕食されて減少してきている。

以下具体的にみる。

アメリカは世界の合板の50%以上を生産しており、生産量も連年増加しているが、需要の伸びはさらに大きく、アメリカは合板輸入においての世界オノの地位を占めている。そして輸入量は著実に増加し

大 5 表 ・ 国 別 輸 出 数 量

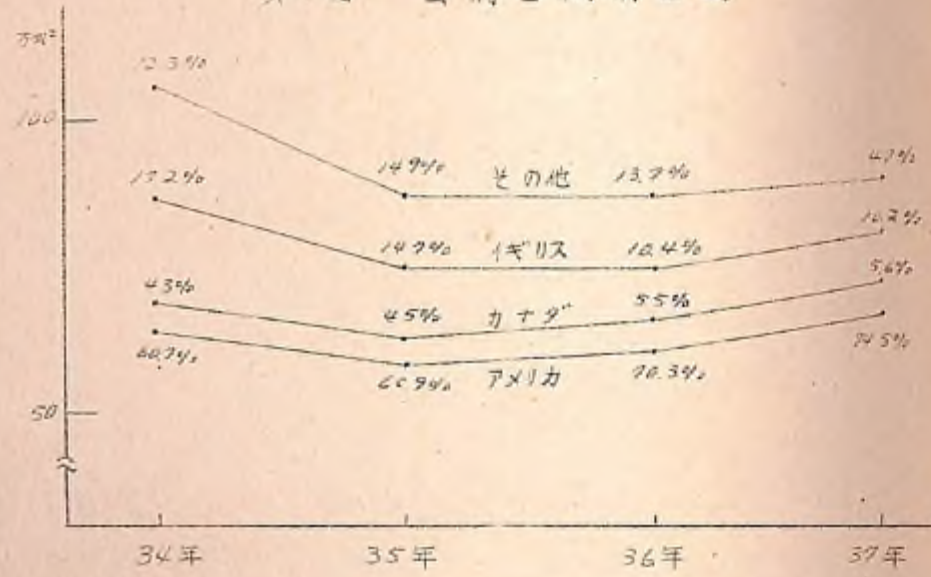
(単位:1,000 m<sup>2</sup>)

| 年 別<br>国 別             | 昭 和 35 年                        |                       |        | 昭 和 36 年                        |                       |        | 昭 和 37 年                        |                       |        |
|------------------------|---------------------------------|-----------------------|--------|---------------------------------|-----------------------|--------|---------------------------------|-----------------------|--------|
|                        | ラ<br>フ<br>ワ<br>ン<br>材<br>合<br>板 | 国<br>産<br>材<br>合<br>板 | 合<br>計 | ラ<br>フ<br>ワ<br>ン<br>材<br>合<br>板 | 国<br>産<br>材<br>合<br>板 | 合<br>計 | ラ<br>フ<br>ワ<br>ン<br>材<br>合<br>板 | 国<br>産<br>材<br>合<br>板 | 合<br>計 |
| ア<br>メ<br>リ<br>カ       | 43,225                          | 15,000                | 58,225 | 45,865                          | 14,804                | 60,669 | 48,232                          | 18,349                | 67,186 |
| カ<br>ナ<br>ダ            | 3,816                           | 275                   | 4,091  | 4,095                           | 804                   | 4,899  | 4,229                           | 655                   | 4,734  |
| イ<br>ギ<br>ス            | 10,193                          | 2,820                 | 13,013 | 7,136                           | 1,845                 | 8,980  | 7,121                           | 1,433                 | 9,154  |
| 独<br>逸                 | 1,448                           | 9                     | 1,457  | 156                             | 6                     | 162    | 33                              | 12                    | 45     |
| ギ<br>リ<br>シ<br>ヤ       | 1,565                           | 28                    | 1,593  | 1,026                           | 8                     | 1,033  | 503                             | 14                    | 517    |
| オ<br>ス<br>ト<br>リ<br>ヤ  | 941                             | 17                    | 958    | 2,127                           | 92                    | 2,219  | 458                             | 13                    | 471    |
| 琉<br>球                 | 868                             | 29                    | 896    | 1,404                           | 20                    | 1,424  | 1,126                           | 59                    | 1,215  |
| 香<br>港                 | 457                             | 282                   | 739    | 265                             | 335                   | 1,203  | 494                             | 466                   | 958    |
| シン<br>ガ<br>ポ<br>ー<br>ル | 801                             | 129                   | 930    | 1,111                           | 84                    | 1,195  | 145                             | 55                    | 200    |
| 計<br>(その他の他)           | 68,114                          | 19,293                | 88,407 | 42,716                          | 18,510                | 61,226 | 68,193                          | 21,285                | 89,918 |

(備考) 37年は粗集計のためオヌ表の数と若干相違している。

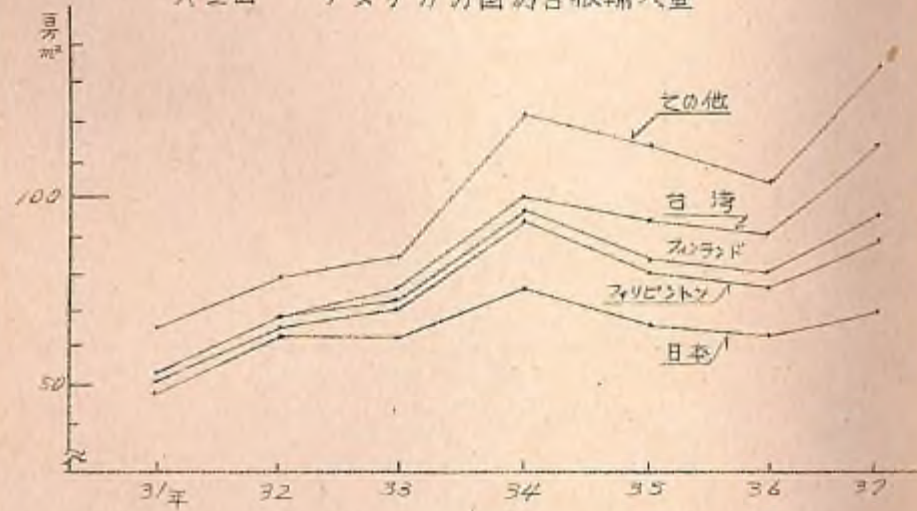


大ノ四 国別合板輸出量



備考) 日本合板工業組合 合板工業の現況 14頁より。

大2回 アメリカの国別合板輸入量



備考) 同上 頁より。

大2回 アメリカの国別合板輸入量

| 年次<br>輸出国名 | 昭和31年    |         | 32       |         | 33       |         | 34       |         | 35       |         | 36       |         | 37       |         |
|------------|----------|---------|----------|---------|----------|---------|----------|---------|----------|---------|----------|---------|----------|---------|
|            | 数量<br>千枚 | 比率<br>% | 数量<br>千枚 | 比率<br>% | 数量<br>千枚 | 比率<br>% | 数量<br>千枚 | 比率<br>% | 数量<br>千枚 | 比率<br>% | 数量<br>千枚 | 比率<br>% | 数量<br>千枚 | 比率<br>% |
| 日本         | 48,410   | 94.5    | 42,416   | 80.3    | 61,494   | 23.5    | 72,460   | 61.0    | 23,305   | 67.2    | 61,359   | 59.5    | 68,756   | 51.0    |
| フィリピン      | 1,369    | 2.1     | 3,049    | 3.9     | 8,961    | 10.7    | 19,612   | 16.1    | 10,921   | 11.6    | 14,232   | 13.8    | 19,822   | 14.8    |
| 台湾         | 38       | 0.0     | 308      | 0.4     | 2,136    | 2.6     | 3,423    | 2.8     | 4,185    | 4.4     | 10,115   | 9.8     | 19,742   | 14.6    |
| フランス       | 3,111    | 4.8     | 2,027    | 2.6     | 2,219    | 2.7     | 4,290    | 3.5     | 4,478    | 4.8     | 3,992    | 3.9     | 5,931    | 4.4     |
| その他        | 11,901   | 18.6    | 9,895    | 12.8    | 9,888    | 10.5    | 20,366   | 16.6    | 11,274   | 12.0    | 13,438   | 13.0    | 26,512   | 15.2    |
| 合計         | 60,827   | 100.0   | 97,905   | 100.0   | 83,688   | 100.0   | 122,751  | 100.0   | 94,163   | 100.0   | 103,116  | 100.0   | 134,864  | 100.0   |



てきている。しかしアメリカの合板輸入量中に占めるわが国のシェアは傾向としてはオム表にみられるごとく、昭和32年の80.3%をピークにして急減の動向を示している。また数量についてみると、オム表ならびにオム図に示されるごとく昭和34年の74460平方メートルをピークにして漸減の傾向をあらわしている。

こういった合板輸出の停滞傾向は大きくいって2つの問題、すなわち合板工業界にとっては販路の狭小化問題、またわが国の経済にとっては外貨獲得の減少問題をなげかけたのである。

ここは後者の問題の経済的重要性を示すためにわが国の輸出中に占める合板のウェイトについて一顧しておこう。

オム表にみられるごとく昭和37年の合板輸出額は約900万平方メートル、6,800万ドル（約244億円）で幾輸出品目のうち金額で14番目に位置している。わが国における経済発展の基本問題の1つは輸出の振興にあるといっても過言ではないことからして、合板工業の合理化問題はわが国の経済発展上かなり重視されるべきことが知られよう。

ここに本題にふどり、次に以上のごとく昭和33、34年頃よりみられた合板輸出の停滞は、一時わが国の合板工業界に暗雲をみせたが、業界ではこの情勢に対応して、積極的な国内合板市場の開発にのりだした。

この市場開発の方向は、地方市場への積極的な進出と、合板の二次加工化への努力とであった。

前者の地方市場への積極的な進出は、合板問屋においてだけでなく、商社においてもみられ、具体的には従来まで主として商社→都市の合板問屋→地方の合板問屋ないし小売商といった流通経路を辿って

オム表 昭和36、37年における輸出実績

(単位100万ドル)

| 品目         | 37年実績                           |      |    |      | 36年実績                           |      |    |     | 前年比 |
|------------|---------------------------------|------|----|------|---------------------------------|------|----|-----|-----|
|            | 数量                              | 金額   | 順位 | %    | 数量                              | 金額   | 順位 | %   |     |
| 鉄鋼         | 3872 <sup>100トン</sup>           | 533  | 1  | 10.8 | 2303 <sup>1000トン</sup>          | 380  | 1  | 9.0 | 140 |
| 綿織物        | 1211 <sup>1003M</sup>           | 341  | 2  | 6.9  | 1180 <sup>1003M</sup>           | 342  | 2  | 8.2 | 98  |
| 魚介類        | 364000 <sup>トン</sup>            | 245  | 3  | 5.0  | 297000 <sup>トン</sup>            | 163  | 5  | 3.8 | 151 |
| 船舶         | 954000 <sup>トン</sup>            | 233  | 4  | 4.7  | 1068000 <sup>トン</sup>           | 228  | 3  | 6.6 | 84  |
| 衣類         |                                 | 204  | 5  | 4.1  |                                 | 191  | 4  | 4.5 | 107 |
| ラジオ受信機     | 19351 <sup>1000台</sup>          | 178  | 6  | 3.6  | 18102 <sup>1000台</sup>          | 160  | 6  | 3.8 | 111 |
| 金属製品       |                                 | 176  | 7  | 3.6  |                                 | 159  | 7  | 3.8 | 111 |
| 自動車        | 21000 <sup>台</sup>              | 112  | 8  | 2.3  | 57000 <sup>台</sup>              | 108  | 8  | 2.5 | 103 |
| 光学機器       |                                 | 106  | 9  | 2.2  |                                 | 84   | 10 | 2.0 | 127 |
| スフ織物       | 47500 <sup>3M<sup>2</sup></sup> | 95   | 10 | 1.9  | 51300 <sup>3M<sup>2</sup></sup> | 104  | 9  | 2.5 | 92  |
| がん具        | 73000 <sup>トン</sup>             | 90   | 11 | 1.8  | 72000 <sup>トン</sup>             | 83   | 11 | 2.0 | 108 |
| 織機機械       |                                 | 73   | 12 | 1.5  |                                 | 58   | 13 | 1.4 | 127 |
| 人絹織物       | 26000 <sup>3M<sup>2</sup></sup> | 70   | 13 | 1.4  | 24900 <sup>3M<sup>2</sup></sup> | 57   | 15 | 1.3 | 124 |
| 合板         | 8900 <sup>3M<sup>2</sup></sup>  | 68   | 14 | 1.4  | 8600 <sup>3M<sup>2</sup></sup>  | 59   | 12 | 1.4 | 115 |
| 陶磁器        |                                 | 65   | 15 | 1.3  |                                 | 57   | 14 | 1.3 | 114 |
|            |                                 |      |    |      |                                 |      |    |     |     |
|            |                                 |      |    |      |                                 |      |    |     |     |
| 計<br>(その他) |                                 | 4917 |    | 100  |                                 | 4236 |    | 100 | 116 |



いたものが、商社 → 地方の合板内産ないし小売商といった流通形態もあらわれるようになった。

後者の二次加工化への努力についてであるが、昭和34年頃より急速に推進され、各種の新製品が市場に出回るとともに、強い需要の増加に支えられて生産量も普通合板の生産量の増加割合を遙かに上回る比率を急増した。

すなわち、オ8表にみられるごとく、昭和37年1月以降38年12月に至る二次加工合板全体の生産量の増加は（これ以前の資料は入手できない、ということは二次加工合板の生産の新しいことを反映しているわけでもある）、37年1カ年平均を100とした場合、37年1月が87であり、その後一挙増加の傾向を示し、3月に100、6月に110、12月に147、38年3月に154、6月に184、12月に217となっている。年平均でみると38年に161で、約60%の増加率を示している。

次にそれぞれの二次加工合板の増加率についてみるが、この前に昭和38年に例をとって全二次加工合板のうちに占めるそれぞれの二次加工合板の比率についてみると、化粧ばり合板が32,273,000平方メートルで29.9%、一種プリント合板が39,452,000平方メートルで36.6%、オーバーレイ合板が19,320,000平方メートルで17.9%、塗装合板が16,840,000平方メートルで15.6%を占めている。

これをもてし知りうるように、一種プリント合板が数量的に最も多く、ついで化粧ばり合板、オーバーレイ合板、最後に塗装合板の順になっている。そしてプリント合板と化粧ばり合板とで全体の約67%と過半を占めていることは充分注目されるべきである。

これらの二次加工合板の増加率を年平均でみると、それぞれの37年平均生産量を100とした場合、プリント合板は232、ついでオーバーレイ合板が168、塗装合板が128、化粧ばり合板が127であり、このそれぞれの増加率と既述の占有率とを斟酌してみると、プリント合板の重要性の高いことが察知される。

以上のごとく輸出の停滞がすくなくともノアの刺激因ともなって展開されたと考えられる二次加工合板の生産と販売の増加動向は、合板市場構造のどこかで一層詳しく再述するが、商社資本の進出を促し、二次加工系の商社資本への系列化を生み、販売面の支配を強く受けるような事態を生ずるようになった。

この理由として、

- ① 業者が二次加工合板の製造機械の購入にあたって多額の資本を必要としたこと。
  - ② 新しい製品の生産と販売に当って生ずる危険負担を分散しようとしたこと。
  - ③ 二次加工合板は、おしなべて普通合板より利ざやが大きく、商社側にとって魅力があったこと。
  - ④ 二次加工合板は不況等よりも製品規格が統一されており、商社側にとってその取扱いが容易であったこと。
  - ⑤ これは二次加工合板だけではないが、原木の調達は大勢商社の手を通じていること、
- などが考えられる。

以上が二次発展期にみられるものの特徴であるが、最後に原木入手における困難性増大の問題についてふれる。



オオ板 ニ、加工合板生産実績（昭和37～38年）〔単位：1000平方メートル〕

| 区分<br>年月   | 化粧板   |       | 一種プリント合板 |       | オーバーレイ合板 |       | 塗装合板  |       | 計     |
|------------|-------|-------|----------|-------|----------|-------|-------|-------|-------|
|            | 枚     | 量     | 枚        | 量     | 枚        | 量     | 枚     | 量     |       |
| 37/1       | 1824  | 88    | 889      | 89    | 520      | 65    | 1090  | 100   | 4323  |
| 2          | 1926  | 93    | 942      | 94    | 566      | 69    | 995   | 91    | 4429  |
| 3          | 2098  | 100   | 997      | 100   | 820      | 100   | 1097  | 100   | 4992  |
| 4          | 2027  | 99    | 1133     | 114   | 974      | 94    | 1069  | 97    | 5003  |
| 5          | 2053  | 99    | 1287     | 129   | 832      | 101   | 1056  | 96    | 5228  |
| 6          | 2154  | 104   | 1394     | 140   | 917      | 112   | 1032  | 94    | 5497  |
| 7          | 2199  | 105   | 1340     | 134   | 990      | 121   | 914   | 83    | 5423  |
| 8          | 2053  | 99    | 1463     | 147   | 1028     | 125   | 890   | 79    | 5414  |
| 9          | 2027  | 99    | 1575     | 158   | 1271     | 155   | 1063  | 97    | 5936  |
| 10         | 2128  | 102   | 1855     | 186   | 1306     | 159   | 1238  | 113   | 6527  |
| 11         | 2407  | 116   | 1965     | 197   | 1260     | 154   | 1197  | 109   | 6829  |
| 12         | 2483  | 119   | 2130     | 214   | 1271     | 155   | 1449  | 132   | 7353  |
| 1-12<br>平均 | 25939 | (100) | 16970    | (100) | 11555    | (100) | 13070 | (100) | 66934 |
| 1-12<br>平均 | 2691  | 129   | 1414     | 142   | 9629     | 117   | 1089  | 99    | 5598  |

|            |       |       |       |       |       |       |       |       |        |       |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|
| 38/1       | 2034  | 98    | 2124  | 213   | 1207  | 147   | 1303  | 119   | 6668   | 134   |
| 2          | 2216  | 107   | 2158  | 216   | 1296  | 158   | 1295  | 116   | 6945   | 139   |
| 3          | 2270  | 107   | 2477  | 270   | 1396  | 170   | 1339  | 122   | 7702   | 154   |
| 4          | 2319  | 112   | 2935  | 294   | 1447  | 176   | 1384  | 126   | 8085   | 162   |
| 5          | 2549  | 124   | 2995  | 298   | 1482  | 181   | 1271  | 116   | 8297   | 166   |
| 6          | 3058  | 147   | 3312  | 332   | 1510  | 184   | 1299  | 118   | 9179   | 184   |
| 7          | 3170  | 153   | 3590  | 340   | 1522  | 186   | 1309  | 119   | 9391   | 188   |
| 8          | 2927  | 131   | 3350  | 336   | 1604  | 186   | 1359  | 124   | 9040   | 181   |
| 9          | 2918  | 140   | 3804  | 389   | 1792  | 219   | 1500  | 137   | 10084  | 202   |
| 10         | 2868  | 139   | 4175  | 419   | 1946  | 237   | 1697  | 155   | 10706  | 214   |
| 11         | 2998  | 144   | 4325  | 434   | 2132  | 260   | 1589  | 143   | 11024  | 221   |
| 12         | 3126  | 150   | 4187  | 415   | 2056  | 251   | 1535  | 140   | 10854  | 217   |
| 1-12       | 32293 | (129) | 39452 | (122) | 19390 | (118) | 16840 | (129) | 107905 | (161) |
| 1-12<br>平均 | 2691  | 129   | 3298  | 330   | 1616  | 197   | 1403  | 128   | 8948   | 180   |

備考) 1. 本資料は、製材有統計調査所資料および本会資料を基礎とする。

2. 本資料は、一部推定数量を含む。

3. 化粧板は、一種プリント合板は、特殊合板の日本製板規格（JAS）の分類による。

4. 一種プリント合板は、輸出用プレミナルを含む。

5. 塗装合板生産数量には、輸出用プレミナルを含む。



わが国の合板工業において使用されている原木は 国産広葉樹、主としてヒノ、シナ、カバ、タモ、ブナ等の南方産広葉樹、つまりラワン類の二者である。

ラワン類は多量に入手でき、しかも加工が容易である点において合板工業原料として最適であり、逆にいってわが国の合板工業がここまですべて進歩してきたのはラワン材の輸入によっていると考えることができる。

昭和30年以降現在に至る合板用原木の消費量は次のとおりであり、総消費量のうちラワン材の占める割合は約75%〜86%となっており、その重要性の大きいことが知られよう。そして傾向としては外材の占めるウェイトは高まり、国産材のウェイトはそれだけ低下

次の表 合板原木消費量

(単位1000M<sup>3</sup>)

| 項目<br>年次 | ラワン材<br>総輸入量 | 合板原木消費量 |     |      |     |
|----------|--------------|---------|-----|------|-----|
|          |              | 総消費量    | 国産材 | 輸入材  |     |
| 昭和30年    | 1850         | 1682    | 399 | 1293 | 77% |
| 31       | 2313         | 1735    | 431 | 1304 | 75% |
| 32       | 2457         | 2058    | 462 | 1596 | 78% |
| 33       | 3303         | 2392    | 505 | 1887 | 79% |
| 34       | 4230         | 2821    | 658 | 2363 | 84% |
| 35       | 4568         | 3010    | 509 | 2501 | 83% |
| 36       | 5549         | 3250    | 515 | 2735 | 84% |
| 37       | 6343         | 3867    | 529 | 3340 | 86% |

してきているように思われる。

ラワン材の国別輸入比率は、昭和35年に例をとってみると、フィリッピン 76%、英領ボルネオ 22%、その他 2% といった具合であり、ラワン材輸入においてフィリッピンが如何にウエイトが高いかが知られよう。

ところでラワン材の主産地であるフィリッピンの資源も無尽蔵というわけではなく、伐採地域も漸次、奥地に移行しつつあり、材質も年々低下の傾向を示すとともに生産費も漸増してきている。さらにフィリッピンでは国内の工業化を目指し、製材ならびに合板工場の新增設をすすめる。原木については丸太の輸出を禁止ないしは制限しようとしてきている。なお、昭和37年においてはわが国の港において再び寸板し、出石をチェックしようとする揚げ地再寸板の問題も登場して、フィリッピンよりの原木輸入の前途に暗雲をなぜかけている。こういった情勢を背景にして、わが国では将来における円滑なラワン材の確保を計るために、現在、カリマンタンの開発等に努力していることは、衆知のところであろう。

このように原木入手の困難性は、一次発展期よりも二次発展期において、さらにまた将来において一層強くなっていくように思われる。

(注2) 榎西光遠、大島清、加藤俊彦、大内刀 共著

資本主義の発達 108頁

(注3) 日本合板工業会 合板50年史 6頁

(注4) 朝日ベニヤ工業株式会社

改定年報一冊 第10号 3〜4頁



(注5) 前掲(注4) 6頁

(注6) 中小企業庁

合板工業合理化指針 3頁

### 3. 合板市場の構造

#### 3-1 合板流通の概況

市場というのは、一般にたくさんの需要者と供給者が物財の交換、もしくは売買をおこなう場所であると考えることができる。さらにいいかえれば市場とは、需給の置遇する場所をさすのである。したがって市場は、需給を前提としておこなわれる。

合板市場も、その例外ではなく、合板需給を前提とし、その流通によって形成される。

そこでまず地域間における合板(正確には普通合板)の需給ならびにその流通についてふれる。

合板の流通は表10表にみられるごとく、激しい交错的流通がおこなわれている。とりわけ北海道、東京、静岡、名古屋ならびに大阪において顕著である。

ともあれ、この表からみられるように、多量の合板の流通がおこなわれている地域、いいかえれば大きな合板市場としては東京、大阪ならびに名古屋の3市場をあげることができる。

これを具体的に示すためにそれぞれの市場における合板の生産量と消費量とをみると、東京市場では9182万平方メートル(全体の26%)を生産し、10,960万平方メートル(全体の39%)を消費し、大阪市場では3826万平方メートル(11%)を生産し、4343万平方メートル(10%)を消費し、名古屋市場では2496万平方メートル(27%)を生産し、5519万平方メートル(敷居には要知であり19%)を消費している。



表 10 板 合 板 の 地

| 出荷地区<br>57年度 平均出荷 | 北 海 道                  | 東 北                     | 東 京                     | 静 岡                     |
|-------------------|------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|
| 消費地区              | ( 24 )<br>8 281 147    | ( 84 )<br>29 236 313    | ( 26.8 )<br>91 217 390  | ( 12.5 )<br>24 011 901  |
| 北 海 道             | 1 980 850<br>( 23.92 ) | 4 943 861<br>( 16.91 )  | 1 689 440<br>( 1.84 )   | 3 454 935<br>( 7.85 )   |
| 東 北               | 14 078<br>( 0.17 )     | 14 255 626<br>( 48.76 ) | 3 323 990<br>( 3.62 )   | 10 153 547<br>( 23.07 ) |
| 東 京<br>(東京を除く)    | 42 203<br>( 0.57 )     | 891 708<br>( 3.05 )     | 2 763 703<br>( 3.01 )   | 1 892 512<br>( 4.30 )   |
| 東 京               | 3 280 162<br>( 39.61 ) | 7 279 842<br>( 24.90 )  | 81 194 118<br>( 88.43 ) | 7 688 880<br>( 17.47 )  |
| 北 陸               | 79 479<br>( 0.96 )     | 362 530<br>( 1.24 )     | 587 631<br>( 0.64 )     | 3 199 666<br>( 7.27 )   |
| 中 部<br>(静岡・愛知を除く) | —<br>( — )             | 423 927<br>( 1.45 )     | 560 086<br>( 0.61 )     | 1 232 333<br>( 2.80 )   |
| 静 岡               | 154 029<br>( 1.86 )    | 111 098<br>( 0.38 )     | 293 816<br>( 0.32 )     | 11 368 275<br>( 25.83 ) |
| 愛 知               | 596 243<br>( 7.20 )    | 882 937<br>( 3.02 )     | 174 453<br>( 0.19 )     | 1 813 291<br>( 4.12 )   |
| 近 畿<br>(大阪を除く)    | 194 318<br>( 2.165 )   | —<br>( — )              | 45 909<br>( 0.05 )      | 484 131<br>( 1.10 )     |
| 大 阪               | 1 787 072<br>( 21.58 ) | 84 784<br>( 0.29 )      | 918 174<br>( 1.00 )     | 1 223 531<br>( 2.78 )   |
| 山 陰・山 陽           | —<br>( — )             | —<br>( — )              | 45 909<br>( 0.05 )      | 448 721<br>( 1.02 )     |
| 四 国               | 60 038<br>( 0.725 )    | —<br>( — )              | 91 817<br>( 0.10 )      | 338 892<br>( 0.77 )     |
| 九 州               | 107 655<br>( 1.30 )    | —<br>( — )              | 128 544<br>( 0.14 )     | 712 992<br>( 1.62 )     |
| 計                 | ( 100 - )              | ( 100 - )               | ( 100 - )               | ( 100 - )               |

域 間 流 通 状 況

| 名古屋                     | 大 阪                     | 中 国                    | 九 州                     | 計                        |
|-------------------------|-------------------------|------------------------|-------------------------|--------------------------|
| ( 22.1 )<br>94 962 439  | ( 11.0 )<br>38 257 062  | ( 5.5 )<br>19 344 260  | ( 6.8 )<br>24 104 225   | ( 100.0 )<br>350 014 942 |
| 2 962 828<br>( 3.12 )   | 313 708<br>( 0.82 )     | —<br>( — )             | 65 081<br>( 0.27 )      | 15 410 703<br>( 5.38 )   |
| 161 436<br>( 0.17 )     | 428 499<br>( 1.12 )     | 580 328<br>( 3.00 )    | —<br>( — )              | 28 919 284<br>( 9.51 )   |
| 2 117 662<br>( 2.23 )   | 110 945<br>( 0.29 )     | —<br>( — )             | —<br>( — )              | 7 823 733<br>( 2.31 )    |
| 9 315 815<br>( 9.81 )   | 470 562<br>( 1.23 )     | —<br>( — )             | 373 615<br>( 1.55 )     | 109 602 994<br>( 38.44 ) |
| 8 546 620<br>( 8.00 )   | 5 182 988<br>( 8.32 )   | —<br>( — )             | —<br>( — )              | 15 958 934<br>( 3.44 )   |
| 1 443 429<br>( 1.52 )   | 26 980<br>( 0.07 )      | —<br>( — )             | —<br>( — )              | 3 686 555<br>( 0.98 )    |
| 797 684<br>( 0.84 )     | —<br>( — )              | —<br>( — )             | —<br>( — )              | 12 924 902<br>( 4.31 )   |
| 51 628 559<br>( 54.42 ) | —<br>( — )              | —<br>( — )             | 40 999<br>( 0.17 )      | 55 186 460<br>( 18.86 )  |
| 3 513 610<br>( 3.70 )   | 5 929 209<br>( 13.95 )  | 526 164<br>( 2.72 )    | 1 385 993<br>( 5.75 )   | 11 459 334<br>( 2.62 )   |
| 10 787 733<br>( 11.36 ) | 25 498 332<br>( 66.65 ) | 2 766 229<br>( 14.30 ) | 361 563<br>( 1.50 )     | 43 427 418<br>( 10.38 )  |
| 2 051 189<br>( 2.16 )   | 1 296 914<br>( 3.39 )   | 8 755 212<br>( 45.26 ) | 1 759 608<br>( 7.30 )   | 14 357 753<br>( 4.01 )   |
| 522 293<br>( 0.55 )     | 960 252<br>( 2.51 )     | 2 048 559<br>( 10.59 ) | 395 309<br>( 1.64 )     | 4 417 158<br>( 1.24 )    |
| 1 063 581<br>( 1.12 )   | 638 893<br>( 1.67 )     | 4 667 770<br>( 24.13 ) | 19 922 079<br>( 81.82 ) | 27 041 514<br>( 8.32 )   |
| ( 100 - )               | ( 100 - )               | ( 100 - )              | ( 100 - )               | ( 100 - )                |



以上のごとく3つの市場で 全生産量の約70%、また全消費量の約70%を占めている。

これによって我が国における主要合板市場として東京、大阪および名古屋の3市場をあげることの妥当性が肯定されるであろう。

## 3-2 わが国における合板市場の構造

### 3-2-1 考察の布石

すでにふれたごとくわが国における主要な合板市場として東京、大阪および名古屋の3市場を考えることができる。

ここでは、まずこれらの3市場の構造と、これらの3市場の相互関係についてふれることになる。

## 3-2-2 東京合板市場の構造

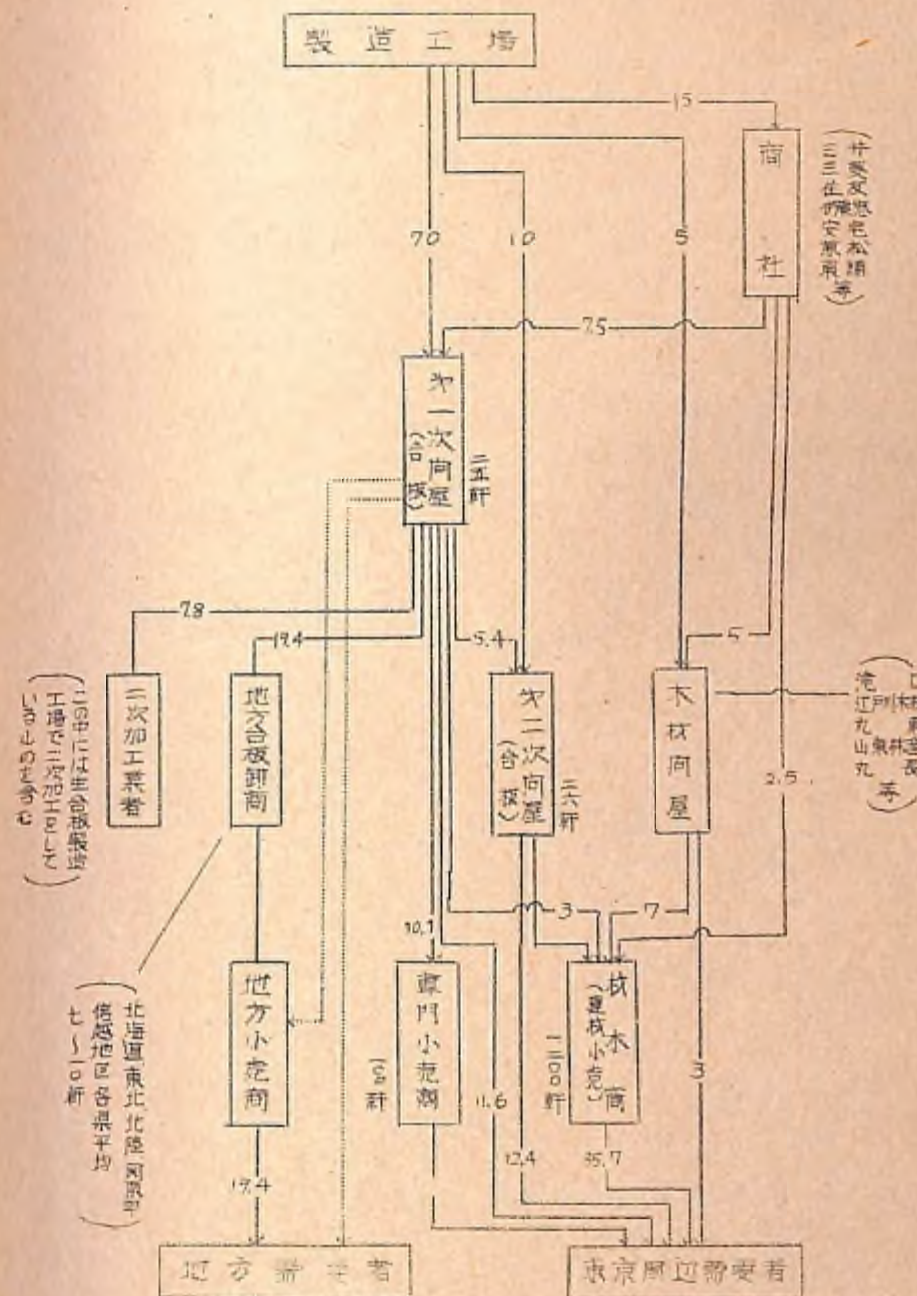
## 3-2-2-1 東京合板市場の概況

東京市場における合板流通の概況は、普通合板と二次加工合板の二つに分けてみた方がよりよく理解しうるように思われる。

まず普通合板の流通概況について示れる。昭和37年に例をとると、東京市場における普通合板の総流通量は約11,000万平方メートル、これは東京で74%が生産、供給され、名古屋から8%、静岡から7%、東北から7%、北海道から3%がそれぞれ供給されている。

この総流通量を100とした場合、15が三井、三菱、住友商事、伊藤忠、安宅、熊松、東綿等の商社の手を経て、25が次の同量、これは合板、新建材等の建材関係の専門商社ともしられるもので、仕入は主として製造業者から直接購入されており、また売上げ高は

やま図 東京における普通合板流通機構図





年間 10 億円以上のものである)に 5 が滝口、江戸川木材、丸東、山根林産、丸長等の木材向屋に 25 が材木商に販売されている。

次に全体の 70 が合板製造業者から都内に 25 軒ほど存在するオノ次向屋に流通される。かくて商社からの 25 とを合せて 72.5 ほどの普通合板が、オノ次向屋の手を経て、都内に 26 軒ほど存在するオノ次向屋(仕入れは主として製造業者およびオノ次向屋からおこない。売上げ高は年間 5 億円前後である)に 5.4、材木商に 23.2、専門合板小売商に 10.1、甲信越地区、北海道、東北、北陸にそれぞれ平均 7~10 軒ほど存在している地方合板卸商に 19.4、二次加工業に 28 と販売されている。

また、製造業者から 10 ほどの合板が直接、オノ次向屋に販売されているが、かくてオノ次向屋の手には さきのオノ次向屋から流通された 5.4 とを合せて 15.4 の普通合板が入るが、これは材木商に 3、東京周辺の需要者に大部分に 12.4 が販売される。

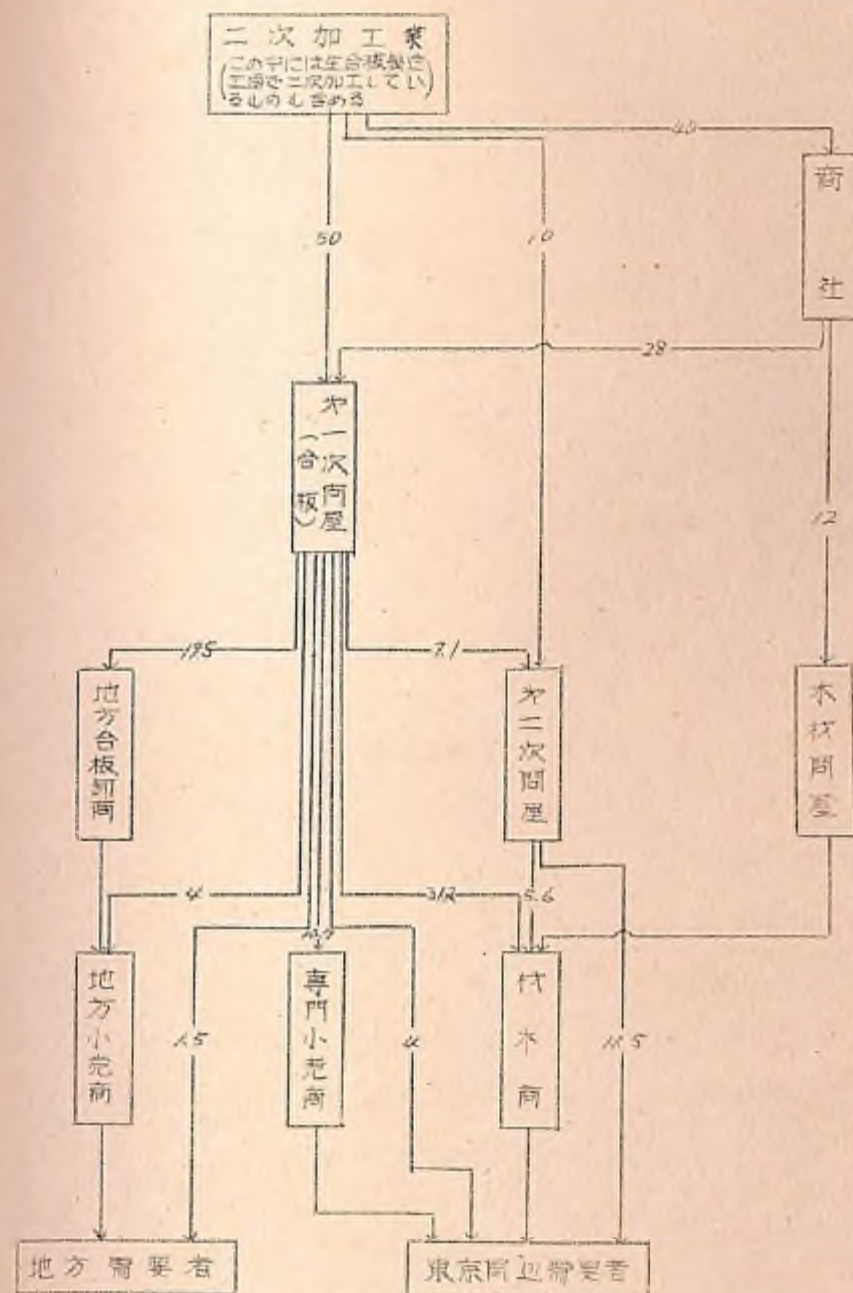
なお、製造業者から木材向屋に 5 の合板が直接されている、したがって商社よりの購入量 5 とを合せて 10 の合板が木材向屋に入手されるが、これは材木商に 7、東京周辺の需要者に 3 というように販売される。

かくて都内に 3000 軒ほど存在する材木商のもとには、オノ次向屋から 23.2、木材向屋から 7、オノ次向屋から 3、商社から 2.5 合計 35.7 とほぼ 3 分の 1 以上の合板が流通される。

次に二次加工合板の流通状況についてふれる。

東京市場における二次加工合板の流通量は正直のところよくわからないが、ほぼ 200 万平方メートルと推定される。いまこれを 100 と

図 4 東京における二次加工合板流通機構図





した場合、オ4因にみられるごとく、二次加工業者から40が同社に直売され、これはさらに28がオノ次同屋に、12が木材同屋に販売される。木材同屋の12は材木商に販売される。

また100のうち50が二次加工業者よりオノ次同屋に直売される。かくてオノ次同屋には78の二次加工合板が入る。これは都内の材木商に31.2、専門小売商に10.7、（これは東京周辺の需要者に販売される）、オノ次同屋に21、東京周辺の大口消費者に4、地方合板卸商に17.5、地方小売商に4というように販売されている。

さらにのこりの10は二次加工業者からオノ次同屋に直売されている。かくてオノ次同屋のところにはオノ次同屋からの21、と合計31の合板が入るが、これは大部分の11.5が東京周辺の大口需要者に、のこり5.6が材木商に流通される。

したがって材木商はオノ次同屋からの31.2、木材同屋からの12、オノ次同屋からの5.6、計48.8と、東京市場における半分ほどの二次加工合板を東京周辺の需要に販売していることになる。

また地方小売商は地方合板卸商からの17.5と東京のオノ次同屋から直接購入した4との合計21.5を甲信越地区、東北、北陸等の地方需要者に販売している。

以上、説明の便宜上普通合板と二次加工合板の二者に分けて東京市場における合板流通の概況についてみたが、しかし実際には同一の流通業者により両者が同時に取扱われているのである。次に合板の生産と流通に関係するそれぞれの段階別の業者について考察をしてみる。

### 3-2-2-2 合板製造業

合板、とりわけ二次加工合板の生産と流通の実態をみると、現実には、東京市場における合板製造業として東京に存在する工場だけでなく静岡に在存する工場も包括して考えた方がよいように思われる。

したがって東京市場にはオ11表にみられるごとく東京に31工場、静岡に18工場、計49工場が存在している。

まず東京市場の合板製造業は、如何なる規模の工場から構成されているか考察してみよう。

この場合、規模を示す指標として何を選ぶかが問題となる。規模を示す指標として、「普通には、従業員数、資本金、総資本額、出荷量等が考えられる。このうち資本金については他の指標と似た相関をもっており、合板製造業の場合、規模を示す指標としては取り得ない。従業員数については、総資本額、出荷量、売上高とかなりはさりした相関（ほぼ比例関係）を示しており、以後他の指標との関連を分析する便宜上もあり、従業員数を規模をあらわす指標とする」という普通合板製造業近代化計画書（注7）にならって、ここでも従業員を採用することにする。

いま、従業員数400人以上の工場をオ1階層、200人以上～400人未満の工場をオ2階層、100人以上～200人未満の工場をオ3階層、100人未満の工場をオ4階層と名付けると、東京市場における規模別工場数はオ11表にみられるごとく、オ1階層工場は4、オ2階層工場は7、オ3階層工場は21、オ4階層工場は17となっている。

工場階層を機械設備の点からおおまかにいえばオ1階層工場は2～3ライン以上の、オ2階層工場は2～3ラインの、オ3階層工場は1



表ノ1 東京市場における合板製造工場

| 工場<br>階層 | 従業員                      | 工場数 | 東京都工場                                                                                                                     | 静岡県工場                                                                        |
|----------|--------------------------|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|
| オ1       | 400人<br>以上               | 4   | 千住プライウッド<br>東京プライウッド                                                                                                      | 坂政合板<br>野田合板                                                                 |
| オ2       | 200人<br>以上<br>400人<br>未満 | 7   | 朝日ベニヤ<br>足立ベニヤ<br>太平ベニヤ<br>増沢合板工業                                                                                         | 日本楽器製造天竜工場<br>浜田産業<br>富士合板                                                   |
| オ3       | 100人<br>以上<br>200人<br>未満 | 21  | 愛別ベニヤ<br>秋木工業志村工場<br>綾瀬プライウッド<br>大塚プライウッド<br>西北ベニヤ<br>砂町ベニヤ<br>大日本ベニヤ工業<br>東洋合板工業<br>内外化工<br>晴海プライウッド<br>九日プライウッド<br>松下木材 | 東木材工業<br>成谷合板<br>稲森産業<br>静岡合板<br>芹沢合板<br>高遠工業<br>天竜木材<br>港プライウッド<br>望月プライウッド |

| 工場<br>階層 | 従業員        | 工場数 | 東京都工場                                                                                                              | 静岡県工場                                |
|----------|------------|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------|
| オ4       | 100人<br>未満 | 17  | 有川ベニヤ<br>石川ベニヤ<br>板橋ベニヤ<br>工藤合板工業<br>太洋木材工業<br>豊島ベニヤ工業<br>日進合板<br>日野木材<br>東京銘木単板<br>岡部木材<br>江北ベニヤ<br>木工技研<br>藤木ベニヤ | 清水プライウッド<br>丸富合板<br>リアルウッド工業<br>日華合板 |
| 計        |            | 49  |                                                                                                                    |                                      |



へ、ラインの最後にオ4階層工場はノラインないしそれ以下の機械設備をもっていると考えられる。

ところで、こういった従業員数よりみた規模別工場の経営内容は如何であろうか。これについては従来、かなり詳細に分析がなされてきているので、まずこの分析結果について結論部分だけについてみてみよう。(注9)

これらの分析結果は全国の合板工場を対象にしておこなわれたものであるが、これによっても東京市場(また後述する大阪および名古屋市場)における規模別合板工場の経済的性格の一端は知ることができよう。

まず従業員対営業利益率についてであるが、ラワン材工場については100～140人位(オ2階層に含まれる)の規模のところにピークがみられ、それを超えるとやや低下し、300人以上(オ3～4階層)になるとやや上向きとなっている。国産材工場についてはサンプル不足のため一定の傾向がみられない。

従業員対固定資産比率については、ラワン材工場では規模の小さい方が回転率は高いという傾向があらわれている。50～160人位(オ1～2階層)まで急激に下降し、250～300人前後(オ3階層)で中絶のみとなり以後はやや上向きという傾向がみられる。国産材工場については、ラワン材工場よりも総体的に低く、規模が大きくなるにつれてやや低下の傾向を示している。

売上高対営業利益率についても、あまり規模の多いところは例外として90～150人位(オ3、4階層)がやや高く、250人前後(オ2階層)で低く、それ以上の規模層ではやや上昇という傾向がみられる。

国産材については一定の傾向がみられない。

自己資本対純利益率についてであるが、一般に100～150人程度(オ3階層の前半)のところにピークがあり、以後250人程度を境として大きくなるにつれて上昇する。国産材工場についてもラワン材工場における場合と同様の傾向をもっているが、おしなべてラワン材工場よりも低位にある。

自己資本対固定資産比率については、ほとんどこれといった傾向はみられない。一般にこの指数は非常に高いところにある。これは合板製造業は自己資本の比率が低く設備投資が主として借入金によってまかなわれている傾向が強いためである。

従業員1人当りの1カ年生産額は、非常に分散が大きく、とりわけ150人以下ではその傾向が強い。ラワン材工場について強いていえば105～130人(オ3階層の前半)のところに高い点があるようにみられるが、同時に低い点もあるので一概に断定することはできない。国産材工場については一般にラワン材工場よりも低いが190～220人(オ3階層からオ2階層に移行する部分の工場)のところが高くなっている。

従業員1人当りの1カ年加工高は、分散が激しいが、ラワン材工場については90～150人程度(主としてオ3階層の前半)が比較的高く、250～300人前後(オ2階層)で下がり、以後上昇に向う傾向がみられる。国産材工場についてはラワン材工場よりも低位にあって50人から大規模に向うにつれてやや上昇するようと思われる。

加工高対人件費比率については、かなり分散はしているが、比較的集中した点についてみると、ラワン工場では50人から100人にかけて



て低下し、100人～140人で最低となり、以後はほとんど横ばいとなっている。国産材工場については、40人から140人までやや下り可配を示している。

売上高対売上利益率は、あまり高い点は例外であろうが、90人～140人にかけてやや高く、以後下り気味ないし横ばいとみることができよう。国産材工場ではマイナスのところが多く、そこに一定の傾向はみられない。

最後に、営業費比率についてであるが、これもかなり分散があるけれども、ラワン工場では100人～160人位が低く以後やや上昇し、大規模になると、また低下する傾向がみられる。国産材工場についてはラワン材工場に比べてかなり営業費比率は高く、170人以上については規模が大きくなるにつれて低下する傾向はかなり明確にみられる。

以上の経営諸指標を総括してみれば、110人から150人（オス階層の前半）の規模がおしなべて良い結果を示していると考えられる。そして250人から350人まで（オス階層）は一応中だるまとなっており、以後、大規模に向うにつれて再び上昇に向うように思われる。

しかしこれによって合板製造工場の真正規模が110人～150人（オス階層の前半）のどこにあると断定することは危険である。これは次のごとき理由にする。

たしかに従業員100数人という工場は、1セットの合板製造機械をそろえて、1ライン工場をラワン薄物合板を単一生産するのに丁度合った人数なのであり、最近ではこのクラスの工場の新設が目立っている。製品はむしろ内需向けの中で最も需要の多い、27～30mmのラワン合板で、大量生産方式の機械の導入が容易である、生産性も

高く、原木もあまり高品質のものを要求しない、現状ではこの程度のものが経営しやすい規模の1つの単位であるということはいきりないところであろう。これ以下のものは近代的な合板製造のためには設備その他の点で不足のところがあると考えられる。

しかしながら上述の階層の工場を主として作っている薄物合板の単一生産については、製品の市況が最も不安定なものであり、したがってこの点で経営は決して安定的であるとはいえない。

250人～300人（オス階層）の工場は、上述の経営諸指標でみればかなり問題が大きいように思われる。これらの合板工場は機械設備の点からみると2～3セットまたは2～3ラインの規模に相当する。

これらの工場は、かつて輸出に主力がおかれたものが多く、内需向けについても多品種の製品を製造する場合が多かった。合板輸出の全盛期にはこれらの工場の収益性は非常に高かったものと思われるが、すでにふれたごとき、フィリピン、台湾、韓国等の競争国の進出、ラワン原木の品質低下、労賃の上昇等によって、漸次、経営方針に変更を加えざるを得なくなってきた。そして実際に、内需向け合板生産の方向に急速に適応しようとしてきている。

従業員数350人をこえる大規模工場の経営指標はふたたび向上の方向を示している。このような大規模工場はライン数はもちろん多いが、合板の二次加工部門のウエイトが高くなる。最近の合板工場のうちこういった大規模工場の伸びは非常に大きく、今後、さらに大型化し、合理化していくものと推定されている。

以上が、全国の製造工場を対象にした規模別工場の経営的特徴のあ



らましであるが、これによって東京市場における規模別工場の経営内容も類推することができよう。

次に、参考のために東京市場におけるそれぞれの規模別工場のうちから一応代表的と思われる工場を4つ選択して、その経営内容を紹介してみよう。ここぞという代表的という意味は、平均的という意味ではなく、その階層工場の中でも一応よい経営内容をもっているというほどの意味である。したがってこれによって各規模階層の平均的な工場の経営内容を知ることにはできないが、しかしこの場合でも1つの参考にはなるであろうし、さらにまたそれぞれの階層工場間の経営比較にはかなり有益であろう。

まずⅡ階層工場に属すると思われるⅡ工場についてであるが、この工場は機械設備としてドライヤー4、ボイラー4、コールドプレス1、ホットプレス3、サンダー3、スプレッター2、スライサー3、ロータリーレース4、クリッパー8、クラインダー2、クレーン1等をとえている。

従業員は現業337人、非現業64人、計401人である。

この工場の原木入手先は、主として商社であり代金決済は140日の手形でおこなわれている。

合板の販売先は、40%が輸出で全部商社の手を通じておこなわれている。決算は80%が現金で、残金は船積の時、支払われるという。

全生産量の60%にのぼる内需向け合板は全部東京の肉屋に販売されている。決算は15日締めきりで120日手形でおこなわれている。

この会社の昭和38年における経営収支はⅡ表にみられるとおである。

Ⅱ表 Ⅱ工場の経営収支内容

| 項 目     |                  | 金 額       |
|---------|------------------|-----------|
| 総 支 出   | 合板原材料費（原木代、接着材等） | 891,793   |
|         | 工 場 費            | 282,929   |
|         | { 工 員 賃 金 給 料    | 137,127   |
|         | { 効 力 料 金        | 8,462     |
|         | { 減 価 償 却 費      | 30,004    |
|         | { そ の 他 工 場 費    | 107,336   |
|         | 官 費 費            | 100,913   |
|         | { 職 員 給 料        | 55,944    |
|         | { 公 租 公 課        | 939       |
|         | { 消 耗 品          | 1,489     |
|         | { そ の 他          | 42,541    |
| 合 計     |                  | 1,275,635 |
| 総 収 益 高 |                  | 1,332,924 |
| 総 収 益   |                  | 57,289    |

すなわち純収益は57,289,000円となっている。

いま工場の生産効率をみるために、従業員1人当りの収益高を計算してみると3324,000円となる。

次にⅢ階層に入るⅢ工場についてみる。この工場の機械設備はロータリー2、クリッパー11、ローラードライヤー2、スプレッター3、ホットプレス2、ダブルソー2、ドライアンダー1、ボイラー



2といつたところである。従業員は、現業213人、非現業17人、計230人である。

I工場の原木入手先は全部、策松からであり、120日の販売先は主として都内の13の向屋であり、決済は現金40%、約束手形60%であり、約手決済は120日の手形である。

この工場の経営収支は、オ13表にみられるような内容をもって、

オ13表 I工場の経営収支内容

| 項 目         |             | 金 額                  |
|-------------|-------------|----------------------|
| 総<br>支<br>出 | 合 板 原 材 料 費 | 501,185 <sup>円</sup> |
|             | 工 場 費       | 154,077              |
|             | 工 員 賃 金 給 料 | 94,684               |
|             | 動 力 料 金     | 7,092                |
|             | 減 価 償 却 費   | 20,530               |
|             | そ の 他       | 31,771               |
|             | 官 業 費       | 56,407               |
|             | 職 員 給 料     | 23,323               |
|             | 公 租 公 課     | 12,279               |
|             | 消 耗 品       | 536                  |
|             | そ の 他       | 20,269               |
| 合 計         |             | 711,669              |
| 総 収 益 高     |             | 781,142              |
| 総 収 益       |             | 69,473               |

総収益69,473,000円をあげている。そして従業員1人当りの収益高は3,396,270円である。

次にオ3階層に属するM工場についてみる。この工場はほぼ1〜2ライン程度の機械設備をもっている。そして190人の従業員がいる。原木入手は主に約6つの商社から120〜130日決済の約手で購入している。

販売はほとんど内需向けであるが、若干の輸出向けもやっている。内需向け合板は商社ならびに向屋の手を通じ、輸出の場合には全部商社の手を通じて販売している。決済方法は前者の場合には現金20%、約手80%（120日）であり、後者の場合には全部現金でおこなわれる。

M工場の経営収支の細目は、オ14表にみられるとおり。工場純収益は3,337,000円、また従業員1人当り収益高は3,502,328円となっている。

最後に、オ4階層に属するS工場についてみてみよう。

S工場は、ロータリーレーズ2、ドライヤー2、ボイラー2、ホットプレス1の機械設備、つまり標準的なEラインの設備をもち、その従業員は63人ほどである。原木は6軒ほどの原木向屋から120〜130日の手形決済により購入している。合板の販売は主として都内の2軒ほどの合板専門向屋におこなっている。

S工場の経営収支の内容はオ15表（51P）にみられるごとく、純収益8,291,000円であり、従業員1人当りの収益高は3,274,238円である。



表14 M工場の経営収支内容

| 項 目         |             | 金 額                  |
|-------------|-------------|----------------------|
| 総<br>支<br>出 | 合 板 原 材 料 費 | 412.056 <sup>円</sup> |
|             | 工 場 費       | 200.892              |
|             | 工員賃金給料      | 53.568               |
|             | 動力料金        | 5.059                |
|             | 減価償却費       | 16.111               |
|             | その他         | 126.154              |
|             | 営 業 費       | 3.577                |
|             | 職員給料        | 2.008                |
|             | 公租公課        | } その他の中に含まれてしまっている   |
|             | 消耗品         |                      |
|             | その他         | 1.569                |
| 合 計         |             | 616.525              |
| 総 収 益 高     |             | 619.912              |
| 純 利 益       |             | 3.377                |

表15 S工場の経営収支内容

| 項 目         |             | 金 額                  |
|-------------|-------------|----------------------|
| 総<br>支<br>出 | 合 板 原 材 料 費 | 142.119 <sup>円</sup> |
|             | 工 場 費       | 39.185               |
|             | 営 業 費       | 10.642               |
|             | 職員給料        | 3.231                |
|             | 公租公課        | 1.175                |
|             | その他         | 6.236                |
| 合 計         |             | 197.986              |
| 総 収 益       |             | 206.277              |
| 純 収 益       |             | 8.291                |

備考) S工場の経営収支においては工場費の細目が報告されていないので省略されている。

以上 4工場の経営内容を紹介してみたが、これらの工場の経営結果だけを一覧表に示すと次表のとおりである。

表16 各工場の経営指標

| 工場名 | 従業員数             | 純 収 益                   | 従業員1人当り収益高             |
|-----|------------------|-------------------------|------------------------|
| T   | 401 <sup>人</sup> | 57,289,000 <sup>円</sup> | 3,324,000 <sup>円</sup> |
| I   | 230              | 69,473,000              | 3,396,270              |
| M   | 190              | 3,337,000               | 3,262,495              |
| S   | 63               | 8,291,000               | 3,224,238              |



これを見ると純収益の点では大規模の丁とI工場がよく、次いでオ4階層のS工場、オ3階層のM工場の順となっている。従業員1人当り収益高も同じような傾向を示している。

こういった数少ない調査事例によって、一定の傾向を見出し、なんらかの結論を下すことは危険であるが、しかしこれが一般各階層工場を代表しているとすれば、東京市場の工場は、既述の一般的傾向よりも、やや小さい規模のところの中たるみがみられるといえる。

以上、東京市場における規模別合板工場の概況についてみたが、次に規模別ではなく、全体の工場を包括して考えた場合における合板工場の経営ならびに流通の実態について、実態調査結果にもとづいてながめてみよう（これは東京市場における合板工場を4軒無作為抽出しておこなった（詳細は資料編参照））。

まず合板工場の販売先についてであるが、これはオ16表に示されるごとく、販売数量比率でみた場合、商社に84%、向屋（オ1、2次向屋をふくんだ）に85.2%、自社販売6.4%、でやや商社への販売比率が少なくなっているが（これは調査対象工場が大規模工場であったことに起因するものと思われる）傾向として、われわれが合板流通についての幾人かの有識者に対するききとりと資料調査によって作成したオ3図に示される流通概況と類似しているものと考えられる。

オ17表 合板製造業の販売先

| 販売先  | 商社へ | 向屋へ   | 自社販売 | 計    |
|------|-----|-------|------|------|
| 販売比率 | 84% | 85.2% | 6.4% | 100% |

備考）自社販売とは自社の直売および自社営業所の販売を意味する。

また地域別、得意先別販売割合をみると、オ17表にみられるごとく、東京内に82.7%、あとは、ぐっと少なく3.3～0.2%ぐらいではあるが、中部（愛知と静岡を除く）と山陰以外にはあまり行き直

オ18表 地域別 得意先別販売割合

| 項目<br>地域     | 地域別<br>販売割合 | 得意先別販売割合 |      |      |      |     |     |
|--------------|-------------|----------|------|------|------|-----|-----|
|              |             | 商社       | 向屋   | 大口需要 | 二次加工 | その他 | 計   |
| 北海道          | 1.2         | 23.6     | 62.1 | 8.7  | 5    | 1   | 100 |
| 東北           | 0.9         | 20.4     | 78.6 |      |      |     | 100 |
| 関東（東京を除く）    | 2.1         | 6.1      | 90.9 | 2.3  | 0.7  |     | 100 |
| 東京           | 82.7        | 5.5      | 91.7 | 2.8  |      |     | 100 |
| 北陸           | 0.6         | 41.2     | 17.6 | 41.2 |      |     | 100 |
| 中部（愛知、静岡を除く） |             |          |      |      |      |     | 100 |
| 静岡           | 0.6         | 27.4     | 20.9 | 51.7 |      |     | 100 |
| 愛知           | 1.2         | 40.1     | 59.9 |      |      |     | 100 |
| 近畿（大阪を除く）    | 0.6         | 23.1     | 53.8 | 23.1 |      |     | 100 |
| 大阪           | 3.3         | 21.2     | 44.5 | 34.5 |      |     | 100 |
| 山陰           |             |          |      |      |      |     | 100 |
| 山陽           | 0.3         | 15.7     | 82.6 | 0.7  |      |     | 100 |
| 四国           | 0.9         | 5.3      | 89.4 | 5.3  |      |     | 100 |
| 福岡           | 0.4         |          | 100  |      |      |     | 100 |
| 九州（福岡を除く）    | 0.2         | 48.5     |      |      |      |     | 100 |
| 計            | 100         | —        | —    | —    | —    | —   | —   |



っている。

地域の得意別販売割合を主な2,3の地域について紹介してみると、  
東京では商社に55%、同屋に91.7%、大口需要者にのこり2.8%、  
大阪では商社に21.2%、同屋に44.5%、大口需要者に34.3%、  
関東では商社に6.1%、同屋に90.9%、大口需要者に2.3%、二次  
加工業者に0.9%を販売している。

つぎに合板種類別の販売先をみると、オノ8表にみられるごとく、  
ラワン材については、東京市場内の同屋に85.0%、以外の同屋に  
8.2%、商社に6.0%、大口需要者に0.8%、国産材については東京  
内の同屋に51.5%、以外の同屋に44.2%、大口需要者に4.3%と、  
相対的にいって、東京内の同屋への販売量が多いが、二次加工合板で  
は商社に74.8%と圧倒的に多く、ついで東京内の同屋23.1%、大  
口需要者2.1%といった具合に販売されている。

オノ9表 合板種類別販売先

| 合板種類   | 販売先  | 同 屋   |      | 商 社  | 大 口 需 要 者 |
|--------|------|-------|------|------|-----------|
|        |      | 県 内   | 県 外  |      |           |
| 普通合板   | ラワン材 | 85.0% | 8.2% | 6.0% | 0.8%      |
|        | 国産材  | 51.5  | 44.2 |      | 4.3       |
| 二次加工合板 |      | 23.1  |      | 74.8 | 2.1       |

備考) 県内とは自社が存在する都道府県をさす。

次に香林省の普通合板製造業実態調査報告書の資料によって原木入  
手の事情についてみるとオノ8表のごとく、東京市場における合板工

オノ20表 ラワン原木購入方法の比率階層別工場数割合

| 区 分<br>地 区 | 満 船 買 い |    |    |    |     | 筏 買 い |    |    |    |     | 逆 木 買 い |    |    |    |     | そ の 他 |    |    |    |     |
|------------|---------|----|----|----|-----|-------|----|----|----|-----|---------|----|----|----|-----|-------|----|----|----|-----|
|            | 20%以下   | 40 | 60 | 80 | 100 | 20%以下 | 40 | 60 | 80 | 100 | 20%以下   | 40 | 60 | 80 | 100 | 20%以下 | 40 | 60 | 80 | 100 |
| 北海道        |         |    |    |    |     |       |    |    |    | 5   | 1       |    |    | 4  |     | 1     |    |    |    | 2   |
| 東北         |         |    |    |    | 5   |       |    |    |    | 1   | 2       |    | 1  |    |     | 2     | 2  |    |    |     |
| 関東         |         |    |    |    |     |       |    |    |    | 2   |         |    |    |    |     |       |    |    |    |     |
| 東京         | 1       |    |    |    | 1   | 1     | 1  | 2  | 2  | 9   | 3       | 2  | 1  |    | 1   |       |    |    |    | 1   |
| 神 岡        |         |    |    |    | 5   |       |    |    |    | 4   | 2       |    |    |    |     |       |    |    |    | 1   |
| 中部         |         |    | 2  | 2  | 2   |       |    |    |    | 13  | 5       | 1  |    | 1  |     | 1     |    |    |    |     |
| 大阪         | 1       | 1  |    | 1  | 1   | 1     | 2  | 1  | 2  | 10  | 6       | 1  |    | 1  |     | 1     |    |    |    |     |
| 山 陰        |         |    |    |    | 4   |       |    |    |    |     |         |    |    |    |     | 1     |    |    |    | 1   |
| 山 陽        |         |    | 1  | 1  |     |       |    |    |    | 1   | 1       |    |    | 1  |     |       |    |    |    |     |
| 九 川        | 3       |    |    |    | 1   |       |    |    |    |     |         |    |    |    |     |       |    |    |    | 2   |
| 計          | 4       | 2  | 3  | 4  | 19  | 7     | 4  | 4  | 5  | 44  | 20      | 4  | 2  | 1  | 6   | 5     | 3  |    |    | 2   |

場の原木入手先は、おしなべていうと、商社が圧倒的に多く、90%  
を占め、のこり10%は原木同屋からの購入になっている。

商社から原木を購入する場合、60~70%は筏買い、のこり30  
~40%は満船買いとなっている。中部、山陰といった地方にいくと  
満船買いの比率が多くなってきている。

合板製造業者が商社より原木を購入する場合、ほとんど3~4ヵ月  
ぐらいの手形取引でおこなわれている。またここで合板製造業者の同



屋への合板販売の場合にふれておくと、これもほとんど手形取引で現在2〜3ヶ月ぐらいであるという。

これらの手形取引期間は、最近、漸次長期化の傾向を示してきているといわれる。これは必ずしも健全な姿とはいえない。何故ならばこれは景気変動の影響を大きく受けることになるからである。

以上、東京市場における合板工場の経営ならびに流通の概況とその特徴についてふれてきたが、さらに他市場の合板工場との比較において次のような特徴を指摘できる。

まずオノに、製造工場の向に、いくつかの大きな系統がみられることである。

たとえば、

東京プライウッド系 — 東京プライウッド、木工技研

足立ベニヤ系 — 足立ベニヤ、太平ベニヤ、石川ベニヤ

千住プライウッド系 — 千住プライウッド、西北ベニヤ、綾瀬ア

イウッド、豊島ベニヤ工業、太洋木材工業

日野系 — 日野木材、有川ベニヤ

丸吉系 — 大日本ベニヤ工業、晴海プライウッド、ルタアライ

等の各系統がみられる。

オノに、これらの各系統工場あるいはその他の合板工場は、合板専門同屋、とりわけオノ次同屋との結束が強いことがあげられる。

これは、ノツには両者の沿革的な成立事情に起因するものである。たとえば足立ベニヤの成立にみられるごとく、足立合板という同屋間の資本進出の結果できたものもあるし、逆に朝日ベニヤ、丸吉合板工業、千住プライウッド等にみられるごとく、合板工場側から同屋職能使用

を作ったり、またいくつかの同屋との販売提携をしているものもある。

なお、工場と同屋との結束の強いオノの理由として、東京市場における同屋は、大阪、名古屋両市場よりもはるかに巨大な合板需要を背景として培われた同屋資本の巨大さをあげることができる。これは資本的に商社資本の進出を防止し、しっかりと製造工場を経済的に掌握しておくことができているのである。

オノの理由として、上述の原因と表裏の関係であるとも考えられるが、原木面での同社の製造工場掌握の相対的弱さをあげることができる。これをみおまかに数量的にしめすと大阪、名古屋両市場の製造工場は商社から全体の90%、原木同屋から10%を購入しているのに、東京市場では商社のウエイトは減少して60%、逆に原木同屋のウエイトは増大して40%となっている。

ここで本題にもどり、東京市場における合板工場のオノの特徴についてふれると、相対的にいって二次加工をやっているものが少ないこ

オノ表 二次加工もやっている普通合板工場

| 会社名      | 製造品目        | 会社名     | 製造品目        |
|----------|-------------|---------|-------------|
| 朝日ベニヤ    | 塗装合板        | 綾谷合板    | オーバーレイ合板    |
| 足立ベニヤ    | 塗装合板、化粧ばり合板 | 坂政合板    | 化粧ばり合板      |
| 大 鹿 振 興  | オーバーレイ合板    | 日本楽器製造  | オーバーレイ合板    |
| 千住プライウッド | 塗装合板        | 野 田 合 板 | プリント合板、塗装合板 |
| 東京プライウッド | 〃           | 浜 田 産 業 | 〃           |
| 晴海プライウッド | 〃           | 富 士 合 板 | 塗装合板        |
| 松 下 木 材  | プリント合板      |         |             |



とである。

いま、東京市場における主合板工場で、同時に二次加工をやっている工場をあげると前表(57P)のとおりである。

すなわち、合板工業会に所属している主要な普通合板工場49のうち13工場が二次加工をやっている。これは後述するごとく大阪、名古屋における場合より少くない。

### 3-2-2-3 二次加工業

東京市場における普通合板工場と同時に二次加工までやっているのは既述のごとく約13工場であるが、このほか二次加工専門工場が大小さまざまな数多く存在している。しかしながらこれらの実態の正確な把握は困難なのが実情である。ここでは二次加工業をおおざく、化粧ばり合板、プリント合板、オーバーレイ合板、塗装合板ならびに機械加工合板の5つに分けて、その概況を紹介することにする。

まず化粧ばり合板についてではあるが、これは建築の天井、壁面から洋ダンス、机、ミンテーブル、鏡台、下駄箱、テレビ、ラジオ、ステレオ等のキャビネットにいたるまで使われている。それは、化粧ばり合板が、普通の合板の表面に世界の銘木、珍木を切削した単板をはりあわせたものであるだけに、木材の持つ優雅な自然の美しさをとって理想的な姿で表現しているためであろう。

東京における化粧ばり合板は、オモロ表にみられるごとく、28工場が製造されているが、このうち、東京銘木単板工場以外は普通合板の製造はあこなっていないので合板は主にオノノ次同産より仕入れている。

### オモロ表 化粧ばり合板工場

#### ① 貼天井を除く化粧ばり合板工場

| 北 三 合 板 | 東京都足立区 | Tas認定 P-119 |               |
|---------|--------|-------------|---------------|
| 東京銘木単板  | 江東区    | P-121       | (注)単板製造もやっている |
| 前山銘木店   | 〃      |             |               |
| 細田木材工業  | 〃      |             |               |
| 板橋ベニヤ商会 | 板橋区    |             |               |
| 東京合板加工  | 品川区    |             |               |
| 鈴木商会    | 江東区    |             |               |
| 秋田屋銘木   | 墨田区    |             |               |
| 東洋単板工業  | 江戸川区   |             |               |
| 清水建設    | 江東区    |             |               |
| 朝日木工    | 〃      |             |               |
| 内外木材工業  | 〃      |             |               |
| 芝銘木合板   | 港区     |             |               |
| 踐接ツヤ板店  | 荒川区    |             |               |
| 井筒屋     | 江東区    |             |               |
| 森原化粧合板  | 荒川区    |             |               |
| 寿ベニヤ    | 足立区    |             |               |
| 斉藤商店    | 台東区    |             |               |
| 杉崎合板加工所 | 港区     |             |               |
| 大東工業    | 足立区    |             |               |
| 東光特殊合板  | 江東区    |             |               |
| 丸高橋商店   | 荒川区    |             |               |
| 港合板工業   | 港区     |             |               |
| 木工技研    | 足立区    |             |               |
| 山名合板    | 港区     |             |               |
| 渡辺特殊合板  | 江東区    |             |               |

#### ② 貼天井板工場

|       |        |  |
|-------|--------|--|
| 前山銘木店 | 東京都江東区 |  |
| 南産業   | 〃      |  |



プリント合板は、普通合板の上に銘木の美しい至目をすぐれた印刷技術によって再現したニ次加工品である。プリント合板工場は表に示されるごとく東京、静岡に5工場程ある。浜田産業は静岡市に存在して単板の製造もおこなっている。塗料はアミノアルキッド系樹脂を使用しているのでラッカー系製品よりも優れている。製品名カップボードといわれるプリント合板を月に4000枚ほど生産している。

中越プリントボードでは中越パネルといわれるプリント合板を月に3000枚ほど生産している。

オ23表 プリント合板工場

① 普通プリント合板工場

|            |        |              |
|------------|--------|--------------|
| 浜田産業プリント工場 | 静岡市    | P-108 カップボード |
| 中越プリントボード  | 東京都板橋区 | 中越パネル        |

② 天井板用に簡易なプリント加工……通称印刷天井板工場

|       |        |  |
|-------|--------|--|
| ヨコタ商会 | 東京都江東区 |  |
| 英さこ物産 | 〃      |  |
| 南産業   | 〃      |  |

ヨコタ商会、英さこ物産、南産業は天井板用の簡単なプリント合板を製造しているが、その生産量は前二者に比較して極めて少ない。

次にオーバーレイ合板についてであるが、これは普通合板の表面を色々な物質でおおって、美観、耐水性、耐熱性、耐摩耗性および強度等をあたえたものである。オーバーレイ合板は加工物質によって、メラミン樹脂オーバーレイ合板、塩化ビニール樹脂オーバーレイ合板、

塩化ビニール樹脂オーバーレイ合板、塩化ビニール樹脂オーバーレイ合板、フェノール樹脂オーバーレイ合板、紙雑類オーバーレイ合板、紙オーバーレイ合板、その他のオーバーレイ合板等各種の合板がある。これらのオーバーレイ合板を製造する工場は表に示されるとおりである。

オ24表 オーバーレイ合板工場

① ポリエステルオーバーレイ合板（セロハン法、テロン法、研磨法）

|          |        |                |
|----------|--------|----------------|
| 東洋化学工業   | 八王子市   | ポリエイト          |
| 高砂ゴム工業   | 東京都足立区 | ハイボライト         |
| 日立製作所    | 〃 中央区  | アンプレート ハイボード   |
| 新日本化学工業  | 〃 豊島区  | クリヤライト         |
| 協保化学     | 〃 中央区  | ポリエステル化粧板      |
| クリヤー化工   | 〃 品川区  | クリヤーファイナ       |
| 理研合成樹脂   | 〃 中央区  | リゴライト          |
| 日本理研ゴム工業 | 〃 品川区  | アボライト          |
| 東洋化学薬品   | 〃 中央区  | ゴールデンポリス       |
| 東洋化成     | 〃 〃    | ラーキーボード        |
| 信和化成工業   | 〃 港区   | ボス             |
| 理研ビニール工業 | 〃 中央区  | セットボード リーケンヒット |



② ポリエステル樹脂オーバーレイ合板工場（乾式積層法）

|      |        |                  |
|------|--------|------------------|
| 明和産業 | 東京都江東区 | JAS 認定 P-124 ポリス |
| 磯谷産業 | 静岡市長沼  | ・ P-126 ポリエス     |
| 木工技研 | 東京都足立区 | ポリホーフ            |

③ メラミン樹脂オーバーレイ合板

|          |     |              |
|----------|-----|--------------|
| 豊年製油清水工場 | 清水市 | Ta5 認定 P-124 |
|          |     | 商品名 メラシート    |

④ 塩化ビニール樹脂オーバーレイ合板

|         |        |                        |
|---------|--------|------------------------|
| 明和産業    | 東京都江東区 | B.S.ボード TOPボード B.S.パネル |
| アポニール販売 | ・ 港区   | アポニール                  |
| 青長商行    | ・ 墨田区  | エースボード                 |
| 日本化工資材  | ・ 千代田区 | ビニールボード                |
| 丸文      | ・ 中央区  | C.V. ベニヤ               |
| ボード     | ・ 墨田区  | クランカ 平安トーン ダンテボード      |
| ヨコタ商会   | ・ 江東区  | K.Y.ボード 黄金ボード ユニークボード  |
| 東陽物産    | ・ 中央区  | D.S.ボード                |
| 大成商会    | ・ 江東区  | ミヤコボード                 |
| 秋田屋銘木   | ・ 墨田区  | キングボード                 |
| 浅野化工    | ・ 千代田区 | ナイス                    |
| 日本理研ゴム  | ・ 品川区  | アボライト                  |
| 日製産業    | ・ 千代田区 |                        |

|         |        |  |
|---------|--------|--|
| 廣森建設    | 東京都中央区 |  |
| 八幡木材工業  | ・ 太田区  |  |
| 近代建築研究所 | ・ 世田谷区 |  |

⑤ フェノール樹脂オーバーレイ合板

|           |        |            |
|-----------|--------|------------|
| 大鹿振興      | 東京都板橋区 | シンコープライ    |
| 豊年製油清水工場  | 清水市    | メラシート合板外装用 |
| 日本楽器製造 天竜 | 浜松市    | ヤマハフェノプライ  |

⑥ 繊維類オーバーレイ合板

|        |        |               |
|--------|--------|---------------|
| 浜田産業   | 静岡市    | カップクロス        |
| 福原木材工業 | 東京都江東区 | パイルボード パイルトーン |

⑦ 紙オーバーレイ

|          |     |         |
|----------|-----|---------|
| 豊年製油     | 清水市 | メラシート合板 |
| 静岡アライウッド | ・   | はごろも化粧板 |
| 浜田産業     | ・   | トミーソフト  |

⑧ その他のオーバーレイ

|          |        |        |
|----------|--------|--------|
| 新田ベニヤ工業  | 東京都中央区 | フライメタル |
| 江北ベニヤ製作所 | ・ 足立区  | メタツブ   |
| 北三商会     | ・ 台東区  | サンフット  |
| 横浜ゴム工業   | ・ 港区   | ハマウッド  |



塗装合板工場は、次表のごとく東京に5工場、静岡に3工場存在している。

表2-2-3 塗装合板工場

① 透明塗装合板

|      |        |          |
|------|--------|----------|
| 野田合板 | 静岡県庵原郡 | ノダカラーパネル |
| 増沢合板 | 東京都江東区 |          |

② 不透明塗装合板

|          |        |              |
|----------|--------|--------------|
| 千住アライウッド | 東京都足立区 | デコボード、カラーオール |
| 浜田産業     | 静岡市    | カップボード       |
| 富士合板     | 清水市    | ふじメロン        |
| 東京アライウッド | 東京都江東区 | グロリア         |
| 木工技研     | 〃 足立区  |              |
| 日林工業     | 〃 北区   |              |

野田合板、増沢合板で行っている透明塗装加工の目的は、

①木材の持つ自然の美しさをさらに引き立たせることと共に、この美しさをいつまでも保護すること。

②材面の吸湿、乾燥を防ぐことにより合板の反り、曲り、割れ等を防止すること。

にある。

最後に、機械加工合板についてであるが、これは合板の表面に溝付

けをほどこしたり、型押し、バネ等機械加工を施したものであり、機械加工合板を製造する工場としては、現在、日本加工資材（東京千代田区）ただ1社が存在しているだけである。この商品名はサイドボードといわれる。

以上、数多くの二次加工合板と、その製造工場についてみたが、これらの二次加工合板の生産は、わが国における合板工業の歴史的展開において、べたのごとく、多くは昭和33、34年以降であり、しかも普通合板よりも一層激しく生産増大に需要の増大をともなうしてきているのである。それぞれの二次加工合板の生産事情については、既述のごとく次表を参照していただきたい。

3-2-2-4 商 社

現在、三井物産、三菱、住友、伊藤忠、安宅、兼松、東洋、丸江、日曜、岩井産林等の主要商社は、いずれも合板をとりあつかっている。

これらの総合商社は東京市場においては、普通合板では全体の15%、二次加工合板では40%の取扱高を示している。

これらの流通概況については、すでにのべたが、理解を正確にするためにふたたび詳述すると普通合板の15%のうち25%は丸吉、東京合板、ベニヤ商会、足立合板と25軒ほどのオノノ次問屋に、5%は滝口、江戸川木材、山春林産といった木材問屋に、のこり25%は小売の材木商に販売される。取扱高40%の二次加工合板は28%がオノノ次問屋に、12%が木材問屋に販売されている。

商社が、内需合板を本格的に取扱いはじめたのは、昭和34年頃からである。これはすでにふれたように、この頃輸出合板が全輸出量のう



ち70～80%を占めるアメリカ市場において低迷を始めたことと、二次加工合板の生産と販売における商社資本の要請とが契機となったのである。

その取扱高は、表26表に示されるとおり、急激な増加率を示している。すなわち、昭和34年を100とした場合、36年に同屋が110、小売業が108なのに対して183と、正に驚異的な増加率を示している。

表26 流通機関別内需合板取扱割合

| 区分  | 年次 | 昭和34年 | 35年 | 36年 |
|-----|----|-------|-----|-----|
| 商社  |    | 100   | 150 | 183 |
| 同屋  |    | 100   | 99  | 110 |
| 小売業 |    | 100   | 100 | 108 |

商社の積極的な合板流通への参加は、二次加工部門において一層顕著であり、そこには程度の差は、商社の系列化がみられる。

たとえば

大日本ベニヤ — 伊藤忠

砂町ベニヤ — 住友、東綿

野田合板 — 三井物産

千住プライウッド — 丸紅、岩井

中村合板 — 伊藤忠、安宅

光和合板 — 安宅

大塚プライウッド — 安宅

丸日プライウッド — 東綿

東京ハードボード — 東綿

足立ベニヤ — 伊藤忠

ハタプライウッド — 伊藤忠

晴海プライウッド — 住友、伊藤忠

等である。

なぜ二次加工合板の生産と販売において、商社資本の進出がおこなわれたかの理由については既に4つの理由をあげて説明したので、ここでは省略するが、こういった傾向は最近一層残まり、ある商社では同屋的性格すらもって、地方市場の開発にのりだしているものもある。

商社のマージンは、普通合板では2～3%前後、二次加工合板では5～6%といったところであるという。

### 3-2-2-5 合板同屋

東京市場には合板専門同屋として約5/軒ほどの同屋が存在している。これらの同屋は一般に、おおきく2つに、つまりオノ次同屋とオノ次同屋とに分けられている。

しかし正直のところ、両者の概念はそれほど明確なものではないのである。というのは両者の中同形態もたくさん存在しているからである。

一応、ここでは、次のような諸点より分けてみる。オノ次同屋は、年売上高においては平均10億円、オノ次同屋は5億円前後のところであり、また取扱品目については、オノ次同屋が産地の品目の合板を取扱っているのに、オノ次同屋は主としてオノ次合板を取扱ってい



る。また販売先については、オノ次向屋は、北海道、東北、北陸、関東甲信越と広範囲に亘っているが、オノ次向屋は主として東京周辺にかぎられているものが多い。仕入先については、オノ次向屋は、合板製造業者および商社であるのに対して、オノ次向屋は、製造業者およびオノ次向屋から購入している。

以上のような視点に立って大胆に分けてみると、オノ次向屋の範ちゅうに入る向屋は5ノ軒の中のみ25軒ほどで、のこりの26軒はオノ次向屋であると考えられる。

12軒ほどを対象にしておこなった調査結果より、オノ次向屋の年次別建材取扱量をみるとオノ表にみられるごとく、38年だけにつ

オノ表 年次別建材取扱量

| 年次        |        | 36年   | 37年   | 38年   | 備考 |
|-----------|--------|-------|-------|-------|----|
| 合板        | 普通合板   | 69.7% | 61.4% | 56.3% |    |
|           | 二次加工合板 | 8.8   | 16.5  | 20.6  |    |
| 繊維板       |        | 3.6   | 2.9   | 3.6   |    |
| パーティクルボード |        | 3.7   | 4.7   | 4.0   |    |
| 石膏ボード     |        | 3.5   | 8.2   | 7.0   |    |
| 製材品       |        | 1.2   | 1.5   | 0.8   |    |
| 丸太        |        |       |       |       |    |
| 合成樹脂製品    |        | 2.4   | 2.4   | 2.3   |    |
| 陶器セメント製品  |        | 0.45  | 0.7   | 0.3   |    |
| その他       |        | 6.65  | 1.7   | 5.1   |    |
| 計         |        | 100   | 100   | 100   |    |

いていえば金額で表わした総販売額を100とした場合、普通合板が56.3%、ついで二次加工合板20.6%、石膏ボード7.0%、パーティクルボード4.0%、繊維板3.6%、合成樹脂製品2.3%、製材品0.8%、陶器セメント製品0.3%といった順序と割合を占めている。時系列的には普通合板の取扱量が減少して二次加工合板の増加とされているが目立つ。

こういったような素態をみると思われる、オノ次向屋は、普通合板の流通の76%、二次加工合板の50%を、工場から直接購入している。商社からの仕入れを入れると普通合板では77.5%、二次加工合板では78%を取扱っている。

普通合板の77.5%は、都内の材木商に23.2、東京周辺の大口需要者に11.6、専門小売商に10.1、オノ次向屋に5.4、二次加工業者は2.8、地方合板卸商に19.4をそれぞれ販売している。また二次加工合板の78%は、都内の材木商に31.2、専門小売商に10.7、オノ次向屋に7.1、東京周辺の大口需要者に4、地方合板卸商に18.5、地方小売商に4、地方の需要者に1.5をそれぞれ販売している。

いまだ同じく12軒のオノ次向屋を対象にしておこなった調査結果により、地域別購入および販売割合をみてみるとオノ表のごとく、仕入先地域は山陰と福岡を除く各地に亘っているが、東京(53.8%)、愛知(13.3%)、北海道(9.4%)と静岡(8.8%)が主で、これで全体の85.3%と大半を占めている。また販売地域は、これも山陰、福岡および福岡を除く各地域に亘っているが、しかし東京(51.6%)、関東(14.9%)、北陸(12.8%)、東北(12.2%)が主で91.5%を占めている。



オ28表 地域別購入および販売割合

| 項目<br>地域         | 仕入数量<br>比率 | 販売数量<br>比率 | 項目<br>地域      | 仕入数量<br>比率 | 販売数量<br>比率 |
|------------------|------------|------------|---------------|------------|------------|
| 北海道              | 2.4%       | 5.2%       | 近畿<br>(大阪を除く) | 0.2%       | 0.1%       |
| 東北               | 7.3        | 10.2       | 大阪            | 3.5        | 0.9        |
| 関東<br>(東京を除く)    | 1.2        | 14.9       | 山陰            |            |            |
| 東京               | 53.8       | 51.6       | 山陽            | 0.5        | 0.3        |
| 北陸               | 1.1        | 12.8       | 四国            | 0.3        |            |
| 中部<br>(愛知・静岡を除く) | 0.6        | 4.5        | 福岡            |            |            |
| 静岡               | 8.8        | 0.3        | 九州<br>(福岡を除く) |            |            |
| 愛知               | 13.3       | 2.4        | 計             | 100        | 100        |

次に、オ2次向屋についてであるが、28軒ほどを対象にしておこなった調査結果より、オ2次向屋の年次別建材取扱量をみると、オ27表のごとく、38年だけについていえば、金額で表わした総取扱額を100とした場合、普通合板が50.2%、ついで二次加工合板23.1%、石膏ボード10.3%、繊維板4.2%、パーティクルボード3.5%、合成樹脂2.3%、丸太2.1%、製材品1.8%、陶器セメント製品1.0%といった順序と割合を示している。この順序と割合だけでなく時系列的に普通合板が減少し、二次加工合板が増加する現象はオ1次向屋と類似している。ただ丸太の取扱いが2.1%とわずかであるがあらわれてくるのが注目される。

こういった建材の取扱いをオ2次向屋は、普通合板の流通の10%、二次加工合板の同じく10%を工場から直接購入している。

オ29表 年次別建材取扱量

| 取扱建材      | 36年   | 37年   | 38年   | 備考 |
|-----------|-------|-------|-------|----|
| 合板        |       |       |       |    |
| 普通合板      | 29.2% | 56.8% | 50.2% |    |
| 二次加工合板    | 0.7   | 20.5  | 23.1  |    |
| 繊維板       | 3.6   | 4.2   | 4.2   |    |
| パーティクルボード | 3.3   | 3.2   | 3.5   |    |
| 石膏ボード     | 6.1   | 9.6   | 10.3  |    |
| 製材品       | 2.5   | 2.6   | 1.8   |    |
| 丸太        | 1.3   | 1.3   | 2.1   |    |
| 合成樹脂製品    | 5.4   | 1.5   | 2.3   |    |
| 陶器セメント製品  | 0.4   | 0.4   | 1.0   |    |
| その他       | 1.9   | 1.9   | 1.5   |    |
| 計         | 100   | 100   | 100   |    |

オ1次向屋から流れるものを含めると、普通合板では15.4%、二次加工合板では12.1%となっている。

普通合板の15.4%は、12.4%が東京周辺の大口需要者に、3%は材木商に販売される。また二次加工合板の12.1%は、東京周辺の需要者に11.5%、材木商に5.6%を販売している。

同じく28軒のオ2次向屋の調査結果より、地域別購入および販売地域をみると次表のとおりである。すなわち、仕入先地域は主として東京(86.2%)と静岡(4.9%)で両方で全体の91.1%をしめている。また販売地域は東京(49.7%)と関東(32.1%)が大部分



表30 地域別購入および販売割合

| 項目<br>地域         | 仕入数量<br>比率 | 販売数量<br>比率 | 項目<br>地域      | 仕入数量<br>比率 | 販売数量<br>比率 |
|------------------|------------|------------|---------------|------------|------------|
| 北海道              | 3.2%       | 0.6%       | 近畿<br>(大阪を除く) | 1%         | 0.1%       |
| 東北               | 2.1        | 2.9        | 大阪            | 1.7        |            |
| 関東<br>(東京を除く)    | 0.7        | 3.7        | 山陰            |            |            |
| 東京               | 86.2       | 49.7       | 山陽            |            |            |
| 北陸               |            | 0.3        | 四国            |            |            |
| 中部<br>(愛知、静岡を除く) |            | 1.0        | 福岡            |            |            |
| 静岡               | 4.9        | 3.3        | 九州<br>(福岡を除く) |            |            |
| 愛知               | 1.2        |            | 計             | 100        | 100        |

であって、全体の86.8%を占めている。このように購入および販売地域ともにオノ次同屋の場合より一層せまい範囲に限られていることが注目される。

ところで、以上のような業態と流通事情を示す、同屋のマージンは如何程であろうか、平均的にいって、オノ次同屋のマージンは7〜8%であり、これに対してオノ次同屋のマージンは約1.5%程度である。

このようにオノ次同屋のマージンに対してオノ次同屋のマージンの高いのは、オノ次同屋の在庫が1.5日程度であるのに、オノ次同屋では5.0日程度もあって危険率が高いためであるように、その取扱高が比較にならないほどすくないからである。

従来、同屋機能のうちで最も重要な機能は商品の在庫機能と金融機能の二者であると思われる。

正直のところ在庫機能については、合板においては、せいぜい1週間分ぐらいで、従来までのところ満足にこの機能を果たしているとは思われない。

これは東京市場におけるばかりでなく、他の市場にも共通的にみられるところである。

次に金融機能についてみる。一般に金融機能は生産者と小売業者に対して考えられるが、現在、一般的にいつて同屋の持つ資金能力から、活発におこなわれることが少なくなっている。この間の事情について知るために製造業者に対する手形の決済状況を見ると、3〜4ヶ月に及びており、時に4ヶ月以上のものも相当みうけられる。

このことは製造業者が同屋の金融機能を代行して、逆に同屋その他への金融をおこなっていることを示すものであって、これが製造業者の資金を圧迫する原因の1つともなっているといわれている。

### 3-2-2-6 木材同屋

東京市場において合板も取扱っている主なる木材同屋としては、滝口、江戸川木材、丸東、山春林産、竹川、東都建材等があげられる。

これらの木材同屋は、普通合板では製造工場から全体の流通量の5%を、また総合商社から同じく5%、計10%を購入し、これを主として、従来、一般の木材の流通において馴染みの深い板木商に、東京周辺の需要者に3をそれぞれ販売している。

以上のごとく、東京市場においては、合板流通上における木材同屋のクエイトは、合板専門同屋に比較してみても、また他市場、とりわけ大阪市場の木材同屋に対比してみてもはるかに小さい。



このことは、次のような理由による。

① 木材問屋が合板を取扱うようになった日の浅いこと、すなわち木材問屋は一般に昭和 55 年頃から合板を取扱うようになったのである。

② 東京市場では、すでに述べたごとく、沿革的な成立事情からいって問屋、とりわけオノ次問屋と製造業者との結束が強く、また資本力も強いこと、したがって木材問屋が、材木商との人間関係を背景にしてこれ以上、合板流通にくいこもうとしてもなかなかむずかしいわけである。

木材問屋の流通マージンは、ほぼオノ次問屋のマージンぐらい、つまり 5～6% といわれ、年間の合板売上高は、おしなべて 5 億円程度であるという。

### 3-2-2-7 専門小売商および材木商

東京市場には約 100 軒ほどの専門小売商が存在している。

専門小売商は、普通合板の流通においてはオノ次問屋から全流通量の 10.1% に当る合板を購入し、これを東京周辺の需要者に販売している。また二次加工合板においては、オノ次問屋より全体の 10.7% に当る二次加工合板を購入してこれを需要者に小売りしている。

こういった専門小売商に対して、東京に 3000 軒ほど存在している材木商のフエイトは、より大きい。

この材木商の建材別取扱割合を、126 軒の調査結果からみると、木材 71.6%、合板 21.4%、その他 7% で、圧倒的に木材の取扱量が少くなっている。

材木商は、普通合板においてはオノ次問屋から 23.2、木材問屋から 7、オノ次問屋から 3、商社から 2.5、合計で全普通合板流通量の 35.7% の合板を消費者に小売販売している。二次加工合板では、オノ次問屋から 31.2、木材問屋から 12、オノ次問屋から 5.6、計 48.8% の合板を需要者に販売している。

また同じく 126 軒の材木商を対象にしておこなった調査結果によつて、合板種類別販売先別取扱数量割合をみるとオノ表に示めされるごとく、ラワン材合板については、主なる販売先は土木建築業者（34.4%）、建具製造業者（28.5%）および家具製造業者（13%）であり、全体の 75.9% を、国産材合板については、土木建築業者

オノ表 合板種類別販売先別取扱数量割合

| 合板の種類<br>販売先 | ラワン材合板 | 国産材合板 | 特殊合板  | 総計    |
|--------------|--------|-------|-------|-------|
| 土木建築業者       | 34.4%  | 46.2% | 56.9% | 45.4% |
| 家具製造業者       | 13     | 28.5  | 11.1  | 13.2  |
| 建具製造業者       | 28.5   | 6.0   | 27.1  | 27.8  |
| その他工作業者      | 0.4    | 5.6   | 微     | 0.7   |
| 家庭用          | 0.5    | 微     | 0.8   | 0.8   |
| 学校教材用        | 微      | 1.6   | 微     | 微     |
| 販示裝飾業者       | 6.1    | 8.3   | 1.3   | 5.8   |
| 包装業者         | 微      |       | 微     | 微     |
| その他          | 6.5    | 3.7   | 2.1   | 6.0   |
| 計            | 100    | 100   | 100   | 100   |



(46.2%) 家具製造業者(28.5%)と展示装飾業者(6.3%)で全体の83%を、また二次加工合板では、土木建築業者(56.7%)と建具製造業(22.1%)が主で全体の78.8%を、なお統計としてみた場合には、土木建築業者(45.4%)と建具製造業(22.8%)ならびに家具製造業者(13.2%)が主体で、全体の81.4%を占めている。

専小売商と材木商のマージンは、おしなべてほぼ10~15%くらいであるといわれる。

### 3-2-2-8 製造業および流通業の各種団体

ここでは東京市場における製造業および流通業の各種団体だけでなく、全国に亘る組織についてもふれる。

合板製造業における全国に亘る組織としては、日本合板工業組合、日本特殊合板組合、ポリエステル化粧板工業組合、輸出化粧合板懇話会、日本合板輸出組合および日本合板検査会といったものがある。

以下、このおのりの組織について簡単に紹介をおこなう。

まず日本合板工業組合についてであるが、この組織の発端は、昭和16年の木材統制法の施行とともに設立された日本合板協会である。この協会によって合板の生産、配給ならびに検査がおこなわれた。

戦後、昭和21年1月、日本合板協会は改組され、日本合板工業組合連合会として出発し、23年8月集中排除法にもとづいて閉鎖されるまで続いた。この連合会の閉鎖とともに23年12月に業界の民主的意志によって日本合板工業界が設立された。この協会が31年まで続いた後、日本合板工業組合がかわって誕生した。

この組合も、各地域における業者の利害関係とが問題認識のうえで、おおきな差異があらわれるにおよんで、昭和37年12月1日をもって解散し、将来は、北海道、東北、東京、静岡、名古屋、大阪、中国および九州の8地域にそれぞれ独自の組合を作り、この連合会として存続する計画であるといわれる。現在地域組合は、北海道、東京ならびに大阪にだけ存立をみている。

連合会の目的としては、合板の普及宣伝、統計調査、情報の蒐集および親睦の達成等であるという。

日本特殊合板組合は、昭和32年5月に結成され、この組合員は約38会社であり、この目的は、特殊合板の生産の増進、需要の開拓ならびに技術の進歩改善を図り、以て会員の健全なる発展に寄与することを目的とし、

- ① 特殊合板に関する普及宣伝ならびに需要開拓
- ② 特殊合板に関する調査研究および情報の交換
- ③ 特殊合板の生産に関する技術の改善および品質の向上ならびに相互啓発
- ④ 会員相互の連絡および親睦、  
等の事業をおこなっている。

この工業会の維持費は正会員が月に12,000円、準会員が6,000円ほどの会費でまかなわれている。

ポリエステル化粧板工業組合は、昭和37年3月に40社をもって結成され、これも特殊合板のうちのポリエステル化粧合板の普及、調査、統計、技術指導および指導といったことを目的としている。

輸出化粧板懇話会は、昭和38年3月に結成されたもので、輸出



市場研究、統計、技術研究、情報交換といったことを目的としている。

日本合板輸出組合は、昭和28年5月に設立され、商社と合板製造業者とで組織されている。この組合の目的は、不公正な輸出取引を防止し、および輸出取引の秩序を確立し、ならびに組合員の共通の利益を増進するための事業を行ない、もって合板の輸出貿易の健全な発展を図ることにある。

その事業内容としては

- ① 合板の輸出に関する紹介、宣伝、斡旋、見本市への参加、その他海外市場の維持または開拓を目的とする活動、
  - ② 合板の輸出に関する海外市場および輸入業者その他の関係業者の信用状況の調査ならびに情報および資料の収集および提供
  - ③ 合板の輸出に関する原産地の証明および組合員の営業の証明
  - ④ 輸出向け合板の等級、標準、品質および包装条件の検査ならびにその結果の表示
  - ⑤ 合板の輸出に関する苦情の解決および紛争の仲裁
  - ⑥ 組合員のためにする普通輸出保険包括保険契約の締結
  - ⑦ 合板の輸出に関する組合員に対する事業資金の斡旋
- 等であり、このうち⑤と⑦とは実際に行なっていない。

輸出組合の収入は、組合員1人当り年36,000円の組合費と、輸出合板に対する附加金（アメリカ向けラワン輸出においては1立方フィート当り25¢、国産材輸出においては35¢、アメリカ以外地域向け輸出ではラワン材については15¢、国産材については25¢）である）の2つによってまかなわれている。

日本合板検査会は、昭和24年4月に設立されたものであって、こ

の目的は、合板の検査をおこない、合板の質の向上をはかり、合板産業の発展を図ることにある。

昭和33年には輸出検査法に基いて、かなり权威のある検査をおこなっている。

この収入は検査料によってまかなわれている。

以上、東京ばかりでなく、日本全国に亘る合板製造業の組織についてであるが、次に主として東京市場における製造業の組織についてふれる。

この組織として、東京合板工業組合と東京都合板工業協同組合の2者がある。

まず前者の東京合板工業組合についてであるが、これはすでにのべたごとく日本合板工業組合の12月1日における解散とともに修正してできたものである。

これは、東京だけではなく、埼玉県、栃木県、群馬県、茨城県、千葉県、神奈川県、新潟県、山梨県および長野県における製造業者を対象とし、この目的は、合板製造業の改善発展を図るための必要な事業をおこない、組合員の公正な経済活動の機会を確保し、ならびにその経営の安定および合理化を図ることにある。そしてこのための事業として、

- ① 合板製造業に関する指導および教育
- ② 合板製造業に関する情報または資料の収集および提供
- ③ 合板製造業に関する調査研究
- ④ 安定事業に関する次に掲げる制限

イ 組合員の生産する合板の種類に関する制限



ロ、組合員の生産する合板の出荷数量に関する制限

ハ、組合員の生産する合板の生産設備に関する制限

ニ、前各号に掲げる制限に附帯する事業

⑤ 合理化事業に関する次に掲げる制限

イ、組合員の生産する合板の種類に関する制限

ロ、前号に掲げる制限に附帯する事業

等がある。しかしいまのところ④と⑤の活動はおこなわれているようには思われない。

次に、東京都合板工業協同組合についてであるが、東京市場における製造業の組合としては、実際にはこれだけが活発な経済活動をしているだけである。現在の東京都合板工業協同組合の組織は、昭和24年7月に認可され、設立されたもので、それ以前においては統制組合として存在していたものである。

この組合の目的は、組合員の相互扶助の精神に基き、組合員のために必要な共同事業をおこない組合員の公正な経済活動の機会を確保し、もって組合員の自主的な経済活動を促進し、かつその経済的地位の向上を図ることにあり、このための事業として、

① 生産、加工、販売、購買、保管、運送、その他組合員の事業に関する共同施設

② 組合に対する事業資金の貸付（手形割引をふくむ）および組合員のためにするその借入

③ 中央金庫、信用協同組合または銀行に対する組合員の債務の保証またはこれらの金融機関の委任を受けてする組合員に対するその債権の取立て

④ 組合員の経済的地位の向上のためにする団体協約の締結

⑤ 組合員の事業に関する経営および技術の改善向上または組合事業に関する知識の普及を図るための教育および情報の提供

⑥ 組合員の福利厚生に関する施設

⑦ 前各号の事業に附帯する事業

等である。

このうち実際にやっている経済活動は、金融、原木ならびに副資材（ロータリーレースの、テープ等）の共同購入等である。

この組合の資本金は、昭和35年頃に組合員が積み立てた1億4000万円と、金融の場合の日次約2厘の附加金である。現在、その資本の金額からいって約4億円程度の金は動かせるといわれる。

組合員は37名であり、有力な製造業者はほとんど参加しており、有力な組合である。したがって、合板価格の問題についても、不安定時には臨時、後述する東京における向屋組合側と会合を開いて解決を図っているといわれる。

次に、合板専門向屋の組織についてみる。

全国に亘る向屋組合としては、日本ベニヤ商業連合会がある。

これは昭和30年11月に成立されたもので、この目的は、定款第1条にあるごとく、「ベニヤ板業相互の親善をはかり、斯業の向上発達ならびに福利増進」にあるわけで、いうならば懇親会的なものである。この事業内容は、懇親をはかる以外に、オノフ条にみられるように「ベニヤ板に関する有効なる発明、もしくは大なる新用途を開拓したる者ならびに販売業のために功労ありたる者は申出または推薦により表彰し、あるいは便宜をあたうることを得」とある。



現在 この連合会は、東京支部（東京ベニヤ板業組合 118、神奈川  
県合板同業協同組合 8、静岡県ベニヤ販売組合 19）、名古屋支部  
（名古屋合板販売組合 41）、大阪支部（大阪ベニヤ板商業組合 28、  
兵庫県ベニヤ板商業組合 27、京都ベニヤ板商業組合 16、和歌山ベ  
ニヤ板 15 会 7、岡山ベニヤ板商業組合 7、四国地区 17、九州地  
区 15）の 3 支部 357 社より構成されている。

次に、東京市場における向屋組織についてふれる。

この組合としては、東京ベニヤ板業組合、東京都ベニヤ板同業協同  
組合ならびに東京合板同業協同組合の 3 つがある。

まず、東京ベニヤ板業組合についてであるが、これは、前述のごと  
く日本ベニヤ板商業連合会の東京支部のうちの東京地区における組織  
であり、この組合の目的も日本ベニヤ板商業連合会のものと同一であ  
るので、これ以上の説明は省略する。

東京都ベニヤ板同業協同組合は、昭和 27 年 5 月に、増田晋之、丹  
羽保、小島広吉、安井三郎 の 4 氏の発起により設立されたものである。

この目的は、組合員の相互扶助の精神にとづき、組合員のために  
必要な共同事業をおこなひ、組合員の公正な経済活動の機会を確保し、  
もって組合員の自主的な経済活動を促進し、かつその経済的地位の向  
上を図ることを目的とするもので、主な経済活動として、

- ①、販売、購買、その他組合員の事業に関する共同施設
- ②、組合員に対する事業資金の貸付（手形割引をふくむ）および組合  
員のためにする借入
- ③、別に定める銀行または信用金庫に対する組合員の債務の保証また  
はこれらの金融機関の委任を受ける組合員に対するその債権の

取立て

- ④、組合員の経済的地位の向上のためにする団体協約の締結
  - ⑤、組合員の事業に関する経営および技術の改善向上または組合  
事業に関する知識の普及を図るための教育および情報の提供
  - ⑥、組合員の福利厚生に関する施設
  - ⑦、前各号の事業に附帯する事業
- 等があげられる。

現在、1口当り 30 円で、平均して 1 人 3 口を所有している。

融資額は、それぞれの信用に応じて決められるが、総額 2—8 億円  
ほどが組合員に貸付けられている。

この組合の役員は、理事 6 名、監事 2 名であり、理事のうち 1 人は  
理事長、2 人は副理事長であるが、彼等は理事会において選任されて  
いる。組合員は、18 名で、これらの人々は大部分、東京市場におけ  
る重要な流通の担い手であるオノ次向屋の人々である。この組合はお  
そらく向屋の組合としては全国で最も活発なもの、1 つであろう。

先に、価格の不安定の時期に、東京都合板工業協同組合は生産者の  
代表として、向屋側と会って話会うとのべたが、向屋側の代表として  
は、主としてオノ次向屋によって構成されているこの東京都ベニヤ板  
同業協同組合が次にのべる東京合板同業協同組合よりも、よりウエイ  
トが高いと考えることができる。

最後に、東京合板同業協同組合についてふれる。

これは昭和 37 年 8 月に 30 人の向屋業者により設立されたもので  
ある。この設立の動因は、すでにふれたオノ次向屋により結成された  
東京都ベニヤ板同業協同組合には簡単に入るができなかったこと、



しかし相互の経済扶助は、先ノ次同屋の人達に優るとも劣らないほどの必要性があったことにあるものと思われる。

この組合の目的は、東京都ベニヤ板同屋協同組合と同じであるので省略し、事業内容にだけふれると、

- ① 組合員の取扱品の共同販売、共同購買、共同保管、共同運送
  - ② 販売価格、その他組合員の事業に関する協定
  - ③ 組合員に対する事業資金の貸付（手形の割引をふくむ）および組合のためにする借入
  - ④ 同工組合中資金庫、その他組合員の取引金融機関に対する組合員の債務の保証またはこれらの金融機関の委任をうけておこなう組合員に対する債務の取立
  - ⑤ 組合員の経済的地位の向上のためにする団体協約の締結
  - ⑥ 組合員の事業に関する経営および技術の改善向上または組合事業に関する知識の普及をはかるための教育および情報の提供
  - ⑦ 組合員の福利厚生に関する事業
  - ⑧ 前各号の事業に付帯する事業
- 等である。

出資額はノ口 30万円で、ノ人平均 4口で、現在ノ人当り180万円の融資がおこなわれている。したがって金融総額は5,400万円であり、その額の点で東京都ベニヤ板同屋協同組合より遙かに小さい。

(注ク) 杯野庁 普通合板近代化計画書

(注カ) 同上

### 3-2-3 大阪合板市場の構造

#### 3-2-3-1 大阪合板市場の概況

大阪市場における合板流通の概況について、東京市場における場合と同じく、普通合板と二次加工合板の二者に分け、まず前者より説明する。

昭和57年に例をとると、大阪市場に流通する普通合板の総生産量は約4,300万平方メートルほどである。この数量を100とした場合、材5割にみられるごとく、商社に25、専門同屋（大阪と名古屋市場では先ノ次と先ノ次同屋に分けられていない）に25、二次加工業者30、スウェーデン、丸五、相互および南港といった木材同屋に10、大口消費者に5、地方合板卸商に5というように販売されている。

全体の25%の普通合板を購入した商社は、これを二次加工業者に10、専門同屋に8.8、木材同屋に5、地方合板卸商に1.2を販売している。

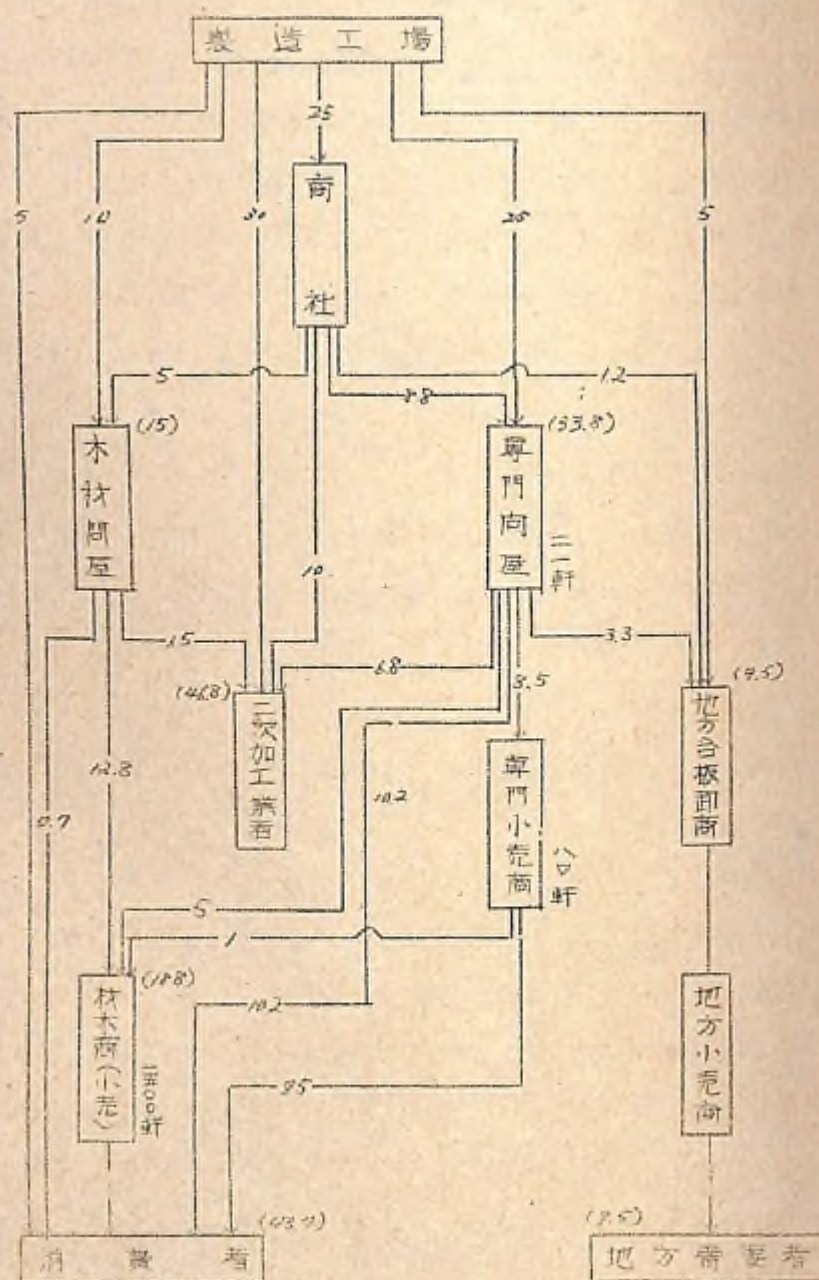
製造工場から10、商社から5、合計15を購入した木材同屋はこれを木材商に12.8、二次加工業者に1.5、大口消費者に0.7、と販売している。

専門同屋は、製造工場から25、商社から8.8、合計33.8ほど購入し、これを消費者に10.1、専門小売商に8.5、二次加工業者に6.8、材木商に5、地方合板卸商に3.3と販売している。

二次加工業者は製造工場から30（この中には自社で作った普通合板を二次加工の方に廻しているものをふくんでいる）、商社から10、専門同屋から6.8、木材同屋から1.5、計48.3を購入し、これに二次加工をほどこしている。



第5図 大阪における普通合板流通機構図



専門問屋から8.5の合板を購入した専門小売商は、これを消費者に2.5、材木商に1.5ほど販売している。

次に二次加工の流通概況についてみる。

大阪市場における二次加工合板流通量はほぼ800万平方メートルと推定される。これをいま100とした場合、第6図に示されるように、まず二次加工業者から商社に40、専門問屋に35、地方合板卸商に12、木材問屋に10、専門小売商に3というように販売されている。

商社は二次加工業者から購入した40の二次加工合板(以下単に合板という)を、専門問屋に22、木材問屋に10、福井、滋賀、奈良以西の地方合板卸商に8と、それぞれ販売している。

商社から22、二次加工業者から35、計57の合板を購入した専門問屋は、それを専門小売商に31.4、材木商に8.5、地方合板卸商に同じく8.5、木材問屋に5.7を販売している。

二次加工業者から10、商社から10、専門問屋から57、計77を購入した木材問屋は材木商に19.3、専門小売商に3.8、消費者に2.6を販売している。

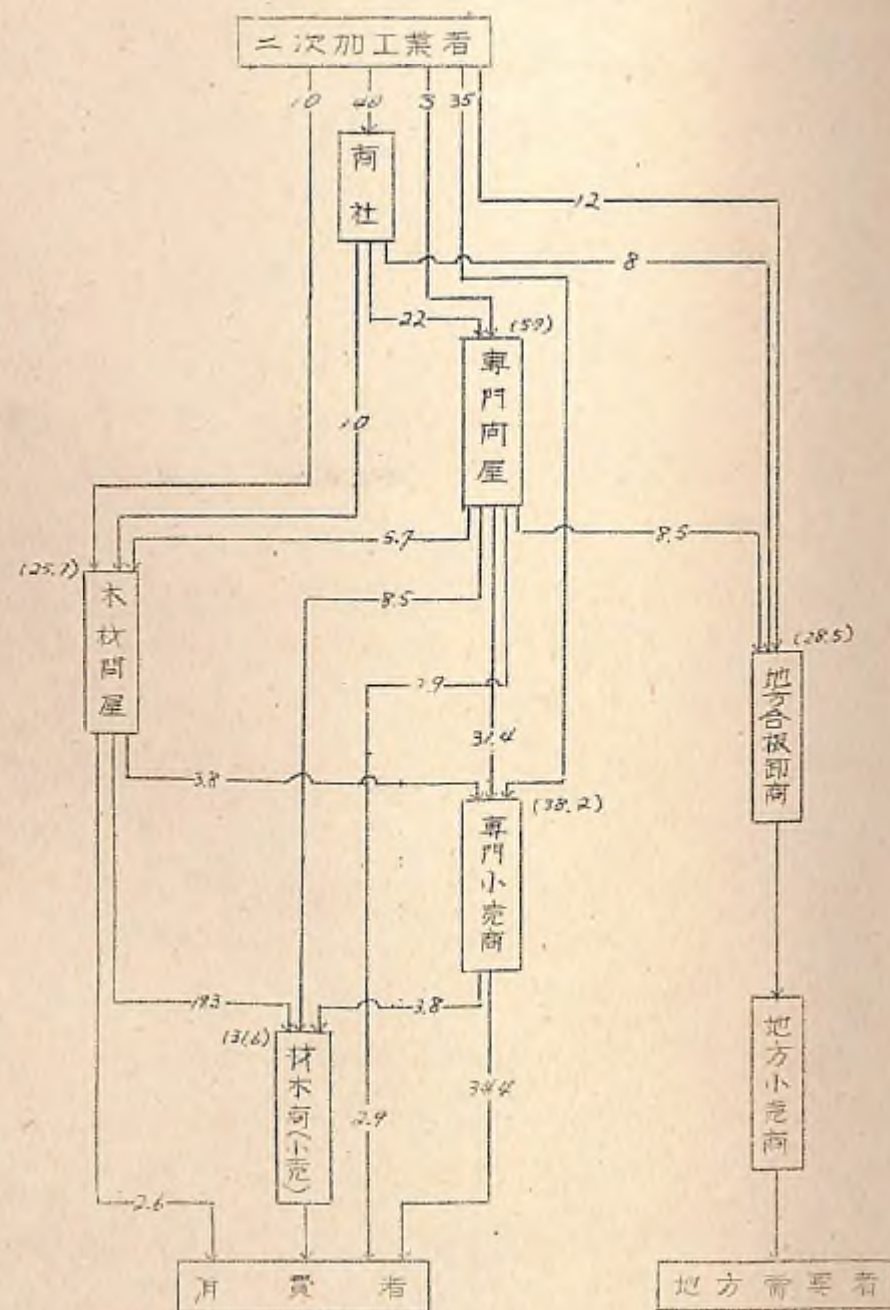
専門小売商は、専門問屋から31.4、木材問屋から3.8、二次加工業者から3、計38.2を購入している。これを消費者に34.4、材木商に3.8を販売している。

材木商は木材問屋から19.3、専門問屋から8.5、専門小売商から3.8、計31.6を購入し、これを消費者に販売している。

以上が大阪における合板流通の概況であるが、次に合板の生産と流通に関連する各機関について、それぞれ考察してみる。



図4 大阪における二次加工合板流通図



### 3-2-3-2 合板製造業

東京市場におけると同じく従業員数で分類した大阪市場の合板工場をみると、表3-2表のごとく、従業員数400人以上のオ1階層工場は、永大、長浜および北新合板の3。200～400人のオ2階層工場は、協同ベニヤ以下4。100～200人のオ3階層工場は、大阪合板以下8。100人未満のオ4階層工場は、大越ベニヤ以下7。合計22工場である。

このほか、小規模工場がかなり存在しているが、生産量からいって無視できる程度であるといわれる。

大阪における合板製造工場の特徴を、他市場（東京と名古屋）における工場との比較においてみると、まずオ1に、東京市場におけるよりも原木入手において商社よりの購入比率が多いこと。つまり全原木購入量のうち90%を示している。この点は名古屋における場合と似ている。したがって原木購入の面、さらには合板流通においても商社支配の力が相対的に強いことを思わせる。しかも実際にそうである。

オ2に、普通合板製造業で二次加工合板を同時に作っているものも相対的にみても多いこと。この点は3市場のうち最も顕著である。

大阪市場において二次加工製造もやっている合板業者をあげると表3/表（92頁）の通りである。すなわち、大阪市場における総普通合板工場22のうち10、つまり50%近くも二次加工をやっている（東京の場合は既述のごとく、総普通合板工場47のうち13工場、つまり26%が二次加工をやっているにすぎない）。

このように大阪市場において、普通合板工場が二次加工合板も同時に製造しているものが相対的に多い理由は、



表32 大阪市場における合板製造工場

| 工場階層 | 従業員              | 工場数 | 大阪工場                                                              |
|------|------------------|-----|-------------------------------------------------------------------|
| オ1   | 400人以上           | 3   | 永大産業<br>長浜合板<br>北新合板                                              |
| オ2   | 200人以上<br>400人未満 | 4   | 協同ベニヤ<br>トーマン建材工業<br>南海<br>東洋ベニヤ                                  |
| オ3   | 100人以上<br>200人未満 | 8   | 大阪合板<br>大倉工業<br>関西ベニヤ<br>近畿アライウッド<br>ヤ合板<br>南洋商会<br>日本ベニヤ<br>林ベニヤ |
| オ4   | 100人未満           | 7   | 大越ベニヤ<br>中央合板<br>東洋加工<br>土井合板<br>丸甚合板<br>大和川合板<br>ゆたか合板           |
| 計    |                  | 22  |                                                                   |

表33 二次加工もやっている合板製造業者

| 会社名     | 製造品目             |
|---------|------------------|
| 永大産業    | オーバーレイ、プリント、塗装合板 |
| 大阪合板工業  | オーバーレイ合板         |
| 協同ベニヤ   | オーバーレイ、塗装合板      |
| 長浜合板    | オーバーレイ合板         |
| 東洋加工木材  | 塗装合板、化粧バリ合板      |
| 丸甚合板    | オーバーレイ合板         |
| オ合板工業   | オーバーレイ、プリント、塗装合板 |
| 林ベニヤ工業  | オーバーレイ合板         |
| 東洋ベニヤ工業 | オーバーレイ、プリント      |
| 大和川合板   | 天井板              |

- ② 大阪市場の業者が商業面で敏感であること。  
 ③ 東京市場よりも競争が激しく、利益を一層あげるには二次加工までのりださざるを得ないこと。  
 の二者をあげることができる。

次に、このために大阪市場においては、製造工場の規模を東京市場におけるごとく、従業員数でみることは必ずしも妥当でないということである。それは二次加工、とりわけオーバーレイ合板の製造においては、単位生産量当り非常に多くの労力を必要とするからである。このために一応、従業員数で工場規模を分けて経営内容を分析し、規模別工場経営の内容を比較する場合には、充分、対象工場の業態を調



動しておこなわなければならない。

オ4に、東京市場におけるほどではないが、製造工場内に若干の系統関係が存在している。

たとえば 永大産業のごとく、近畿プライウッドで普通合板を作り、阪南特殊でプリント加工し、永大ベニヤで販売するといったように全く同一産業に入っているものもある。また大阪合板と同屋である律田産業といったように同一資本系のものもある。

以上 大阪市場における合板工場の特徴についてみたが、次に、上述のごとく制約条件はあるとしても、東京における場合と同じく規模別に代表的な工場を選んで、その経営内容を紹介してみよう。

まず オ1階層に属するH会社についてであるが、この工場は普通合板部門ではロータリーレーズ3、ドライヤー2、ホットプレス2、ニ次加工部門では破砕機2、ドライヤー2、ホットプレス4、含浸機1といった機械設備をもっている。

従業員は530名で、このうち100～110人が非現業部門の仕事に従事している。

この工場の原木入手は、および販売先は、大部分 商社である。

昭和38年における、この会社の経営収支内容はオ34表にみられるごとく、純収益は284,102,000円、従業員1人当り収益高は2,265,144円となっている。

次に、オ2階層に属するK会社についてふれる。会社の機械設備については調査表の記入もれのため知ることができない。従業員は240人ほどで、このうち40人が非現業である。

・ 原木は主に2つの商社から購入し、販売においては、輸出、内銷と

オ34表 H工場の経営収支内容

| 項 目         |             | 金 額                      |
|-------------|-------------|--------------------------|
| 総<br>支<br>出 | 合 板 原 材 料 費 | 665,058 <sup>1000円</sup> |
|             | 工 場 費       | 281,287                  |
|             | 工 賃 賃 金 給 料 | 134,195                  |
|             | 動 力 料 金     | 33,814                   |
|             | 減 価 償 却 費   | 37,818                   |
|             | そ の 他       | 25,460                   |
|             | 管 業 費       | 149,049                  |
|             | 蔵 買 給 料     | 47,007                   |
|             | 公 租 公 課     | 320                      |
|             | 消 耗 品 他     | 1,668                    |
| 合 計         |             | 914,159                  |
| 総 収 益 高     |             | 1,198,261                |
| 純 収 益       |             | 284,102                  |

みに、主に商社に販売している。

この会社の経営収支はオ35表に示されるように、純収益は200,850,000円、従業員1人当り収益高は4,055,875円である。

オ3階層に入るO会社についてであるが、この会社の機械設備はロータリー3、ドライヤー1、ホットプレス2、カンダー2、さらにニ次加工部門の機械設備として連続ラミネートマシン1台をもっている。



大35表 K 会社の経営収支内容

| 項 目         |             | 金 額                      |
|-------------|-------------|--------------------------|
| 総<br>支<br>出 | 原 材 料 費     | 396,000 <sup>1000円</sup> |
|             | 工 場 費       | 271,820                  |
|             | 工 員 賃 金 給 料 | 72,000                   |
|             | 動 力 料 金     | 7,200                    |
|             | 減 価 償 却 費   | 24,000                   |
|             | そ の 他       | 168,620                  |
|             | 官 業 費       | 104,740                  |
|             | 職 員 給 料     | 15,700                   |
|             | 公 租 公 課     | 3,800                    |
|             | 消 耗 品       | 1,400                    |
|             | そ の 他       | 83,840                   |
| 合 計         |             | 772,560                  |
| 総 収 益 高     |             | 973,410                  |
| 純 収 益       |             | 200,850                  |

従業員は185名で、このうち25名が非現業部門に従事している。  
 原木入手先は、安宅、三菱、津田産業等であり、販売は、二次加工合板については三菱が総代理店となって一手にひきうけ、また普通合板については安宅といった商社のほかに大阪市内の向屋に販売している。

会社の経営収支は大36表にみられるごとく、純収益高 667,605

大36表 O 会社の経営収支内容

| 項 目         |             | 金 額                      |
|-------------|-------------|--------------------------|
| 総<br>支<br>出 | 原 材 料 費     | 368,871 <sup>1000円</sup> |
|             | 工 場 費       | 120,113                  |
|             | 工 員 賃 金 給 料 | 50,464                   |
|             | 動 力 料 金     | 5,152                    |
|             | 減 価 償 却 費   | 13,647                   |
|             | そ の 他       | 50,850                   |
|             | 官 業 費       | 34,016                   |
|             | 職 員 給 料     | 14,344                   |
|             | 公 租 公 課     | 5,827                    |
|             | 消 耗 品       | 13,845                   |
|             | そ の 他       | 34,016                   |
| 合 計         |             | 523,000                  |
| 総 収 益 高     |             | 589,707                  |
| 純 収 益 高     |             | 16,707                   |

円、従業員1人当りの収益高は3,187,605円となっている。

最後に、大4層層のO会社についてみる。この会社はロータリーレス2、ホットプレス1、ドライヤー2といった、つまり1ラインの機械設備をもちている。

従業員は90人ほどで、このうち10人ほどが非現業部門に属している。



オ37表 D会社の経営収支内容

| 項 目         |             | 金 額                      |
|-------------|-------------|--------------------------|
| 繰<br>出<br>支 | 原 材 料 費     | 136,624 <sup>1000円</sup> |
|             | 工 場 費       | 52,782                   |
|             | 工 員 賃 金 給 料 | 22,902                   |
|             | 動 力 料 金     | 2,264                    |
|             | 減 価 償 却 費   | 8,248                    |
|             | そ の 他       | 19,368                   |
|             | 営 業 費       | 18,097                   |
|             | 職 員 給 料     | 6,315                    |
|             | 公 租 公 課     | 3,630                    |
|             | 消 耗 品 他     | 8,152                    |
| 合 計         |             | 207,503                  |
| 繰 入 益 高     |             | 222,060                  |
| 純 収 益       |             | 14,557                   |

原木は津田産業、野村貿易、兼松、大永木材等から120日手形で購入している。

販売は兼松に全部渡している。経営収支はオ37表のごとく、純収益14,557,000円、従業員1人当りの収益高は2,467,333円である。

以上、それぞれの規模階層から、代表的な工場を選んで、その経営内容について紹介したが、これをノ覽表に示すとオ38表にみられる

オ38表 各工場の経営指標

| 工場名 | 従業員数 | 純 収 益                    | 従業員1人当り収益高             |
|-----|------|--------------------------|------------------------|
| H   | 530人 | 284,102,000 <sup>円</sup> | 2,265,144 <sup>円</sup> |
| K   | 240  | 260,850,000              | 4,055,895              |
| O   | 185  | 66,707,000               | 3,187,605              |
| D   | 90   | 14,557,000               | 2,467,333              |

ごとく、純収益高は工場規模の大きくなるにつれて増大している。この点、傾向的には東京市場における製造工場の分析結果あるいは全国の工場を対象にした調査においてみられた、経営能率の中たるみ傾向はみられない。

また従業員1人当りの収益高は、大規模工場Hが最下位であること、およびそれを除いてはほぼ規模層に比例して、大きくなっていることは注目されるべきである。

以上、大阪市場における規模別合板工場の概況についてみたが、次に全工場を一本に考えて、工場の経営と流通について考察する。

このために、大阪市場における工場から、5社を選んでやったわれわれの調査結果によると、次のとおりである。

まず、販売先についてであるが、これは次表にみられるように、販売数量比率をみた場合、商社に60.0%、向屋に32.2%、自社販売2.8%といった割合になっている、われわれが別に有識者に対するききとりと、資料調査によって作ったオ5〜8図におけるよりも、商社のウエイトが高くでているが、このことはここでの調査対象がやや大



表37 合板製造業の販売先

| 販売先  | 商社    | 向屋    | 自社販売 | 計      |
|------|-------|-------|------|--------|
| 販売比率 | 60.0% | 37.2% | 2.8% | 100.0% |

規模工場に傾ったことに起因していると思われるが、傾向としては同じような結果になっているといえる。

東京市場における場合と相違して、商社のウエイトの大きいことが注目されよう。

また地域別、得意先別販売割合をみると、表38表のごとく、大阪市場内への販売が40.6%と圧倒的に多く、ついで福岡に10.6%、東京に10.5%、山陽に8.6%、等々の順になっている。

次に、主な地域について、得意先別販売先をみると、大阪では商社63.6、向屋28.7、大口需要者5.6、二次加工2.1、であり、福岡では商社26.5、向屋12.7、大口需要者5.8、東京では商社21.3、向屋63.2、大口需要者25.6、山陽では商社6.5、向屋93.5といった具合である。

なお、合板種類別の販売先をみると、表40表のごとく、ラワン材については、商社に63.6%、大阪以外の地域の向屋に25.4%、大阪内の向屋に11.1%と販売し、二次加工合板については、商社に42.1%、大阪内の向屋に32%、大阪以外の地域の向屋に42%、その他に2%を販売している。

表40 地域別、得意先別販売割合

| 項目<br>地域         | 地域別   | 得意先別販売割合 |      |      |      |     |      |
|------------------|-------|----------|------|------|------|-----|------|
|                  | 販売割合  | 商社       | 向屋   | 大口需要 | 二次加工 | その他 | 計    |
| 北海道              | 1.3%  | %        | 100% | %    | %    | %   | 100% |
| 東北               | 2.2   | 4.1      | 95.9 |      |      |     | 100  |
| 関東(東京を除く)        | 1.9   | 21.3     | 78.7 |      |      |     | 100  |
| 東京               | 10.5  | 11.2     | 63.2 | 25.6 |      |     | 100  |
| 北陸               | 5.9   | 10.5     | 89.5 |      |      |     | 100  |
| 中部<br>(愛知、静岡を除く) | 0.6   | 35.1     | 64.9 |      |      |     | 100  |
| 静岡               | 0.8   |          | 100  |      |      |     | 100  |
| 愛知               | 3.7   | 9.8      | 90.2 |      |      |     | 100  |
| 近畿(大阪を除く)        | 5.5   | 30.6     | 69.4 |      |      |     | 100  |
| 大阪               | 40.6  | 63.6     | 28.7 | 5.6  | 2.1  |     | 100  |
| 山陰               | 2.7   | 5.0      | 95.0 |      |      |     | 100  |
| 山陽               | 8.6   | 6.5      | 93.5 |      |      |     | 100  |
| 四国               | 4.5   | 1.3      | 98.7 |      |      |     | 100  |
| 福岡               | 10.6  | 26.5     | 73.7 | 5.8  |      |     | 100  |
| 九州(福岡を除く)        | 0.6   | 13.6     | 86.4 |      |      |     | 100  |
| 計                | 100.0 |          |      |      |      |     |      |



大阪の合板種類別販売先

| 合板種類   | 販売先  | 向 屋   |       | 商 社   | 大口需要者 | その他 |
|--------|------|-------|-------|-------|-------|-----|
|        |      | 県 内   | 県 外   |       |       |     |
| 普通合板   | ラワン材 | 11.1% | 25.4% | 63.6% | 4%    | 4%  |
|        | 国産材  |       |       |       |       |     |
| 二次加工合板 |      | 37.0  | 4.7   | 42.1  | 14.2  | 2.0 |

(備考) 県内とは自社が所在する都道府県をさす。

### 3-2-2-3 ニ次加工業

普通合板製造業者で二次加工までやっているものは10社であることは既述のとおりであるが、このほか二次加工を専門にやっている大手会社としては、朝日特殊合板、協同化粧合板(昭和37年9月に協同ベニヤと合併)、小池化粧合板ならびに阪南特殊合板(永大産業の子会社)等がある。

このほか、小規模な二次加工業者がたくさん存在しているが、その実態については明白でない。

なお、大阪市場において注目されるべきことは合板問屋で二次加工もやっているものが東京と名古屋に対比して非常に多いことである。たとえば、ツバメ建材(塗装合板)、浪速合板(プリント、オーバーレイ合板)、日尾合板(はり天)、ユタカ木材工業(はり天)、金甲物産(塗装合板)といった大手問屋に二次加工をやっているものが多くみられる。この理由については、問屋のところでも述べた。

### 3-2-3-4 商 社

大阪の合板流通において商社の占めるウエイトは、相対的に高い。普通合板と二次加工合板に大別して、商社の流通上における機能と活動概況についてみる。

まず、普通合板流通についてであるが、すでに述べたごとく商社は大阪市場における全流通量の約25%を製造工場より購入し、これを二次加工業者に10、専門問屋に5、木材問屋に5、地方合板卸商に1.2とそれぞれ販売している。

ところで大阪市場における、それぞれの商社の取扱量は如何程であろうか。

いま、商社全体の取扱量を100とした場合、兼松22%、安老19%、三井18%、三菱14%、伊藤忠7%、その他20%と推察される。

兼松は北新合板の全生産量を取扱い、また伊藤忠は広葉樹合板を取扱っていることは注目されるべきである。

次に、二次加工合板の流通についてであるが、大阪市場に供給される二次加工合板は、60%ぐらいが大阪に存在する二次加工業者からのこと、40%が名古屋(主として中村合板—ナフコ—、東洋ベニヤ等)、静岡(野田合板—カッパ—等)ならびに九州(校谷合板等)等から入荷されている。

二次加工合板の流通における商社のウエイトは普通合板の場合よりも、さらにおおきく、全入荷量の40%が商社を通じ、これは専門問屋に2.2、木材問屋に1.0、地方合板卸商に8とそれぞれ販売されている。



全入荷量を、それぞれの商社が如何程取扱っているかを正確に推定することは難かしいが、比較的推定しうるプリント合板を中心に考えれば、全取扱量を100とした場合、住友商事 30%、安宅 24%、三井 16%、その他 30%と推定される。

住友商事と安宅の両商社は、中村合板の全ナアコ生産量の75%を販売している。また、三井物産は静岡の野田合板の製品を取扱っている。

拓足になるが、静岡の野田合板の製品は、安宅、兼松、三井、三菱等で全額取扱っているといわれる。

商社の合板購入と販売における決済は、いずれも手形(120~130日)でおこなわれていると考えられる。

いずれにしても、大阪の合板市場における商社の進出は東京におけるよりも激しく、強い。

この理由としては、

- ① 大阪市場においては、東京市場におけるよりも二次加工部門の発展が顕著であること。二次加工部門の発展にあたっては、既述のごとく、外国から新製品製造の機械を購入する際に多額の資本が必要であること。また新製品販売上における危険負担を分散する必要性があること。さらに利益率が二次加工品において、より高いこと。
- ② 木材市場において、他市場にみられないほど圧倒的な配力をもつていた木材商の積極的な進出と背景となる合板需要が東京市場におけるほど大きくない等の理由で、合板専門商の経済力が東京におけるほど強くないこと、等があげることができる。

商社のマージンは、東京におけると同じく平均的にいって、普通合板において2~3%、二次加工品において4~5%と一般にいわれている。

大阪の商社の中には、永大とか長浜合板等の製造業者が消費者に直接販路網を作っていくという動向に対応して、自ら地方の合板卸売商を資本的にバック・アップして、販路戦において対抗して行こうとする態度を積極的にとっていくものもある。ここらにも、大阪市場の競争激化の一端をみることができる。

### 3-2-3-5 合板専門商屋

大阪市場における合板専門商屋は約2/軒ほどである。

これらの商屋の年次別建材取扱量を、15軒の商屋を対象にしておこなった調査結果よりみると、表4-2にみられるごとく、38年だけについていえば、金額で表わした総販売額を100とした場合、二次加工合板が42.8%、普通合板が31.8%、繊維板が6%、石膏ボードが4.2%、合成樹脂製品3.9%、パーティクルボードが3.1%、製材品が1.8%、陶器セメント製品0.8%、丸太が0.2%といった順序と割合を示している。時系列的にみると、東京におけると同じく普通合板の取扱割合が減少し、逆に、二次加工合板の増加しているのが注目される。

表4-2 年次別建材取扱量

| 取扱建材 | 合板   |        | 繊維板 | パーティクルボード | 石膏ボード | 製材品 | 丸太  | 合成樹脂製品 | 陶器セメント製品 | その他 | 計    | 備考 |
|------|------|--------|-----|-----------|-------|-----|-----|--------|----------|-----|------|----|
|      | 普通合板 | 二次加工合板 |     |           |       |     |     |        |          |     |      |    |
| 36年  | 58.5 | 32.8   | 2.7 | 3.6       | 3.0   | 0.2 |     | 2.1    | 0.2      | 5.6 | 100% |    |
| 37年  | 38.1 | 32.1   | 2.1 | 3.8       | 4.2   | 1.7 |     | 4.1    | 0.6      | 5.1 | 100% |    |
| 38年  | 31.0 | 42.8   | 6.0 | 3.1       | 4.2   | 1.3 | 0.2 | 3.9    | 0.8      | 6.7 | 100% |    |

ともあれ、こういった建材の取扱い内容をもつ、商屋は、普通合板については、製造工場から全流通量の25%、商社から35%、計30%を購入し、これを大口消費者に10.2%、専門小売商に0.5%、材木商に



5. 地方合板卸商に3.3をそれぞれ販売している。また、二次加工合板については、二次加工業者から全体の35%、商社から22%、計57%を購入して、それを専門小売商に31.4、材木商に8.5、木材向屋に5.7、消費者に2.9、地方合板卸商に8.5を、それぞれ販売している。また、二次加工合板については、二次加工業者から全体の35%、商社から22%、計57%を購入して、それを専門小売商に31.4、材木商に8.5、木材向屋に5.7、消費者に2.9、地方合板卸商に8.5を、それぞれ販売している。

いま、同じく15軒の向屋を対象にしておこなった調査結果により、地域別購入および販売割合をみると、表43表のごとく、仕入先地域は、関東と中部を除く各地域に亘っているが、愛知(39.6)と大阪(35.2)が主で、これで全体の74.8%を占めている。また販売地域は、それこそ全地域に亘っているが、大阪(46.2)と近畿(18.6)が主で、これで全体の64.8%を示している。

以上が、大阪における合板向屋の業態と流通の概況であるが、最後に、このしめくりとして、他市場の対比をおいてみた。合板向屋の特徴についてみると次のとおりである。

① 大阪の合板向屋の経営規模は、おしなべて東京におけるよりも小さいこと。すなわち、東京のオノミヤ向屋に近い規模をもつものとしては、せいぜい協和産業、菊永、浪速合板、林ベニヤ、北村恵南車および金甲物産の6社くらいで、あと15軒は、東京のオノミヤ向屋ないしそれ以下ぐらいの経営規模をもっているにすぎない。

② 大阪における合板製造業者の特徴として、二次加工も同時にやっているものが相対的に多いことは既述したが、向屋も二次加工をやっ

表43表 地域別購入および販売割合

| 項目<br>地域     | 仕入数量<br>比率 | 販売数量<br>比率 | 項目<br>地域  | 仕入数量<br>比率 | 販売数量<br>比率 |
|--------------|------------|------------|-----------|------------|------------|
| 北海道          | 4.6        | 0.9        | 近畿(大阪を除く) | 0.6        | 18.6       |
| 東北           | 0.9        | 0.7        | 大阪        | 35.2       | 46.2       |
| 関東(東京を除く)    |            | 0.8        | 山陰        | 2.6        | 1.0        |
| 東京           | 5.2        | 3.4        | 山陽        | 1.5        | 3.6        |
| 北陸           | 0.3        | 1.8        | 四国        | 1.6        | 4.8        |
| 中部(愛知・静岡を除く) |            | 2.9        | 福岡        | 1.0        | 2.6        |
| 静岡           | 4.5        | 1.1        | 九州(福岡を除く) | 1.8        | 4.9        |
| 愛知           | 39.6       | 6.7        | 計         | 100.0      | 100.0      |

ているものが相対的に多いことは既述したが、向屋も二次加工をやっているものが相対的に多いことがあげられる。

たとえば、ツバメ建材、浪速合板、日鹿合板、林ベニヤ、ユタカ、木材工業および金甲物産等が指摘される。

③ おしなべて向屋といっても、かなり消費者に直売するものが多いこと。たとえば、紅中商会、紅屋商会等は、材木商に卸売するというよりも、主として大口消費者への直売をやっている。

上述の②③の特徴点からいって、大阪市場には、結局、東京市場におけるように絶然たる向屋というものが存在しないということにもなるわけである。

この原因は一体、奈良にあるというのであろうか。

このことについては、すでに別の角度からふれたが、重要なことな



ので重複することをいとわず次に列挙してみる。

- ① 東京市場におけるほど、大阪市場には大きな需要がなく、資本的に東京ほど強かになれなかったこと。
- ② 東京と名古屋間市場にみられないほど、木材流通上強力なウエイトを占めている木材市売会社の木材問屋が、伊勢湾台風以後、建材販売の上で従来関係の深かった材木商のルートを通じて合板の販売にのりだしてきたこと。
- ③ 大阪市場において、最も顕著に二次加工合板が生産されるようになって、既述のごとき理由（これについては商社の項を参照）によって商社の合板流通上におけるウエイトが一層強くなってきたこと。

### 3-2-3-6 木 材 問 屋

大阪市場においては木材は、古くから主として市売を通じて小売商に販売されてきた。

この市売というのは、いくつかの市売集荷問屋が木材を集荷し、セリ売買により材木商に木材を販売するものであり、したがって、大阪においては古くから市売集荷問屋の資本力が大きく、また増加してきているのである。

こうした強力な資本力をもつ木材集荷問屋は、従来まで一般用材を中心にとりあつてきたのであるが、既述のごとき伊勢湾台風を契機にして、昭和32年6月から、まず丸五商店が合板の取扱いを始め、その後、相次いで有力な問屋が、合板を取扱うようになってきている。

現在、成瀬、久我、丸五、南港および相互等が大きく取扱っている。

これらの取扱い割合は、普通合板と二次加工合板を合わせた木材問屋の総取扱量を100とした場合、成瀬30%（主として普通合板）、久我30%、丸五25%（主としてプリント合板）、南港と相互で15%といったところである。

現在、これらの問屋の経営方法は、丸五は同一商店の部門別として合板を取扱っているが、他の久我、成瀬等では全く木材部門と別個の経営体として合板を取扱っている。たとえば久我では木材を取扱う店を久我商店、合板類を取扱う店を久我産業といっている。

これらの木材問屋は当初、合板流通に占めるウエイトは非常に小さかったが、逐年大きくなってきている。これは1つには、前述のごとき、彼等の資本力の大きいこと、2つには、従来までの木材流通を通じての材木商との緊密な人間関係によるものと思われる。

ところで、4軒の木材問屋を対象にしておこなった調査結果によつて、彼等の年次別建材取扱量をみると、オ々々表のごとき、38年に例をとると、二次加工合板36.1%、普通合板14.7%、合成樹脂製品11.7%、石膏ボード8.6%、製材品と陶器セメント製品はそれぞれ7.1%、繊維板4.7%、パーティクルボード3.6%といった割合と順序を示している。ここでも逐年傾向として普通合板の取扱割合の減少してきているのが注目される。さらに、木材問屋にしては、製材品の取扱割合が小さいことが目につくが、これは前述のごとき、大部分の木材問屋が資本的には同一ではあるのに、一応合板部門と別個の経営体として考えているためである。

次に、オ5～6回によつて、ここでふたたび木材問屋の合板流通上におけるウエイトを印象づけるために、彼等の流通取扱量をみてみよう。



表44 年次別建材取扱割合

| 取扱建材      | 36年   | 37年   | 38年   | 備考 |
|-----------|-------|-------|-------|----|
| 合 普通合板    | 22.3% | 20.8% | 14.7% |    |
| 板 二次加工合板  | 37.2  | 31.9  | 36.1  |    |
| 織 維 板     | 8.6   | 4.9   | 4.7   |    |
| パーティクルボード | 7.4   | 3.9   | 3.6   |    |
| 石膏ボード     | 14.7  | 7.9   | 8.6   |    |
| 製 材 品     | 1.2   | 9.9   | 7.1   |    |
| 丸 太       |       |       |       |    |
| 合成樹脂製品    | 7.4   | 11.8  | 11.7  |    |
| 陶器セメント製品  |       | 7.9   | 7.1   |    |
| そ の 他     | 1.2   | 1.0   | 6.4   |    |
| 計         | 100   | 100   | 100   |    |

普通合板においては、木材向屋は、大阪における全普通合板流通量を100とした場合、10を製造業者から、5を商社から購入し、これを材木商に12.8、二次加工業者に1.5、消費者に0.7とそれぞれ販売している。

二次加工合板においては、全二次加工合板流通量を100とした場合、業者から10、商社から10、さらに専門合板向屋から5.7、計25.7を購入し、これを材木商に17.3、専門小売商に3.8、消費者に2.6とそれぞれ販売している。

次に、表44表の場合と同じ調査による、地域別購入および販売

割合をみると、表45表のごとく、仕入先は主として大阪(75.2%)と愛知(14.7%)で、これで全体の89.9%を占めている。また販売先は大阪(79%)と近畿(11.4%)が主体で、全体の90.4%を示している。

合板向屋の場合より、地域が地元に来集中しているのが注目される。調査結果によると、木材向屋の平均的売上高は、昭和36年に2億7000万円、37年に3億4000万円、38年に4億3000万円となっている。そして彼等のマージンはほぼ5~6%ぐらいであると推定されている。

表45 地域別購入および販売割合

| 地域                | 項目   | 仕入数量<br>比率 | 販売数量<br>比率 | 地域        | 項目  | 仕入数量<br>比率 | 販売数量<br>比率 |
|-------------------|------|------------|------------|-----------|-----|------------|------------|
| 北海道               |      | %          | %          | 近畿(大阪を除く) |     | 0.5        | 11.4       |
| 東北                |      |            |            | 大 阪       |     | 75.2       | 79.0       |
| 関東(東京を除く)         |      |            |            | 山 陰       |     |            |            |
| 東 京               | 0.8  |            |            | 山 陽       | 0.6 |            |            |
| 北 陸               |      | 1.2        |            | 西 国       | 0.3 | 4.9        |            |
| 中 部<br>(愛知・静岡を除く) |      |            |            | 福 岡       |     |            |            |
| 静 岡               | 7.9  |            |            | 九州(福岡を除く) |     |            | 2.3        |
| 愛 知               | 14.7 | 1.2        |            | 計         |     | 100        | 100        |



### 3-2-3-7 専門小売商および材木商

大阪市場には約80軒ほどの専門小売商が存在している。

専門小売商は、普通合板の流通においては、全普通合板流通量を100とした場合、85と10%に満たないわずかの合板を専門向屋から購入し、これを消費者に25、材木商に1とそれぞれ販売している。二次加工合板の流通においては、全二次加工合板流通量を100とした場合、専門向屋から31.4、木材向屋から38、さらに二次加工業者から3、合計38.2を購入し、これを消費者に大部分の34.4を、のこり3.8を材木商に販売している。

次に、材木商についてふれるが、材木商は大阪市場に約1500軒ほど存在している。

材木商の建材別取扱割合を、116軒の調査結果よりみると、木材77%、合板17%、その他4%といった割合を示している。

こういった取扱内容をもつ材木商は、普通合板においては全普通合板流通量を100とした場合、木材向屋から12.8、専門向屋から5、専門小売商から1、合計18.8を購入して、これを消費者に販売している。二次加工合板については、木材向屋から18.3、専門向屋から8.5、専門小売商から3.8、合計30.6を購入し、これを消費者に販売している。

116軒の材木商の調査結果によって、合板種類別販売先別取扱数量割合をみると、ヤ44表のごとく、ラワン材合板については、建具製造業者(42.5)と土木建築業者(36.4)が主体で、全体の78.9%を、国産材合板についてはその他工作業者(63%)と土木建築業者(35.7%)が主体で全体の98.7%を、また二次加工合板では主

ヤ44表 合板種類別販売先別取扱数量割合

| 合板の種類<br>販売先 | ラワン材合板 | 国産材合板 | 二次加工合板 | 総 計   |
|--------------|--------|-------|--------|-------|
| 土木建築業者       | 36.4%  | 35.7% | 84.3%  | 55.6% |
| 家具製造業者       | 2.5    |       | 微      | 1.5   |
| 建具製造業者       | 42.5   | 微     | 2.6    | 29.7  |
| その他工作業者      | 2.8    | 63.0  | 3.0    | 6.2   |
| 家庭用          | 3.8    | 0.2   | 6.8    | 5.0   |
| 学校教材用        | 0.4    | 微     |        | 微     |
| 展示装飾業者       | 0.7    |       | 3.0    | 1.7   |
| 包装業者         | 微      |       | 微      | 微     |
| その他          | 微      |       |        | 微     |
| 計            | 100    | 100   | 100    | 100   |

に土木建築業者で全体の84.3%を占めている。

総計してみた場合には、土木建築業者(55.6%)と建具製造業者(29.7%)が主体で全体の85.3%を占めている。

### 3-2-3-8 製造業および流通業の各種団体

大阪における製造業者の団体は、日本合板工業組合大阪支部、大阪府合板工業組合および関西合板工業協同組合の3者である。

日本合板工業組合大阪支部は、従来、親睦とか統計調査および普及等を目的として活動していたが、既述のごとく昭和37年12月1日をもって解散し、現在、新たな組織として誕生している。



関西合板工業協同組合は、長浜、中央合板、大阪合板、協同ベニヤ、東洋ベニヤおよび大和川合板の6社で作っている組合であり、現在、東洋ベニヤの辻良一氏が組合長をやられている。

この組合は、定款の次の条にもあるごとく、組合員の相互扶助の精神に基き組合員のために必要な共同事業をおこない、もって組合員の自主的な経済活動を促進し、かつその経済的地位の向上を図ることを目的としている。

この組合は、昭和35年以前ぐらひまではかなり活発に活動していたが、現在は資材の共同購入といった仕事以外あまり積極的な経済活動はやっていない。

次に、大阪府合板工業協同組合についてふれる。この組合は昭和24年12月に発足したものである。

この組合は、組合員が相互扶助の精神に基き、共同して合板業の経営のため必要とする事業をおこない、組合員の公正な経済活動の機会を確保し、もってその自主的な経済活動の促進と経済的地位の向上を図ることを目的としている。

このための事業として、

- ① 販売、購買、保管、運送その他組合員の事業に関する共同施設
- ② 組合員に対する事業資金の貸付（手形の割引をふくむ）および組合員のためにするその借入
- ③ 本組合指定の金融機関に対し組合員の負担する債務の保証または、その金融機関の委任を受けてするその債権の取り立て
- ④ 組合員の事業に関する経営および技術の改善向上または組合事業に関する知識の普及を図るための教育および情報の提供

⑤ 組合員の経済的地位の改善のためにする団体協約の締結

⑥ 組合員の福利厚生に関する施設

⑦ 前各号の事業に付帯する事業

等である。

発足当時、数十軒ほどの組合員があつて、1口5000円で、平均3口、つまり15000円ほどの出資をしていたが、その後、不況に遭遇するごとに組合員は脱落し、現在では、永大、北新、関西、近畿、日本合板、大越の6工場が組合員として残っているにすぎない。そして、実質的には全組合株数の約37%を永大が占めている。

いま融資総額は、2000～8000万円ほどであり、この点で関西合板工業協同組合よりも比較的活発であるように思われる。

以上が合板製造業者の組合の概況についてであるが、次に卸売向屋の組合についてふれる。

卸売向屋の組合としては、現在、3つ存在している。すなわち日本ベニヤ板商業連合会の関西支部、大阪ベニヤ板商業組合ならびに大阪ベニヤ板向屋協同組合の3者である。

日本ベニヤ板商業連合会の関西支部の主なる目的は親睦であり、しかもそれについてはすでにふれたので、これ以上の説明は省略する。

大阪ベニヤ板商業組合は、大阪府下ベニヤ板販売業者相互の親睦を図るとともに、合板業の向上発展ならびに福利増進を図ることを目的として設立されたものである。

したがって、その事業内容も

- ① 講演会、研究会の開催
- ② 取引先の情報交換



⑤ 関連団体との連絡

⑥ 優良従業員表彰

⑦ その他本組合の目的を達成するため必要な事項

等であり、経済活動はやっていない。

最後に、大阪ベニヤ板内装協同組合について説明する。

この組合は、組合員相互扶助の精神に基き組合員のために必要な共同事業をおこない組合員の公正な経済活動の機会を確保し、もって組合員の自主的な経済活動を促進し、かつその経済的地位の向上を図ることを目的としている。

このための事業として

- ① ベニヤ板、単板および接着剤等の共同仕入ならびに受託販売
  - ② ベニヤ板の共同販売および輸出
  - ③ 商品の運搬および共同保管
  - ④ 組合員に対する事業資金の貸付手形の割引および借入（有担保）
  - ⑤ 商業組合や中央金庫および特定の市中銀行に対する組合員の債務保証またはこれらの金融機関の委任を受けとする組合員に対するその債権の取立て
  - ⑥ 組合員の経済的地位向上のためにする団体協約の締結
  - ⑦ 組合員の事業に関する経営および知識の普及を図るための教育および情報の提供
  - ⑧ 組合員の福利厚生に関する事項
  - ⑨ 前各号の事業に附帯する事業
- 等である。

いまのところ、これらの事業の中、連帯保証による融資だけをやっ

ている。

現在、1人ほどの組合員がいるが、出資金は1人1口で、1口あたり50万円であり、これに対して融資金額は1人あたり100万円程度になっているといわれる。

### 3-2-4 名古屋合板市場の構造

#### 3-2-4-1 名古屋合板市場の概況

名古屋市場における合板流通の概況も、東京と大阪両市場におけると同じく、普通合板と二次加工合板の2つに分けて説明してみる。

まず、普通合板の流通概況についてみる。昭和37年に例をとると、総生産量は2400万平方メートルである。このうち約55%の1320万平方メートルが名古屋市内で、約5%が中部地区で消費され、のこりの40%が東京（10%）、大阪（11%）に出荷されている。これだけ他所に出荷されておりながら、他方、北海道、静岡県から300万平方メートルぐらい入荷されている。北海道からの入荷される合板は主に国内産材合板である。

数年前までは、名古屋市内以外に出荷される数量が、全生産量の20%ぐらいにおよんでいたが、しかし地方に合板工場の建設されるにつれて、急激に減少して、現在、上述のごとく40%ぐらいまでにおちてきているのである。

したがって、名古屋市場に流通される普通合板数量は、昭和37年に例をとるとほぼ5200万平方メートルと推定される。いま、この流通量を100にした場合、その流通概況はオプ図に示されるとおりである。



すなわち 製造業者が 販売する相手先と販売割合は、専門問屋（約20軒ほど存在する）に45、ついで商社に20、二次加工業者（約30軒ほどの）に同じく20、のこりの15は、材木商（約1000軒）専門小売商（約20軒）ならびに大口消費者に それぞれ5ずつ販売されている。

商社の購入した20の合板は、半分の10が地方合板卸商に、5が材木商に、5が専門問屋に、2が二次加工業者に販売されている。

専門問屋には製造工場から直接購入した45と商社より購入した3、合計48の合板が入るが、これは半分の24が材木商に、10が地方合板卸商に、7が消費者に、2が専門小売商に販売されている。

かくて材木商には34の合板が、また専門小売商には7の合板が入り、それがそれぞれ消費者に販売されている。

また、二次加工業者には27の合板が入荷され、二次加工されている。なおまた地方合板卸商には20の合板が入り、これは直接的にかあるいは地方小売商の手を通じて地方需要者に販売されている。

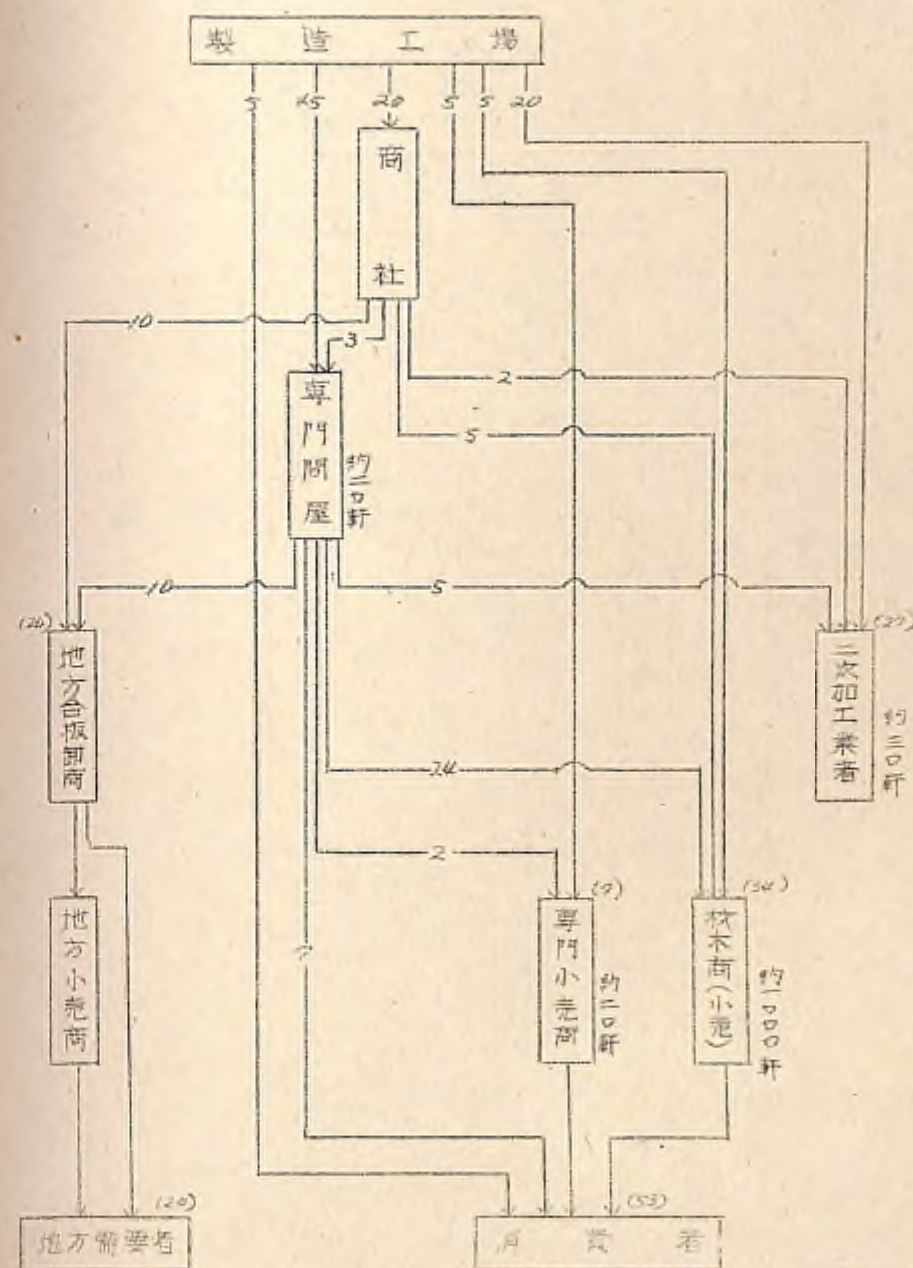
次に名古屋市場における二次加工合板の流通についてみる。

正直にいった名古屋市場に流通される二次加工合板数量については、いまのところ正確には知り得ないが、ほぼ1000万平方メートルと推定される。

いま、この数量を100と考えた場合、それは、ヤサ図にみられるごとく流通されている。

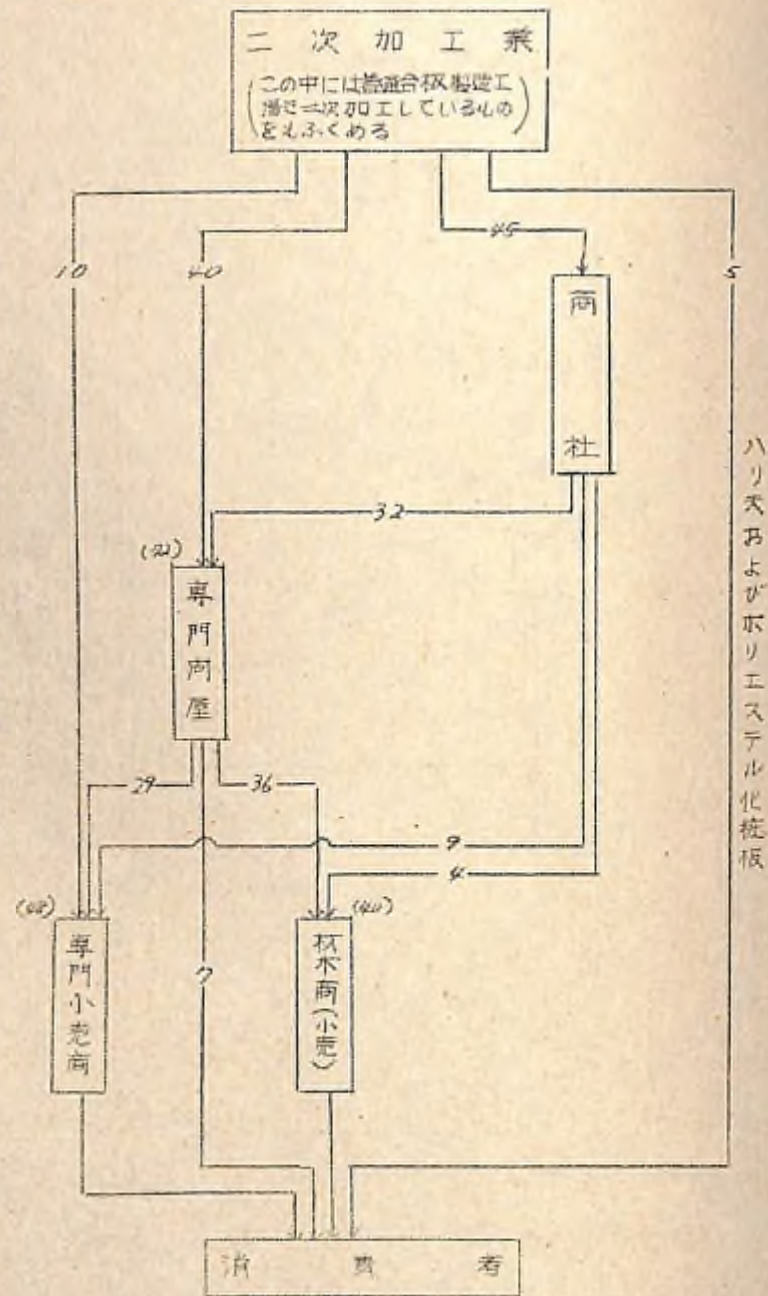
すなわち 二次加工業者より 40が商社に、40が専門問屋に、10が専門小売商に、5が消費者に直売されている。この消費者に直売される製品は主にハリ天板およびポリエステル化粧板である。

ヤサ図 名古屋における普通合板流通機構図





※8図 名古屋における二次加工合板流通機構図



かくて商社が業者から購入した二次加工合板 45 は、専門同屋に 32、専門小売商に 9、材木商に 4 とそれぞれ販売されている。

専門同屋が業者から購入した 72 の二次加工合板は、材木商に 36、専門小売商に 29、消費者に 7 とそれぞれ販売されている。

以上のごとき合板流通の結果、専門小売商に 48、材木商に 40 の二次加工合板が入るが、これはそのまま消費者に販売されている。

以上が名古屋市場における合板流通の概況であるが、以下、それぞれの生産と流通の担い手について説明する。

### 3-2-4-2 合板製造業

名古屋市場には、現在約 46 軒ほどの合板製造業者が存在している。東京、大阪両市場におけると同じく従業員数で分類してみると、オ 47 表にみられるごとく、オノ階層に属する工場は 4 (うち中村合板と名古屋プライウッドは兄弟工場)、オ 2 階層工場は 6、オ 3 階層工場は 11、オ 4 階層工場は 25 といった具合である。

まず名古屋における合板製造工場の特徴についてみると次の事項が指摘される。

まずオノに、東京におけるよりも原木入手において商社購入が多いことである。全原木入手量の約 90 % を商社から購入している。この点では大阪の製造工場に類似している。

オ 2 に、製造工場の規模の差がかなりあって、この点、規模が比較的揃っている大阪市場の工場と異なり、むしろ東京市場に類似性を



オ々ア表 名古屋市場における合板製造工場

| 工場階層 | 従業員              | 工場数 | 名古屋工場                                                                                                            |                                                                                                        |
|------|------------------|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| オ1   | 400人以上           | 4   | 中村合板<br>名古屋プライウッド                                                                                                | 湯浅貿易名古屋工場<br>東洋プライウッド熱田工場                                                                              |
| オ2   | 200人以上<br>400人未満 | 6   | 大建木材名古屋工場<br>井波工場<br>三井木材名古屋工場                                                                                   | フクダ産業<br>東洋薬番<br>東洋プライウッド高蔵工場                                                                          |
| オ3   | 100人以上<br>200人未満 | 11  | 荒川合板<br>井桁麻合板<br>石川合板<br>箱塩合板<br>昭和合板                                                                            | 東海合板<br>名古屋ベニヤ<br>日産木材名古屋工場<br>美深プライウッド<br>興和合板<br>茂井プライウッド                                            |
| オ4   | 100人未満           | 25  | 秋本工業名古屋工場<br>青木合板<br>吾妻合板<br>荒川特殊合板<br>伊藤特殊合板<br>大野化工<br>亀田合板<br>岐阜合板<br>飯藤合板<br>酒井合板<br>三信プライウッド<br>三和合板<br>誠工舎 | 高野合板<br>中京特殊合板<br>南谷合板<br>藤野合板<br>富士商店<br>丸八合板<br>三浦合板<br>名古屋合板<br>豊合板<br>三友合板<br>牧無合板<br>江口木材<br>江口木材 |
| 計    |                  | 46  |                                                                                                                  |                                                                                                        |

もっている。

オ3に 製造工場の生産品目が、多種目に亘っている。この点、東京市場におけるよりも比較的多種目生産をおこなっている大阪の工場よりも、なお一層顕著である。

オ4に 大阪ほどではないが、普通合板製造業者で二次加工をやっているものが、多いということである。

現在、名古屋市場で普通合板製造工場で二次加工もやっているものはオ48表のごとく、13工場中、全工場46のうちの約28%の工場

オ48表 二次加工もやっている合板製造工場

| 工場名          | 製造日              |
|--------------|------------------|
| 中村合板         | オーバーレイ、プリント、塗装合板 |
| 名古屋プライウッド    | オーバーレイ、塗装、化粧張り合板 |
| 湯浅貿易         | 化粧張り、塗装合板        |
| 東洋プライウッド熱田工場 | プリント合板           |
| 高蔵工場         | プリント合板           |
| 東洋薬番         | オーバーレイ合板（ポリエステル） |
| 三井木材名古屋工場    | オーバーレイ合板         |
| 大建木材井波工場     | 塗装合板             |
| 名古屋工場        | オーバーレイ合板         |
| 昭和合板         | オーバーレイ合板（ポリエステル） |
| 東海合板         | プリント合板           |
| 亀田合板製作所      | オーバーレイ合板         |
| 誠工舎          | 化粧張り合板（自家用）      |



にあたる（大阪では全工場の47%、東京では26%の工場が二次加工をやっている）。

次に 東京ほど業者の間に系統がみられないことである。この点大阪に近い。しかし全く系統がないというのではなく、たとえば名古屋アライウッドと中村合板とは前述のごとく兄弟会社であり、また湯浅貿易と阿本ベニヤのように親子会社のような関係に立っているものもある。

以上、名古屋市場における合板工場にみられる特徴についてふれたが、次に 東京、大阪におけると同じく、規模別に代表的な工場を選んで、その経営内容について紹介し、規模別工場の経営内容を知ろう。この手掛りを提供してみよう。

まず、オノ階層に属するN社についてみる。

N社は、従業員570人で、原木購入および商品販売のいずれもが商社を通じておこなわれている。

この会社の経営収支内容は、オ47表にみられるごとく、純収益84300000円、1人当り収益高は147895円となっている。

次に、オ2階層に属するM社についてであるが、この主な設備は、ロータリープレス2、ワイルドサンダー1、クリッパー4、ドライヤー2、ホットプレス2、コールドプレス3、スライサー1、ホートサンダー2といった内容もち、従業員220人を擁して経営されている。

この会社の原木入手は主として三井物産からで、平均100～150日の手形決済をもって取引きされている。また販売先も同じく三井物産で、平均80～120日の決済で代金をうけとっている。

会社の経営収支の内容は、オ47表のとおりであり、純収益は1192000

オ47表 N社の経営収支内容

| 項 目   |             | 金 額       |
|-------|-------------|-----------|
| 提     | 原 材 料 費     | 978 000   |
|       | 工 場 費       | 384 100   |
|       | 工 員 賃 金 給 料 | 272 000   |
|       | 動 力 料 金     | 13 600    |
|       | そ の 他       | 108 500   |
| 支 出   | 営 業 費       | 183 100   |
|       | 職 員 給 料     | 23 200    |
|       | 減 価 償 却 費   | 31 200    |
|       | 借 入 金 利 子   | 42 400    |
|       | 公 租 公 課     | 1 200     |
|       | 消 耗 品       | 300       |
|       | そ の 他       | 84 900    |
| 合 計   |             | 1 355 200 |
| 提 収 益 |             | 1 640 000 |
| 純 収 益 |             | 84 300    |

円、1人当り収益高は5423円である。

オ2階層に属するT社についてであるが、この会社の機械設備はロータリー2、ホットプレス1、ドライヤー2、スレーダー3、サンダー1といったところであり、従業員は144人ほどである。

ここでは原木は主として商社を通じて購入し、製品は同屋に販売している。

工場の経営内容はオ47表にみられるごとく、純収益は10250000



表48 M社の経営収支内容

| 項 目   |             | 金 額                  |
|-------|-------------|----------------------|
| 支 出   | 合 板 原 材 料 費 | 581,600 <sup>円</sup> |
|       | 工 場 費       | 266,070              |
|       | 工 員 賃 金 給 料 | 94,411               |
|       | 動 力 料 金     | 24,807               |
|       | と の 他       | 166,852              |
|       | 官 業 費       | 17,724               |
|       | 職 員 給 料     | 3,498                |
|       | 借 入 金 利 子   | 8,276                |
|       | と の 他       | 5,950                |
|       | 合 計         | 865,394              |
| 総 収 益 |             | 866,587              |
| 純 収 益 |             | 1,193                |

円、ノ人ヨリ収益高は73,758円となっている。

最後に、オム階層に属するA社についてふれる。

A社は、この階層でも、決してよい方の工場に属すると思われるが、むしろ中以下であると考えられる。この点で、できるだけその階層の上位のところから代表的な工場を選出して紹介してきた。これまでの規模別工場選出の視点と若干相違してしまったことをつけ加えておかなくとはならない。

調査対象工場がこういったことになった原因の1つは、調査実行と

表49 丁社の経営収支内容

| 項 目   |             | 金 額     |
|-------|-------------|---------|
| 支 出   | 原 材 料 費     | 363,350 |
|       | 工 場 費       | 70,340  |
|       | 工 員 賃 金 給 料 | 46,470  |
|       | 動 力 料 金     | 4,090   |
|       | と の 他       | 19,800  |
|       | 官 業 費       | 52,360  |
|       | 職 員 給 料     | 12,060  |
|       | 減 価 償 却 費   | 9,910   |
|       | 借 入 金 利 子   | 6,400   |
|       | 公 租 公 課     | 1,350   |
|       | と の 他       | 22,640  |
|       | 合 計         | 486,650 |
| 総 収 益 |             | 496,700 |
| 純 収 益 |             | 10,650  |

の都合と、他の1つは、既述のごとく名古屋市場の工場は、東京と大阪の両市場にくらべて、規模の差が激しく、小さい方には、A社のごとき工場がかかり多くみられるので紹介しておこうとしたこと、によるのである。

ともあれ、A社の機械設備は、ボットプレスロータリーノ、ドラムサンダーノ、スプレッターノ、コールドプレスノ、テドリ中板乾燥室



ノといったところであり、設備は決して立派とはいえない。

従業員は20名で、原木は全て原木商から入手され、販売は名古屋市内の材木商に直売されている。

オ52表 A社の経営収支内容

| 項 目   |             | 金 額                 |
|-------|-------------|---------------------|
| 総 支 出 | 原 材 料 費     | 28,513 <sup>円</sup> |
|       | 工 場 費       | 9,749               |
|       | 工 員 賃 金 給 料 | 6,148               |
|       | 動 力 料 金     | 428                 |
|       | 修 繕 費       | 644                 |
|       | 消 耗 品       | 451                 |
|       | 厚生 福利 費     | 46                  |
|       | 車 輜 費       | 886                 |
|       | 減 価 償 却 費   | 956                 |
|       | と の 他       | 190                 |
| 出     | 営 業 費       | 3,994               |
|       | 職 員 給 料     | 1,050               |
|       | 公 租 公 課     | 2,914               |
|       | 消 耗 品       | 30                  |
| 合 計   |             | 42,256              |
| 総 収 益 |             | 43,394              |
| 純 収 益 |             | 1,138               |

A社の経営収支内容は、オ52表にみられるごとく、純収益ノ138,000円で、従業員ノ人当り収益高は58,900円である。

以上、4工場の経営内容を紹介してみたが、これらの工場の経営結果をまとめてみるとオ53表のごとくなる。

オ53表 各工場の経営指標

| 工場名 | 従業員数 | 純 収 益                   | 従業員ノ人当り収益高           |
|-----|------|-------------------------|----------------------|
| N   | 570人 | 84,800,000 <sup>円</sup> | 147,895 <sup>円</sup> |
| M   | 220人 | 1,193,000               | 5,423                |
| T   | 144人 | 10,650,000              | 23,958               |
| A   | 20人  | 1,138,000               | 58,900               |

オ54表 合板製造業の販売先

| 販 売  | 商 社 へ             | 向 屋 へ             | 自社販売             | 計                |
|------|-------------------|-------------------|------------------|------------------|
| 販売比率 | 76.3 <sup>%</sup> | 23.2 <sup>%</sup> | 0.5 <sup>%</sup> | 100 <sup>%</sup> |

備考 自社販売とは自社の直売および自社営業所の販売を意味する。

すなわち、純収益および従業員ノ人当り収益高も、オ2階層のM社を除き、規模と比例的になっている。

これだけの結果で、ノつの結論を下すことは危険であるが、あえて推論すれば名古屋市場では、このように全体的な動向と同じく、オ2階層クラスの工場に、経営効率上中位にあるものと考えられる。

以上、規模別工場の経営内容について、紹介をこころみだが、次に、おしなべてみた場合の、名古屋における合板工場の経営と流通の動向について、9軒の調査結果から考察してみよう。

まず、合板工場の販売先（普通合板と二次加工合板をふくんだ）についてであるが、これはオ54表に示されるごとく、販売数量比率でみた場合、商社へ76.3%、向屋へ23.2%、自社販売の0.5%で、商社販売割合が非常に高くでているのは、東京市場に對比しての、名古



屋市場における工場の1つの特徴であろう（名古屋市場内の販売については、商社への販売割合は、後述のごとく遙かに減少している）。

また、地域別、得意先別販売割合をみると、オ55表にみられるご

オ55表 地域別・得意先別販売割合

| 項目<br>地域          | 地域別<br>販売割合 | 得意先販売割合 |      |          |          |     |     |
|-------------------|-------------|---------|------|----------|----------|-----|-----|
|                   |             | 商社      | 向屋   | 大口<br>需要 | 二次<br>加工 | その他 | 計   |
| 北 海 道             | 6.8         | 78.8    | 20.6 |          |          |     | 100 |
| 東 北               | 4.0         | 92.9    | 2.1  |          |          |     | 100 |
| 東 京<br>(東京を除く)    | 4.0         | 100     |      |          |          |     | 100 |
| 東 京               | 14.5        | 25.7    | 23.8 | 6.3      |          |     | 100 |
| 北 陸               | 4.4         | 89.3    | 12.7 |          |          |     | 100 |
| 中 部<br>(愛知・静岡を除く) | 4.4         | 89.2    | 6.9  | 2.6      | 1.3      |     | 100 |
| 静 岡               | 2.6         | 96.8    | 9.2  |          |          |     | 100 |
| 愛 知               | 27.3        | 52.3    | 22.5 | 0.6      | 19.6     |     | 100 |
| 近 畿<br>(大阪を除く)    | 4.7         | 79.3    | 14.2 | 6.5      |          |     | 100 |
| 大 阪               | 12.9        | 84.1    | 15.9 |          |          |     | 100 |
| 山 陰               | 0.8         | 100     |      |          |          |     | 100 |
| 山 陽               | 0.9         | 91.2    | 8.8  |          |          |     | 100 |
| 四 国               | 4.3         | 92.0    | 8.0  |          |          |     | 100 |
| 福 岡               | 4.1         | 96.7    | 3.3  |          |          |     | 100 |
| 九 州<br>(福岡を除く)    | 4.1         | 94.7    | 5.3  |          |          |     | 100 |
| 計                 | 100         |         |      |          |          |     |     |

とく、愛知県内に27.3%、東京14.5%、大阪12.9%、あとは6.8~0.8%ぐらいで全国各地域に販売されている。どうも、名古屋市内への販売割合がやや小さすぎるのは、調査対象工場がおしなべて他市場への出荷をかなりやっている大規模工場に偏ったためであろう。

ともあれ、次に主なる地域について得意先販売割合をみてみると愛知（主として名古屋）では、商社に52.3%、向屋に22.5%、

二次加工業者に19.6%、大口需要者に0.6%

東京では商社に25.7%、向屋に23.8%、大口需要者に6.3%、大阪では、商社に84.1%、向屋に15.9%と、それぞれ販売している。

上述のごとく、愛知県内での得意先別販売割合が、オ7〜8回の名古屋市場における流通割合とかなり類似していることは注目されるべきである。

### 3-2-4-3 二次加工業

普通合板工場で二次加工までやっているものは前述のごとき13工場であるが、このほか専門の二次加工業としては、ユアサホード、洋田木材、鈴木加工所、畑野商店、名古屋特殊木材、松島加工所、笠島木工所、日進建材、昭和化学工業、房島屋合板、菱産業、三井木材、沢井木材工業所、等……数多く存在している。

これらの工場は、化粧ばり合板かオーバーレイ合板を生産している。おしなべてプリント合板は、オ46表にかかげたごとき大規模工場によって生産されている。しかし大規模工場の方が商社との商連が強い。たとえば、中村合板、名古屋プライウッドおよび昭和合板は全てに三井木材名古屋工場は三井物産に大部分の製品を販売している。



はり天の化粧ばり合板を製造している工場は、小規模のものが多く、その数は非常にたくさん存在しているが、残念ながらその実態はつかめない。

#### 3-2-4-4 商 社

名古屋市場における主なる商社としては、三菱、三井、伊藤忠、安宅、岩井、住友商事、日東物産、日綿興業等があげられる。

これらの商社は、普通合板においては製造工場から全生産量のうち20を購入し、これを材木商に5、専門向屋に3、二次加工業者に2、地方合板卸商に10と、それぞれ販売している。また、二次加工合板については、全生産量100のうち45を業者から購入し、それを専門向屋に32、専門小売商に7、材木商に4と、それぞれ販売している。

以上が、普通合板と二次加工合板の流通における商社の位置づけであるが、このように名古屋市場においては、東京市場におけるよりも、やや商社のウェイトが高いように思われるが、これは、1つには東京市場よりも商社の進出を促す性質をもっている二次加工業が一層盛んにあること、2つには、向屋が東京市場におけるよりも、経済力がよくなっていること、に起因しているように思われる。

ところで、合板流通におけるそれぞれの商社のウェイトを知るために、それぞれの商社の、普通合板と二次加工合板の取扱割合をしめすと、次のとおりになる。

まず、普通合板についてであるが、商社の全取扱量を100とした場合、安宅30%、三菱30%、岩井15%、兼松15%、東綿10%等であり、二次加工合板をとりあつてプリント合板とオーバーレイ合板

についていえば、安宅20%（野田、中村）、住商30%（中村）、三菱10%（野田、中村）、伊藤忠10%（中村）、住林20%（浜田）、三井物産10%（野田）、兼松5%（野田）のとおりである。

それぞれの商社の合板流通上におけるウェイトは以上のとおりであるが、振替の合板流通への積極的参加は、東京と大阪におけると同じく、それほど古いものでなく、昭和36年頃からであり、現在まことに至る。その急速な進展ぶりは誠に注目に値するものがある。

将来の商社の動向について、2、3の商社の担当者に質問したところ、いずれも二次加工合板の取引に、一層集まり、しかも販路の拡大のために地方材木商を資本的にバック・アップし、直売をすすめる予定であるという。

商社のマージンは、東京、大阪と同じく、普通合板では2〜3%前後、二次加工合板では5〜6%前後であるという。

#### 3-2-4-5 合板専門向屋

名古屋市場には約20軒の合板専門向屋が存在している。おしなべて、年間平均3億円程度の売上高で、東京市場のオス次向屋クラスの経営規模に匹敵する。

専門向屋は、普通合板においては、製造工場から45の合板を購入し、これを材木商に24、消費者に7、二次加工業者に5、専門小売商に2、地方合板卸商に10と、それぞれ販売している。二次加工合板については、二次加工業者から40、商社から32、合計72を購入し、これを材木商に36、専門小売商に27、消費者に7と、それぞれ販売している。



20軒の同屋を対象にしておこなった調査結果によると、岐阜の年次別建材取扱割合は、オ54表のごとく、昭和38年に例をとると、普通合板 51%、特殊合板 21.9%、繊維板 2.8%、石膏ボード 5.8%、合成樹脂製品 4.5%、パーティクルボード 2.8%、装材品 2.6%、丸太 1.9%、陶器セメント製品 0.3%、といった順序と割合を占めている。年次別傾向としては、普通合板と丸太の取扱割合が漸減し、逆に二次加工合板、繊維板、パーティクルボード、石膏ボード、装材品および合成樹脂製品は漸増を示してきている。

オ56表 年次別建材取扱量

| 年次<br>取扱建材 | 昭和36年 | 37   | 38   | 備考 |
|------------|-------|------|------|----|
| 合 普通合板     | 65.2  | 63.2 | 51.0 |    |
| 板 二次加工合板   | 13.2  | 15.8 | 21.9 |    |
| 繊 繊維板      | 3.9   | 5.3  | 2.8  |    |
| パーティクルボード  | 1.6   | 2.3  | 2.8  |    |
| 石膏ボード      | 2.0   | 3.4  | 5.8  |    |
| 装 材 品      | 1.3   | 2.0  | 2.6  |    |
| 丸 太        | 3.7   | 2.2  | 1.9  |    |
| 合成樹脂製品     | 3.3   | 4.0  | 4.5  |    |
| 陶器セメント製品   | 1.3   | 0.2  | 0.3  |    |
| と の 位      | 5.7   | 1.6  | 1.6  |    |
| 計          | 100   | 100  | 100  |    |

オ57表 地域別購入および販売割合

| 地 域            | 項目 | 仕入数量 | 販売数量 | 地 域 | 項目 | 仕入数量 | 販売数量 |
|----------------|----|------|------|-----|----|------|------|
| 北 海 道          |    | 3.7% | 2.9% | 近 畿 |    | 0.5% | 5.0% |
| 東 北            |    |      |      | 大 阪 |    | 2.7  | 3.6  |
| 岡 東<br>(東京を除く) |    |      |      | 山 陰 |    |      |      |
| 東 京            |    | 0.7  |      | 山 陽 |    |      | 3.4  |
| 北 陸            |    | 1.1  | 7.7  | 四 国 |    |      | 1.0  |
| 中 部            |    | 0.7  | 12.7 | 福 岡 |    |      | 2.5  |
| 静 岡            |    | 5.1  | 5.5  | 九 州 |    | 1.4  | 2.2  |
| 愛 知            |    | 84.1 | 53.7 | 計   |    | 100  | 100  |

また、地域別購入および販売割合をみるとオ55表のごとく、主たる仕入先は愛知（84.1%）で、あと静岡、大阪、その他等から仕入れているが、ごく少ない。販売先地域は、主に愛知（53.7%）、中部（12.7%）、北陸（7.7%）等で、全体の84.1%と大半を占めている。

名古屋における専門同屋は、大阪におけるごとく、二次加工を兼業するものが少なく、しかも、小売もそれほど行わず、したがって、同屋としての業態がくずれていないので団結力も比較的強いといわれている。しかし東京ほど大きな需要を背景としていないので岐阜の経済力はおしなべて東京の同屋ほどは大きくなく、地元の合板生産量を完全に消化できず、そのために商社のウエイトを高めることになっているのである。



### 3-2-4-6 木材問屋

名古屋市場の合板流通における木材問屋のウエイトは、3大合板市場中もっとも小さい。個々の木材問屋の合板取引量は一般材木商とどれほどの大差はみられない。したがって、流通機構図において、名古屋市場だけ、これを材木商にふくめて考えている。

### 3-2-4-7 専門小売商および材木商

名古屋市場には約20軒の合板専門小売商が存在している。

彼等は、普通合板においては、製造工場から10、専門問屋から2、合計7の合板を購入し、これを消費者に販売している。また、二次加工合板においては、専門問屋から27、業者から10、商社から7、計44の合板を購入し、それを消費者に販売している。

年間平均5000万円程度の販売額をあげ、彼等の純収益は約10%の500万円ほどであるといわれる。

次に材木商についてみれるが、名古屋におけるその軒数については正確には把握できないが、概算1000軒ほどと推定されている。

材木商の建材別取扱割合を、144軒の調査結果よりみると、木材64%、合板25%、その他11%である。

これらの材木商は、普通合板では、専門問屋から24、商社から5、製造工場から5、計34を、また二次加工合板では、専門問屋から36、商社から4、合計40の合板を購入し、これを消費者に販売している。

次に合板種類別販売先別取扱数量割合をみると、次表のごとく、ラワン材合板については、その他の51%を除くと、土木建築業者(18.7%)と家具製造業者(11.6%)が主で、これで30.5%を

表58 合板種類別販売先別取扱数量割合

| 合板の種類<br>販売先 | ラワン材合板 | 国産材合板 | 二次加工合板 | 総計   |
|--------------|--------|-------|--------|------|
| 土木建築業者       | 18.7   | 25.6  | 21.6   | 19.0 |
| 家具製造業者       | 11.6   | 6.6   | 3.0    | 10.1 |
| 建築製造業者       | 4.2    | 微     | 2.8    | 3.9  |
| その他工作業者      | 8.2    | 13.2  | 0.5    | 7.0  |
| 家庭用          | 3.1    | 微     | 0.4    | 0.3  |
| 学校教材用        | 微      | 9.2   | 微      | 0.1  |
| 展示装飾業者       | 微      | 微     | 0.2    | 微    |
| 包装業者         | 2.1    | 微     |        | 0.1  |
| その他          | 51.7   | 45.2  | 70.8   | 58.9 |
| 計            | 100.   | 100.  | 100.   | 100. |

国産材合板については、その他の45.2%を除くと、土木建築業者(25.6%)とその他工作業者(13.2%)が主体で、全体の38.8%を、また二次加工合板については、その他の70.8%以外は、土木建築業者が主で21.6%を占めている。統計してみた場合も、同じ傾向を示し、その他の58.9%を除くと、主に土木建築業者(19.0%)、家具製造業者(10.1%)およびその他工作業者(7.0%)で全体の36.1%を占めている。

以上のように、名古屋市場における材木商の販売先は、その他というのが多いが、この内容については調査表によっては十分知ることができなかった。



### 3-2-4-8 製造業と流通業との各種団体

まず 製造業者の組織についてであるが これには 従来合板工業組合名古屋支部 愛知県合板工業協同組合並びに愛知県合板工業会の3つの組織がある。

ここで従来とおことわりしたのは、日本合板工業組合名古屋支部は、昭和37年12月1日に解散し、現在は、これにかわるものを結成中であるとのことであつたからである。したがって、実際に経済活動をやっているのは、後の2者だけであるといえる。

愛知県合板工業協同組合は、昭和10年頃、どの母体が作られ、その後、統制組合、林産組合、そして昭和25年に現在の協同組合組織が結成されたのである。

この組合は、一般の協同組合と同じく、その目的は、組合員の相互扶助の精神にもとづき、組合員のために必要な共同事業をおこなひ、もつて組合員の自主的な経済活動を促進し、かつ、その経済的地位の向上を図ることであり、その事業内容は

- ① 組合員の取扱う合板（積層板をふくむ。以下同じ）および単板の販売、および原材料ならびに副資材の購買、これに伴う物資の保管運送その他組合員の事業に關する共同事業、
- ② 組合員に対する事業資金の貸付け（手形の割引をふくむ）および組合員のためにするその借入れ
- ③ 組合員の寄託物についての倉庫証券の発行
- ④ 本組合の地区内に店舗を有する金融機関に対する組合員の債務の保証、またはこれらの金融機関の委任をうけてする組合員に対するその債権の取立て、

⑤ 組合員の従業員との最低賃金に關する協定、その他組合員の事業に關する協定、

⑥ 組合員の事業に關する経営および技術の改善向上または組合事業に關する知識の普及を図るための教育および情報の提供

⑦ 組合員の経済的地位の改善のためによる団体協約の締結

⑧ 組合員の福利厚生に關する事業

等である。

この組合は、かなり積極的に経済活動をおこなっている。たとえば、合板の販売とか、康木、接着剤等の協同購入等を実行している。

普通合板の販売額だけでも年間12億円ぐらいに達しているのをみて、その経済活動の積極性が窺知されよう。

組合員は約20人ほどで、総組合口数は37,890口で、1口あたり500円で、各組合員の持口数は、かなり相違があり、最大のものは3,000～5,000に達しているものもある。

ともあれ、この組合は、他にみられないほど活発な活動を示しているが、それは1つには、経済活動による利益金により費用をまかない、組合員より賦課金をとつていないこと、この結果、経済活動は、個々の組合員の意見に拘束されず、伸縮的におこなうこと、および組合員個人の性格と才能によつていと考えることができる。

愛知県合板工業会は、愛知県合板の生産の増進ならびに技術の進歩発達を図り、あわせて会員相互の緊密な連絡と協力により会員共通の公正な経済的發展を図ることを目的としている。

その事業内容としては、

- ① 合板生産に關する研究ならびに調査



- ③ 合板生産技術の向上および相互啓蒙
- ④ 各行その他の諸団に対する 答申ならびに必要な進言および協力
- ⑤ 合板に関する情報収集および周知交換ならびに啓蒙、刊行物の発行
- ⑥ 合板に関する宣伝、広告
- ⑦ 会員相互の連絡および親睦
- ⑧ 系統団体との連絡
- ⑨ その他本会の目的を達するため必要なる事項等をあげている。

これらの項目の内容をみておられるように、全く親睦的なものであり、経済活動は別にやっていない。

以上が合板製造業者の組織であるが、次に卸売向屋の組合についてみる。

卸売向屋の組合には、名古屋合板販売組合、愛知県合板卸協同組合と名古屋ベニヤ合板向屋協同組合の3つがある。

まず、名古屋合板販売組合についてであるが、これは、既述した日本ベニヤ板商業連合会の名古屋支部であり、その目的は同じく業者の親睦を主体としている。現在41人ほどの組合員が加入している。

愛知県合板卸協同組合は、昭和30年に「組合員の相互扶助の精神に基き、組合員のために必要な協同事業をおこない公正な経済活動の機会を確保し、もって組合員の自主的な経済活動を促進し、その経済的向上をはかる」ことを目的として結成された。現在、22人の組合員がいるが、実際には経済活動をやっていない。

最後に、名古屋ベニヤ板向屋協同組合についてであるが、これも愛

知県合板卸協同組合等と同じ目的で約7人ほどの組合員で結成されたものであるが、現在、前二者とことなり、相互保証による金融の仕事をあこなっている。

### 3-3 東京、大阪および名古屋市場の特徴と相互の経済関係

まず、いくつかの観点から各市場の経済的特徴についてみる。

普通合板の消費量について、昭和37年実績(4月期換算)よりみると、東京市場約10,000万平方メートル、大阪市場約4,300万平方メートル、名古屋市場約5,000万平方メートルといったところである。

ところで需給事情についてであるが、東京は消費市場で、外部よりかなり移入し、大阪市場は自給的であり、名古屋市場は相対的に生産量が多く、したがって県外出荷が多い。

輸送手段は、東京市場では貨車、トラック、大阪と名古屋両市場では主としてトラックである。

次に、それぞれの市場における生産と流通担当機関の特徴についてみる。まず製造工場については、東京と名古屋両市場では規模の差が顕著であるのに、大阪市場では比較的均一である。これらの製造工場は、東京市場では主として普通合板生産をやり、二次加工までやっているものが少ないが、大阪市場では二次加工までやっているものが多い。また名古屋市場では大阪市場ほどではないが二次加工をやっているものが多い。

波峰の生産する製品の種類は、東京市場では比較的単一であり、大阪市場では比較的多種目生産であり、名古屋市場にいたっては、さらにはお多種目生産である。



工場における平均賃金は、おしなべていえば、東京、大阪および名古屋の順に安くなっている。

合板流通における商社のウエイトは、東京市場では、大阪と名古屋両市場におけるほど高くない。

流通上、重要なウエイトをもっている専門合板問屋については、東京市場においては比較的その形態は明白であり、かつそのウエイトは他の流通機関に対比して圧倒的に高い。これに対して大阪と名古屋両市場においては、そのウエイトは相対的に落ち、しかもその形態も正確に問屋といわれるようなものは少なく、小売商的性格も加味されているものが多い。

また、これらの専門合板問屋は、大阪市場では二次加工まで行っているものが非常に多いが、東京市場では非常に少ない。この点、名古屋市場では、中間ぐらいである。

木材問屋は、大阪市場においては合板流通上、非常に重要なウエイトをもち、合板問屋のウエイトを強くおびやかしているが、東京と名古屋両市場においてはそれほどでない。とりわけ名古屋市場においては合板流通上、材木商並に考えることができるほどである。

以上、いろいろの個別的視点より、それぞれ市場の特徴についてふれたが、これはオプタ表のごとく一覧表に整理できる。しかし実際には、これらの特徴は相互に関係し合っており、無関係に存在しているのではない。

そこで以下、それぞれの市場の特徴と問題点を総括的に、他市場と比較においてみてみたい。

東京市場はなんといっても、流通の秩序がもっとも整っている。つ

オプタ表 東京、大阪および名古屋合板市場の経済的特徴

| 項目                | 市場名 | 東京                                 | 大阪                     | 名古屋                      |
|-------------------|-----|------------------------------------|------------------------|--------------------------|
| 取扱量(4期換算)<br>普通合板 |     | 約 10 000 万㎡                        | 約 4 300 万㎡             | 約 5 000 万㎡               |
| 流 通               |     | 外部より移入している。                        | 自給                     | 県外出荷大                    |
| 製 造 工 場           |     | 規模の差あり                             | 規模は比較的均一               | 規模の差あり                   |
| 製造工場の<br>二次加工     |     | あまりやっていない                          | 二次加工までやっているものが多い       | 大阪ほどでもないが、二次加工をやっているもの多し |
| 製造工場の<br>製品の種類    |     | 単一である。                             | 比較的多種目生産               | 大阪よりなお多種目生産              |
| 製造工場における<br>平均賃金  |     | 男 1 000 円<br>女 700 円               | 男 650 円<br>女 470 円     | 男 600 円<br>女 450 円       |
| 輸 送 手 段           |     | 貨車、トラック                            | 主としてトラック               | 主としてトラック                 |
| 専門合板問屋            |     | 比較的明確に存在                           | 混乱                     | 比較的明確に存在                 |
|                   |     | 二次加工までやっているものは相対的に少ない。             | 二次加工にまで積極的に行っているものが多い。 |                          |
|                   |     | 小売に直売することは少ない。                     | 小売に直売することが相対的に多い。      | 小売に直売することは少ない。           |
| 木 材 問 屋           |     | 合板流通上強いウエイトはない。                    | 強いウエイトを占めている。          | あまり強いウエイトはもっていない。        |
| 商 社               |     | 合板生産と流通上にしめるウエイトは大阪、名古屋におけるほど強くない。 | 強いウエイトを占めている。          | 強いウエイトを占めている             |



まり合板製造業 → 専門合板問屋 → 小売商（合板専門小売商と材木商） → 消費者といった流通経路が、かなり強くつらぬいており、両社とが木材問屋のウェイトも他市場におけるよりも小さい。

このように流通秩序が比較的整然としている理由は、なんといっても専門問屋の経済力の強いことがあげられる。しかもこれは基本的には東京市場における合板需要の圧倒的な巨大さと、しかもその伸長率の激しいことにあったと考えることができる。

したがって、一般的意味における合板製造業と流通業者の合理化といった問題はあろうが、東京市場だけにみられる深刻な問題は、いまだどこも他市場におけるほど少ないといえることができる。

東京市場に対して、もっとも対蹠的性格をもっているのは大阪市場である。

製造工場は比較的均一規模のものが存在して、激しい競争がおこなわれ、また、合板問屋は昭和32年頃から強力な一般用材の流通基盤を利用して合板流通にのりだした木材問屋と、昭和34年頃から二次加工合板の生産と販売の波にあって急速に抬頭した両社との狭間であって呻吟し、二次加工部門への進出と小売商化にのりださざるを得なくなっているのである。こういった動向の中で、必然的に小売商（専門小売商と材木商）とその経営が脅かされてきているのである。

このように大阪市場の合板流通機構は、昭和32～33年以降、おおしく動揺し、変動をつアけてきているのである。

こういった不安定な流通機構の中では、とかく合板価格も不安定時にうごきやすくなるのは当然である。

名古屋市場は、大阪市場とはちがった原因により、そしてまたそれ

ほど激しくはないが、その流通機構は不安定的に動揺してきている。

その基本的原因は、専門合板問屋の経済的弱体さであり、それはまた東京市場ほど巨大な消費市場を地元にもっていないことに主因があるものと考えられる。

しかし、最近、地方に合板工場が設立されるに及んで、地方販賣はその地元の流通業者にも奪われ、その苦悩は一層深刻になってきているように思われる。

最後に、東京、大阪および名古屋の3市場の間の経済関係について示れる。

表10の合板の地域間交流表をみてわかるように価格条件によつては、かなり円滑に合板流通がおこなわれ、しかもこれらの市場の間には情報は完全に傳達され、したがってこれらの市場はそれぞれの特徴はもちながらい、おしなべていえば一物一価の法則の貫徹する同一市場圏に入りつつあると考えることができる。



#### 4. 合板需要の構造

厳密な意味における合板（普通合板）需要量をつかむことは困難である。一般に示されているデータは需要と供給の交点の軌跡として示される供給量であるが、ここではそれほどの厳密さを求めず、総需要とし

表60 総消費、内需向、輸出向消費量と実質国民所得

| 年     | 項目 | Y                     | D <sub>1</sub>            | D <sub>2</sub>           | D <sub>3</sub>           |
|-------|----|-----------------------|---------------------------|--------------------------|--------------------------|
|       |    | 実質分配<br>国民所得<br>100億円 | 総消費量<br>10万m <sup>2</sup> | 内需向<br>10万m <sup>2</sup> | 輸出向<br>10万m <sup>2</sup> |
| 昭和27年 |    | 509                   | 730                       | 620                      | 53                       |
| 28    |    | 585                   | 958                       | 835                      | 142                      |
| 29    |    | 608                   | 1326                      | 838                      | 407                      |
| 30    |    | 667                   | 1722                      | 1086                     | 528                      |
| 31    |    | 719                   | 2037                      | 1380                     | 644                      |
| 32    |    | 785                   | 2444                      | 1583                     | 811                      |
| 33    |    | 850                   | 2667                      | 1780                     | 851                      |
| 34    |    | 972                   | 3233                      | 2127                     | 1064                     |
| 35    |    | 1133                  | 3569                      | 2532                     | 1008                     |
| 36    |    | 1302                  | 3995                      | 3022                     | 942                      |
| 37    |    | 1471                  | 4621                      | 3541                     | 1049                     |
|       |    | 9601                  | 27304                     | 19246                    | 7549                     |

合板については4mm以下のものである。

表61 合板需要と所得との関係

| 項目  | 方程式                   | 需要の所得弾力性 |
|-----|-----------------------|----------|
| 総需要 | $D_1 = -982 + 3.97Y$  | 1.39     |
| 内 需 | $D_2 = -934 + 3.08Y$  | 1.24     |
| 外 需 | $D_3 = -136 + 0.943Y$ | 1.20     |

備考 この需要の所得弾力性は  $\frac{\alpha D}{dY} \times \frac{Y}{D}$  として計算した。

ただしY、Dはそれぞれ計測期間における平均的国民所得と需要量の大きさをあらわしている。

と生産量を、国内需要として内需向消費量を、国外需要として輸出量を、それぞれ使用して、これをおおきく規定すると思われる所得と内関係、すなわち需要の所得弾力性を計算してみる。これらのデータと、計算結果は表60と61表に示されるごとくとなる。

すなわち10%の所得の増減に対して、総需要では13.9%、内需では12.4%、外需では12%増減することを示しているものである。

次に厚さ別普通合板需要についでふれるが、この時系列データはいまのところ入手できない。したがってクロス・セクションによってデータを作って考察してみる。

表62表の地域別需要量は、各地域で生産された合板生産量に移出入量を加減して合板工業会で作成したものである。この数量と各地域の1人当り実質所得を使用して（表61表にかかげられる）、厚さ別合板需要の所得弾力性を計算してみると、表63表に示されるとおりである。



表 62 地域別合板需要

| 厚さ     | 地域 | 北海道     | 東北      | 関東<br>(東京を除く) | 東京      | 北陸      | 中部<br>(岐阜を除く) |
|--------|----|---------|---------|---------------|---------|---------|---------------|
| 27 mm  |    | 1.54    | 1.54    | 0.66          | 8.54    | 1.29    | 0.51          |
|        |    | 7789    | 14348   | 2918          | 84726   | 6180    | 2237          |
| 30 mm  |    | 0.48    | 0.48    | 0.19          | 7.46    | 0.37    | 0.15          |
|        |    | 2417    | 4294    | 2564          | 24371   | 1737    | 656           |
| 55 mm  |    | 0.15    | 0.16    | 0.05          | 0.70    | 0.10    | 0.04          |
|        |    | 770     | 1450    | 732           | 6766    | 493     | 193           |
| その他    |    | 1.40    | 1.52    | 0.22          | 2.88    | 0.32    | 0.25          |
|        |    | 7085    | 14130   | 2975          | 28536   | 1541    | 1079          |
| 合 計    |    | 18061   | 34422   | 15187         | 144597  | 9971    | 7165          |
| 1人当り所得 |    | 131.136 | 106.346 | 147.404       | 274.672 | 125.732 | 123.506       |
| 人 口    |    | 5073    | 9280    | 13547         | 9922    | 4801    | 4400          |

(単位=上段:1人当り4%換算 1m<sup>2</sup>, 下段:4%換算)

表 63 厚さ別合板需要の所得弾力性

| 項 目     | 方 程 式                   | 需要の所得弾力性 |
|---------|-------------------------|----------|
| 27mm 合板 | $D_1 = -4.86 + 0.05 Y$  | 2.73     |
| 30mm 合板 | $D_2 = -1.46 + 0.01 Y$  | 2.80     |
| 55mm 合板 | $D_3 = -0.38 + 0.004 Y$ | 2.65     |

表 量と一人当り所得

(昭和38年度)

| 静岡県     | 愛知     | 岐阜<br>(大垣を除く) | 大阪     | 山陽<br>山陽 | 西国     | 九州      | 計      |
|---------|--------|---------------|--------|----------|--------|---------|--------|
| 2.58    | 8.34   | 0.76          | 6.92   | 1.57     | 1.03   | 1.50    |        |
| 7170    | 36103  | 7657          | 38374  | 10870    | 4202   | 19265   | 247239 |
| 0.73    | 2.38   | 0.21          | 1.72   | 0.44     | 0.29   | 0.42    |        |
| 2039    | 10277  | 7165          | 10977  | 3078     | 1194   | 5845    | 71454  |
| 0.21    | 0.67   | 0.06          | 0.55   | 0.12     | 0.08   | 0.12    |        |
| 572     | 2887   | 602           | 3125   | 857      | 336    | 1513    | 20498  |
| 0.66    | 2.18   | 0.16          | 2.08   | 0.35     | 0.26   | 0.32    |        |
| 1820    | 9423   | 1635          | 11891  | 2413     | 1058   | 4059    | 87665  |
| 11601   | 58712  | 12059         | 64387  | 17218    | 6790   | 30282   | 427456 |
| 153.872 | 189300 | 155249        | 230787 | 124671   | 119514 | 113.853 |        |
| 2775    | 4327   | 10107         | 5713   | 6926     | 4089   | 12613   |        |

(1000 m<sup>2</sup>)

以上は、普通合板を対象にして、その需要の伸び方とどれをおおきく規定すると思われる所得との関係をみてきたが、最近の合板需要の動向として、二次加工合板の需要に十分注目されなくてはならない。

しかし、二次加工合板については、既述のごとく、比較的その始頭の歴史は新しく、データとしては、表6に示されるごとく、ここ2〜3年ぐらいいろいろしかなく、いまのところ十分、統計分析に耐えられるものはない。

したがって、ここでは、その需要動向の説明は、歴史的展開の項にゆ



ずり。ただその需要の伸びの激しかったことと、その重要性をふたたび指摘しておくにとどめる。

## 5. 合板価格変動の特徴とその機構

ある商品価格の変動を問題とする場合、どこをとりあげる価格が如何なる期間に亘るものかについて規定しておかないと議論そのものが不正確になる。それは同じ商品の価格といっても、対象とする期間により変動の形もその原因も相違するからである。

一般に価格変動をとりあげる場合、その対象期間の相違により短期変動（日々とか週向とかの短期間において生ずる価格の変動）、季節運動（その字の示すとおり季節的な価格運動）、年次変化（年次的にあらわれる価格変動）、循環運動（季節変動し、あるいは年次変化もある規則的運動をいっているがゆえに、これもノツのタイプの循環運動であるが、ここでいう循環運動は規則的運動であるという以外に自己発生的であることが必要である）、趨勢運動（長期間にわたって生ずる趨勢的な動向）等に分けて考察されるべきであろうが、ここでは合板価格についてふれる場合、季節運動、年次変化と趨勢変動の三者についてみることにする。

### ① 季節運動

使用データーは、すでに分析されたごとく、東京、大阪および名古屋市場は、それぞれ交流がおこなわれ、緊密な経済関係があること、なおデーターとして大阪市場のものが一番古くから入手できたことからして、大阪市場における 2.7mm, 3×6, タイプⅢを代表として選んだ。

月別平均式による計算結果は、表に示されるとおりであり、さらにこれを図示すると、図にみられるとおりである。これを見ると、5、6、7、8、9月に価格の下落がみられる。こういった季節運動のあらわれる所以は、この期間が一般に資金の月で需要が停滞

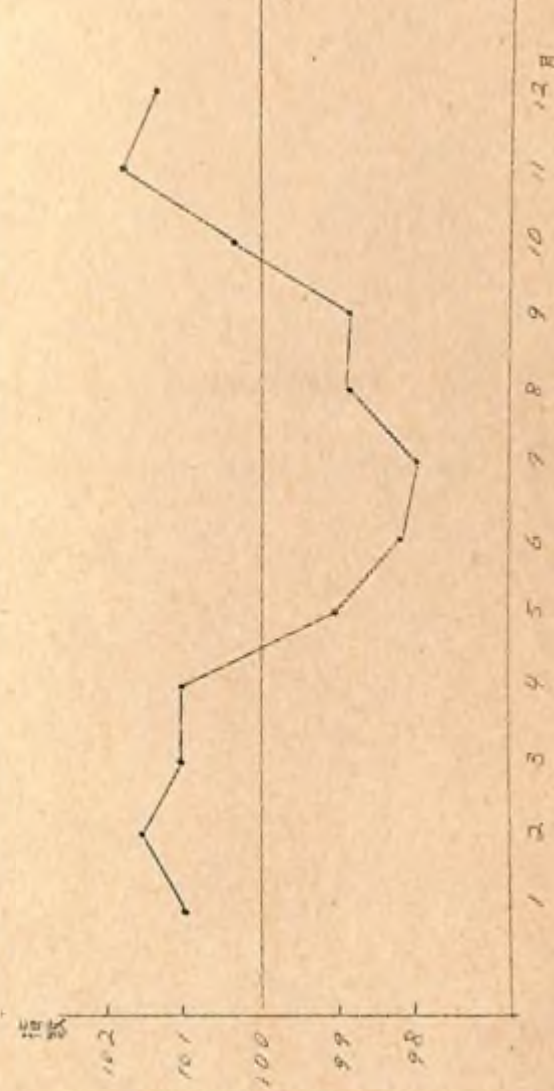


表64 合板価格

| 年次    | 1月  | 2月  | 3月  | 4月  | 5月  | 6月  | 7月  | 8月  | 9月  | 10月 | 11月 | 12月 |
|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 昭和27年 | 150 | 150 | 145 | 135 | 132 | 129 | 124 | 121 | 122 | 124 | 124 | 130 |
| 28    | 136 | 150 | 150 | 165 | 162 | 165 | 166 | 162 | 162 | 160 | 160 | 160 |
| 29    | 160 | 159 | 155 | 150 | 150 | 150 | 155 | 155 | 155 | 157 | 160 | 160 |
| 30    | 162 | 160 | 155 | 150 | 145 | 140 | 135 | 135 | 130 | 125 | 130 | 135 |
| 31    | 135 | 130 | 126 | 126 | 130 | 135 | 138 | 142 | 145 | 145 | 145 | 150 |
| 32    | 150 | 150 | 148 | 140 | 138 | 134 | 128 | 122 | 125 | 129 | 129 | 124 |
| 33    | 116 | 115 | 117 | 120 | 115 | 112 | 109 | 112 | 116 | 119 | 119 | 126 |
| 34    | 132 | 135 | 135 | 136 | 137 | 137 | 139 | 150 | 151 | 162 | 165 | 162 |
| 35    | 165 | 157 | 150 | 148 | 130 | 129 | 128 | 130 | 125 | 124 | 122 | 110 |
| 36    | 110 | 122 | 131 | 136 | 140 | 140 | 148 | 159 | 161 | 169 | 182 | 180 |
| 37    | 180 | 180 | 180 | 180 | 198 | 175 | 175 | 195 | 170 | 170 | 168 | 165 |
| 38    | 165 | 165 | 190 | 195 | 190 | 165 | 162 | 160 | 162 | 165 | 170 | 165 |

|       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 合計    | 1761  | 1771  | 1762  | 1761  | 1727  | 1711  | 1707  | 1723  | 1724  | 1749  | 1774  | 1767  |
| 平均    | 146.8 | 147.6 | 146.8 | 146.8 | 143.9 | 142.6 | 142.3 | 143.6 | 143.7 | 145.8 | 147.8 | 147.3 |
| 季節変動値 | +14   | +2.2  | +14   | +14   | -15   | -28   | -31   | -18   | -17   | +04   | +24   | +19   |
| 季節指数  | 1010  | 1015  | 1010  | 1010  | 921   | 981   | 979   | 988   | 988   | 1003  | 1017  | 1013  |

図9 合板価格の季節変動回





していることに起因しているものと考えられる。

### ③ 年 次 変 化

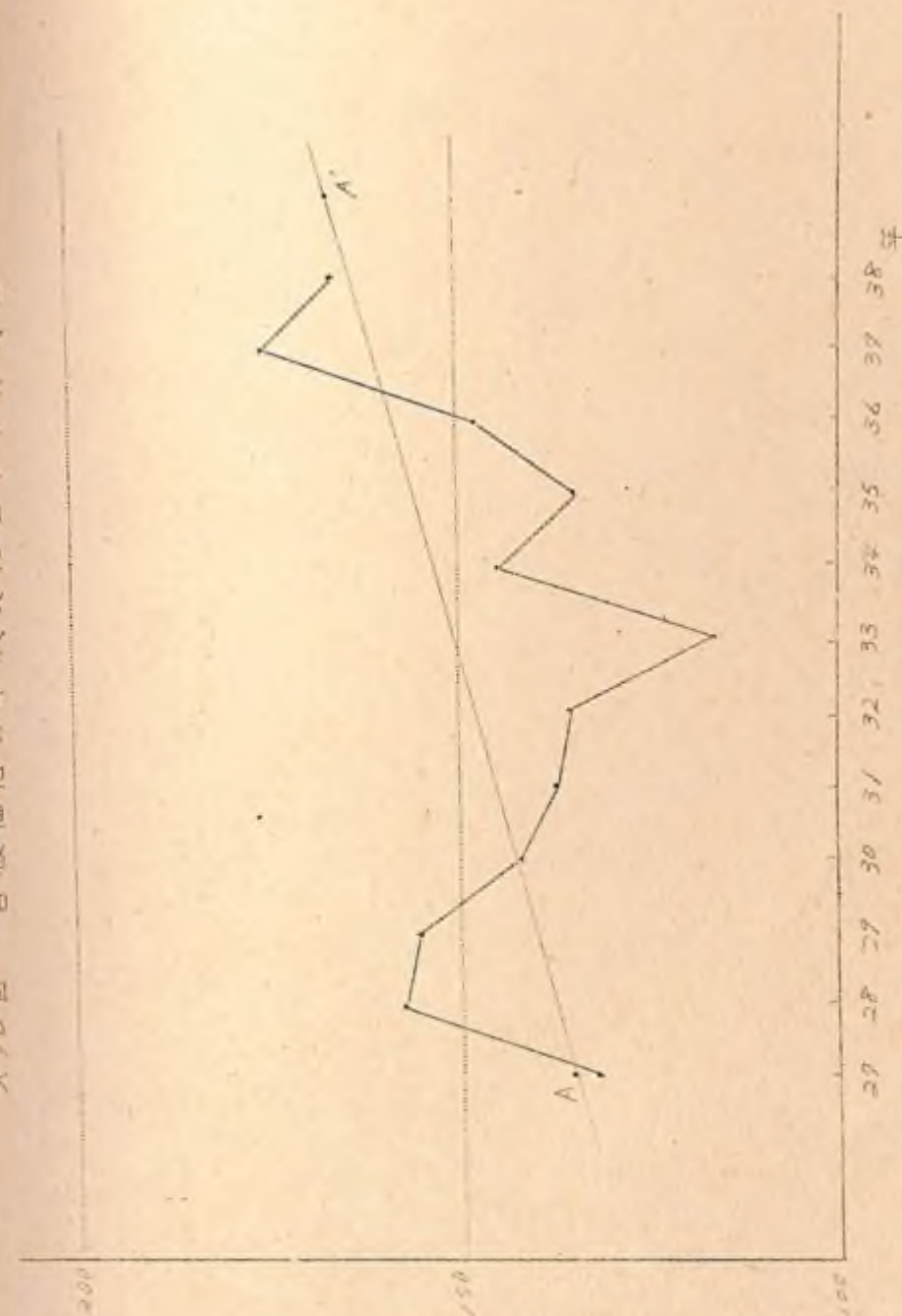
合板価格の年次変化は、表65と表70図にみられるとおりである。

すなわち、昭和27年から28年には上昇し、その後、33年まで下降傾向を示し、ふたたび37年まで上昇傾向をみせ、38年に至りまた下降してきている。

表65表 年次別総平均物価、木材および合板価格

| 年 次   | 総平均物価 | 木材価格 | 合板価格 |
|-------|-------|------|------|
| 昭和27年 | 349   | 100  | 132  |
| 28    | 352   | 130  | 158  |
| 29    | 349   | 142  | 155  |
| 30    | 343   | 128  | 142  |
| 31    | 358   | 134  | 137  |
| 32    | 369   | 154  | 135  |
| 33    | 345   | 150  | 116  |
| 34    | 348   | 152  | 125  |
| 35    | 352   | 161  | 135  |
| 36    | 356   | 202  | 148  |
| 37    | 350   |      | 175  |
| 38    |       |      | 166  |

表70図 合板価格の年次変化とすう勢変化





こういった合板価格の年次変化は従来まで一般に激しいといわれてきているが、実際にはどうなのであろうか。

これに答えるために、合板、木材および総平均物価の変動の大きさを示す価格変動率を計算してみよう。

合板については、最小二乗法による直線式  $\begin{cases} 1578 = 11a + 66b \\ 9568 = 66a + 506b \end{cases}$

表66 合板価格の変動率

| t  | Y           | Y'   | $x = Y'_t - \bar{x}$ | $x^2$ |
|----|-------------|------|----------------------|-------|
| 1  | 132         | 127  | -4                   | 16    |
| 2  | 158         | 128  | -3                   | 9     |
| 3  | 155         | 128  | -3                   | 9     |
| 4  | 142         | 129  | -2                   | 4     |
| 5  | 137         | 130  | -1                   | 1     |
| 6  | 135         | 131  | 0                    | 0     |
| 7  | 116         | 132  | +1                   | 1     |
| 8  | 145         | 133  | +2                   | 4     |
| 9  | 135         | 134  | +3                   | 9     |
| 10 | 148         | 135  | +4                   | 16    |
| 11 | 125         | 136  | +5                   | 25    |
| 計  | 1578<br>143 | 1443 | -13 0 +15            | 94    |

$$\bar{x} = 1443/11 = 131$$

$$S^2 = 94/10 = 9.4$$

$$S = 3.06594$$

$$Sx^2 = 94/11 = 8.545$$

$$S = 0.9244$$

$$\text{価格変動率} = \frac{S}{\bar{Y}_t} = \frac{3.07}{143.5} = 0.02139$$

を解いて、 $Y = 126.50 + 0.91x$  をうる。これより推定値を算出し、変動率をや66表のごとく計算すると、0.023の値をうる。

木材価格については  $\begin{cases} 1453 = 10a + 55b \\ 8475 = 55a + 325b \end{cases}$  より

$Y_2 = 113.07 + 5.56x$  を出し、や65表のごとく推定値を出して変動率を計算すると、0.2114の値をうる。

表67 木材 (Y<sub>2</sub>) 価格の変動率

| t  | 元数  | X    | $x = X - \bar{x}$ | $x^2$ |
|----|-----|------|-------------------|-------|
| 1  | 100 | 119  | -26               |       |
| 2  | 130 | 125  | -20               |       |
| 3  | 142 | 131  | -14               |       |
| 4  | 128 | 137  | -8                |       |
| 5  | 134 | 142  | -3                |       |
| 6  | 154 | 148  | +3                |       |
| 7  | 150 | 154  | +9                |       |
| 8  | 152 | 160  | +15               |       |
| 9  | 161 | 166  | +21               |       |
| 10 | 202 | 172  | +27               |       |
| 計  | 145 | 1454 | -71 +75           | 8455  |

$$\bar{x} = 1454/10 = 145$$

$$S^2 = 8455/9 = 939.44$$

$$S = 30.6504$$

$$Sx^2 = 939.44/10 = 93.944$$

$$S = 9.6925$$

$$p = \frac{30.65}{145} = 0.2114$$



総平均物価については 
$$\begin{cases} 3871 = 11a + 66b \\ 23253 = 66a + 506b \end{cases}$$

より  $\bar{Y}_3 = 350.44 + 0.25Z$  を算出し、これよりヤ68表のごとく推計値をたして、変動率を計算すると0.00238をうる。

ヤ68表 (ヤ) 総平均物価の変動率

| イ  | 元 数         | X   | $x = X - \bar{X}$ | $x^2$ |
|----|-------------|-----|-------------------|-------|
| 1  | 349         | 351 | -1                | 1     |
| 2  | 352         | 351 | -1                | 1     |
| 3  | 349         | 351 | -1                | 1     |
| 4  | 343         | 351 | -1                | 1     |
| 5  | 358         | 352 | 0                 | 0     |
| 6  | 369         | 352 | 0                 | 0     |
| 7  | 345         | 352 | 0                 | 0     |
| 8  | 348         | 352 | 0                 | 0     |
| 9  | 352         | 353 | +1                | 1     |
| 10 | 356         | 353 | +1                | 1     |
| 11 | 350         | 353 | +1                | 1     |
| 計  | 3871<br>352 |     | -4    +3          | 7     |

$$\bar{X} = 352.18$$

$$S^2 = 7/10 = 0.70$$

$$S = 0.83666$$

$$S\bar{X}^2 = 0.70/11 = 0.06363$$

$$S\bar{X} = 0.2521$$

$$p = \frac{0.237}{352} = 0.00238$$

これによって判断すると合板価格の変動は一般物価よりも大きいが、しかし木材よりは激しくないことが知られる。

次に、この年次価格の変動は如何なる供給機構により規定されるのであろうか。

これには種々の理論式が考えられようが、ここでは流通機構調査を通じての知識によって、次のごとき理論式を考える。

$$\begin{cases} p = b_1 g + b_2 Y & \text{需要方程式 ①} \\ g = b_3 p + b_4 Z & \text{供給方程式 ②} \end{cases}$$

ただし  $p$  ----- 合板価格

$g$  ----- 合板消費量

$Y$  ----- 実質分配所得

$Z$  ----- 原木入荷量

である。

アイデンティファイされるために、①、②式の誘導式を求めると、次のごとき③、④式をうる。

$$\begin{cases} p = \left( \frac{b_2}{1 - b_1 b_3} \right) Y + \left( \frac{b_1 b_4}{1 - b_1 b_3} \right) Z & \text{③} \\ g = \left( \frac{b_2 b_3}{1 - b_1 b_3} \right) Y + \left( \frac{b_4}{1 - b_1 b_3} \right) Z & \text{④} \end{cases}$$

ヤ67表のデーターを使用して、③、④式を計算すると、

$$\begin{cases} p = 0.077Y - 0.149Z \\ g = 0.045Y + 0.744Z \end{cases}$$

となり、これにより  $b_1 = -0.20$ ,  $b_2 = 0.068$ ,  $b_3 = -0.58$ ,  $b_4 = 0.658$  となり、かくて③、④式を算定できる。



表69 総合板需給量 台板価格 分配所得 原木入荷量

| 年次    | 項目 | g          | p    | y            | z         |
|-------|----|------------|------|--------------|-----------|
|       |    | 総需給量       | 台板価率 | 実施分配所得       | 原木入荷量     |
| 昭和27年 |    | 100万<br>73 | 132  | 100万円<br>509 | 12万<br>55 |
| 28    |    | 96         | 157  | 585          | 128       |
| 29    |    | 133        | 155  | 608          | 146       |
| 30    |    | 172        | 145  | 667          | 185       |
| 31    |    | 204        | 134  | 719          | 231       |
| 32    |    | 244        | 128  | 785          | 246       |
| 33    |    | 267        | 118  | 850          | 330       |
| 34    |    | 323        | 146  | 972          | 423       |
| 35    |    | 357        | 133  | 1133         | 457       |
| 36    |    | 400        | 141  | 1302         | 555       |
| 37    |    | 462        | 167  | 1471         | 637       |
| 総計    |    | 2731       | 1556 | 9601         | 3393      |
| 平均    |    | 248        | 141  | 873          | 308       |

$$D \quad p = -0.208 + 0.068 Y \dots\dots\dots ③$$

$$S \quad g = -0.580 p + 0.658 Z \dots\dots\dots ④$$

この構造方程式において 供給と価格との関係が負の関係になっているのが気になるところであるが、しかし実際は、従来まことに

る合板製造業者の価格に対する供給ビヘビヤは、ここでも示されているごとく、価格が下落すると、却って多く生産する傾向をみせていることが、今度の実態調査によってたしかめられている。

### ③ 趨勢変動

台板価格の戦後にみける趨勢変動は、 $\gamma$  10 図の AA' のごとく、この方程式は  $Y_t = 126.50 + 0.91 t$  である。上昇傾向を示している。この上昇の原因は、需給量の増加傾向と価格の上昇傾向とをあわせ考えると、理論的に考えて、需要が供給よりも、一層激しく増加してきたことに起因するものと思われる。



# 6. 各地における価格材料

東京地区合板価格推移表

Type III 2.7 3/4 3x6

| 年  | 31   | 32   | 33   | 34   | 35  | 36   | 37   |
|----|------|------|------|------|-----|------|------|
| 1  |      | 150  | 125  | 130  | 160 | 110  | 1825 |
| 2  |      | 150  | 1175 | 140  | 160 | 120  | 1825 |
| 3  |      | 150  | 1125 | 1375 | 155 | 130  | 1825 |
| 4  | 128  | 150  | 115  | 135  | 140 | 135  | 175  |
| 5  | 128  | 150  | 110  | 130  | 125 | 140  | 190  |
| 6  | 135  | 140  | 105  | 130  | 130 | 145  |      |
| 7  | 140  | 135  | 100  | 130  | 130 | 1475 |      |
| 8  | 145  | 125  | 103  | 140  | 130 | 155  |      |
| 9  | 1475 | 120  | 105  | 145  | 120 | 165  |      |
| 10 | 1475 | 1225 | 110  | 170  | 120 | 175  |      |
| 11 | 1425 | 1275 | 115  | 170  | 120 | 1825 |      |
| 12 | 1475 | 125  | 120  | 165  | 115 | 1825 |      |

|    |       |       |       |       |       |       |       |
|----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 平均 | 140.7 | 137.5 | 111.5 | 143.5 | 133.8 | 149.0 | 198.5 |
|----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|

Type II 3.0mm 3x6

| 年  | 29    | 30    | 31    | 32    | 33    | 34    | 35    | 36    | 37    | 38    |
|----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 1  |       | 160   |       |       | 153   | 108   |       | 155   | 235   | 225   |
| 2  |       | 165   |       |       | 144   | 110   |       | 150   | 220   | 228   |
| 3  | 155   | 162   | 180   |       | 121   |       | 185   | 160   | 220   | 230   |
| 4  | 145   | 162   | 188   |       | 121   |       | 220   | 160   | 220   | 235   |
| 5  | 145   |       | 198   | 153   |       |       | 160   | 180   | 220   | 235   |
| 6  | 140   | 143   |       | 150   | 121   |       | 160   | 180   | 220   | 230   |
| 7  | 120   |       |       | 150   | 117   |       | 160   | 200   | 205   | 220   |
| 8  |       | 150   |       | 162   | 126   | 175   | 149   | 190   |       | 215   |
| 9  |       |       |       |       | 126   | 175   | 140   | 210   | 215   | 210   |
| 10 |       |       |       | 130   | 130   | 175   | 140   |       | 215   | 211   |
| 11 | 147   |       | 155   | 158   | 126   | 185   | 145   |       | 225   | 220   |
| 12 | 157   |       |       | 140   | 140   |       | 150   | 235   | 225   | 220   |
| 平均 | 144.1 | 156.0 | 182.8 | 149.0 | 129.5 | 154.7 | 158.9 | 180.0 | 220.0 | 223.0 |



東京地区台板価格推移表

Type II 40mm 3x6

| 年<br>月 | 29    | 30    | 31    | 32    | 33    | 34    | 35    | 36    | 37    | 38    |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 1      | 210   | 216   | 186   | 225   | 180   | 144   | 220   | 190   | 292.5 | 260   |
| 2      |       | 216   | 180   |       | 198   | 150   | 220   | 190   | 280   | 260   |
| 3      | 205   | 216   | 180   |       | 194   | 230   | 235   | 200   | 280   | 270   |
| 4      |       | 216   |       |       |       | 230   | 210   | 200   | 290   | 270   |
| 5      | 205   |       |       | 200   |       | 230   | 205   | 235   | 270   | 280   |
| 6      | 200   | 190   |       | 216   | 162   | 225   | 205   | 235   | 260   | 265   |
| 7      | 200   | 190   |       | 216   | 162   |       | 200   | 240   |       | 250   |
| 8      | 238   | 198   |       | 190   | 158   | 218   | 195   | 250   | 245   | 245   |
| 9      |       |       |       | 207   | 158   | 238   | 195   | 260   | 250   | 245   |
| 10     |       |       |       | 180   | 162   | 225   | 165   | 275   | 250   | 250   |
| 11     | 180   | 180   |       | 200   |       | 235   | 165   | 290   | 260   | 250   |
| 12     |       | 180   |       | 200   |       | 220   | 175   | 294.5 | 260   | 245   |
| 平均     | 205.4 | 204.2 | 180.0 | 203.8 | 169.3 | 213.2 | 199.5 | 232.0 | 265.7 | 239.5 |

Type II 5.5mm 3x6

| 年<br>月 | 29 | 30    | 31    | 32    | 33    | 34    | 35    | 36    | 37    | 38    |
|--------|----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 1      |    |       |       |       | 299   |       | 320   | 225   | 395   | 350   |
| 2      |    |       |       |       |       | 230   | 320   | 250   | 355   | 350   |
| 3      |    |       |       | 270   |       | 323   | 330   | 270   | 555   | 360   |
| 4      |    |       |       |       |       |       | 305   | 270   | 355   | 360   |
| 5      |    |       | 234   | 279   |       |       | 300   | 300   | 350   | 370   |
| 6      |    |       |       | 279   | 270   |       | 300   | 300   | 350   | 360   |
| 7      |    |       |       | 279   | 257   |       | 295   | 310   | 330   | 350   |
| 8      |    |       |       | 279   | 252   | 298   | 265   | 310   | 330   | 340   |
| 9      |    |       |       | 306   | 252   | 295   | 250   | 330   | 340   | 340   |
| 10     |    |       | 290   | 270   | 252   | 325   | 250   | 345   | 340   | 350   |
| 11     |    | 295   |       | 279   |       | 335   | 245   | 365   | 350   | 350   |
| 12     |    | 295   |       | 279   | 180   | 320   | 235   | 375   | 350   | 340   |
| 平均     |    | 275.0 | 252.0 | 280.0 | 248.9 | 303.7 | 284.6 | 304.2 | 348.3 | 351.7 |



## 東京地区台板価格推移表

Type II 6 mm 3x6

| 年<br>月 | 29    | 30    | 31    | 32    | 33    | 34    | 35    | 36    | 37    | 38    |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 1      | 306   | 351   |       | 333   | 306   | 270   | 350   | 260   | 410   |       |
| 2      |       | 360   |       |       | 308   | 250   | 350   | 280   | 390   | 390   |
| 3      | 403   | 324   | 324   | 342   | 288   | 300   | 360   | 300   | 390   | 400   |
| 4      | 342   |       | 279   | 342   | 279   | 315   | 330   | 300   | 390   | 420   |
| 5      | 300   |       | 299   | 342   | 288   | 315   | 320   | 320   | 390   | 420   |
| 6      | 300   |       | 216   | 300   | 275   | 315   | 320   | 340   | 390   | 400   |
| 7      |       | 342   |       | 300   | 275   | 315   | 320   | 340   | 390   | 390   |
| 8      | 320   | 342   |       | 342   | 270   | 315   | 301   | 340   | 390   | 390   |
| 9      | 320   |       |       | 297   | 270   | 335   | 280   | 360   | 380   | 390   |
| 10     | 320   |       | 324   | 315   | 270   | 340   |       | 380   | 380   |       |
| 11     | 315   | 360   | 315   | 297   | 270   | 350   | 220   | 400   | 390   | 390   |
| 12     | 315   | 360   |       | 306   | 270   | 350   | 220   | 410   | 390   | 390   |
| 平均     | 320.1 | 342.4 | 309.5 | 319.6 | 280.8 | 314.2 | 315.5 | 335.8 | 386.7 | 398.0 |

Type II 9 mm 3x6

| 年<br>月 | 29    | 30    | 31    | 32    | 33    | 34    | 35    | 36    | 37    | 38    |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 1      | 540   | 504   |       |       | 486   |       |       | 420   | 695   | 612   |
| 2      |       |       |       |       | 486   | 490   |       | 450   | 650   | 612   |
| 3      |       |       | 540   |       | 450   |       | 540   | 500   | 650   | 620   |
| 4      | 558   |       | 522   | 549   | 486   | 500   | 510   | 500   | 630   | 630   |
| 5      |       |       | 468   | 504   |       |       | 500   | 540   | 630   | 612   |
| 6      | 504   |       |       | 504   | 468   |       | 500   | 540   | 612   | 594   |
| 7      | 504   | 504   |       | 504   | 450   |       | 500   | 554   | 612   | 594   |
| 8      | 504   | 504   |       | 468   | 414   | 560   | 432   |       | 600   | 594   |
| 9      | 504   | 486   |       | 504   | 414   | 530   | 440   |       | 600   | 594   |
| 10     | 504   |       |       | 504   | 450   | 500   | 440   | 660   | 600   | 594   |
| 11     | 504   | 486   |       | 450   | 432   | 540   | 440   | 675   | 612   |       |
| 12     | 504   | 486   |       |       |       |       | 432   | 625   | 612   | 594   |
| 平均     | 514.0 | 495.0 | 510.0 | 498.4 | 453.6 | 530.0 | 493.4 | 551.8 | 625.1 | 602.8 |



大阪地区台板価格推移表

Type III 27mm 3x6

| 年<br>月 | 27  | 28  | 29  | 30  | 31  | 32  | 33  | 34  | 35  | 36  | 37  | 38  | 39  |
|--------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 1      | 150 | 136 | 160 | 162 | 135 | 150 | 116 | 132 | 165 | 110 | 180 | 165 | 162 |
| 2      | 150 | 150 | 157 | 160 | 130 | 150 | 115 | 135 | 157 | 122 | 180 | 165 |     |
| 3      | 145 | 150 | 155 | 155 | 126 | 148 | 117 | 135 | 150 | 131 | 180 | 170 |     |
| 4      | 135 | 165 | 150 | 150 | 126 | 140 | 120 | 136 | 148 | 136 | 180 | 175 |     |
| 5      | 132 | 162 | 150 | 145 | 130 | 138 | 115 | 137 | 130 | 140 | 178 | 170 |     |
| 6      | 128 | 165 | 150 | 140 | 135 | 134 | 112 | 137 | 129 | 140 | 175 | 165 |     |
| 7      | 124 | 166 | 155 | 135 | 138 | 128 | 109 | 139 | 128 | 148 | 175 | 162 |     |
| 8      | 121 | 162 | 155 | 135 | 142 | 122 | 112 | 150 | 130 | 152 | 175 | 160 |     |
| 9      | 123 | 162 | 155 | 130 | 145 | 125 | 116 | 151 | 125 | 161 | 170 | 162 |     |
| 10     | 124 | 160 | 157 | 125 | 145 | 129 | 119 | 142 | 124 | 169 | 170 | 165 |     |
| 11     | 124 | 160 | 160 | 130 | 145 | 127 | 119 | 165 | 122 | 182 | 168 | 170 |     |
| 12     | 130 | 160 | 160 | 135 | 150 | 124 | 126 | 162 | 110 | 180 | 165 | 165 |     |
| 平均     | 132 | 158 | 155 | 142 | 137 | 135 | 116 | 145 | 135 | 148 | 167 | 166 | 162 |

Type II 3.0mm 3x6

| 年<br>月 | 36  | 37  | 38  |
|--------|-----|-----|-----|
| 1      |     | 235 | 220 |
| 2      |     | 235 | 220 |
| 3      |     | 235 | 230 |
| 4      |     | 235 | 235 |
| 5      |     | 225 | 235 |
| 6      |     | 220 | 225 |
| 7      |     | 205 | 220 |
| 8      | 190 | 205 | 220 |
| 9      | 200 | 205 | 220 |
| 10     | 210 | 220 | 225 |
| 11     | 240 | 220 | 225 |
| 12     | 235 | 220 | 225 |
| 平均     | 215 | 222 | 226 |

Type II 3.0mm 3x6

| 年<br>月 | 36  | 37  | 38  |
|--------|-----|-----|-----|
| 1      |     | 215 | 205 |
| 2      |     | 215 | 205 |
| 3      |     | 215 | 215 |
| 4      |     | 215 | 220 |
| 5      |     | 210 | 220 |
| 6      |     | 205 |     |
| 7      |     | 190 |     |
| 8      | 180 | 190 |     |
| 9      | 190 | 190 |     |
| 10     | 200 | 205 |     |
| 11     | 220 | 205 |     |
| 12     | 215 | 205 |     |
| 平均     | 201 | 205 | 213 |



名古屋台板価格の推移

Type III 30 mm 3x6

| 年<br>月 | 33    | 34    | 35  | 36    | 37    | 38  |
|--------|-------|-------|-----|-------|-------|-----|
| 1      | 125   | 130   | 160 | 110   | 182.5 | 165 |
| 2      | 117.5 | 140   | 160 | 120   | 182.5 | 170 |
| 3      | 112.5 | 132.5 | 155 | 130   | 182.5 | 175 |
| 4      | 115   | 135   | 140 | 135   | 175   | 180 |
| 5      | 110   | 130   | 125 | 140   | 170   | 180 |
| 6      | 105   | 130   | 130 | 145   | 155   | 170 |
| 7      | 100   | 130   | 130 | 147.5 | 150   | 165 |
| 8      | 103   | 140   | 130 | 155   | 152.5 | 160 |
| 9      | 105   | 145   | 120 | 165   | 155   | 160 |
| 10     | 110   | 170   | 120 | 175   | 165   | 165 |
| 11     | 115   | 170   | 120 | 182.5 | 165   | 170 |
| 12     | 120   | 230   | 115 | 172.5 | 165   | 165 |
| 平均     | 112   | 147   | 134 | 147   | 167   | 167 |

Type I 30 mm 3x6

| 年<br>月 | 33  | 34  | 35  | 36  | 37  | 38  |
|--------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 1      |     |     |     | 175 | 260 | 290 |
| 2      |     |     |     | 170 |     | 265 |
| 3      |     |     |     | 185 | 255 | 260 |
| 4      |     |     |     | 195 | 255 | 260 |
| 5      | 195 |     |     | 205 | 245 | 270 |
| 6      | 195 | 210 |     | 210 | 240 | 265 |
| 7      |     |     | 215 | 215 | 240 | 250 |
| 8      | 195 |     | 190 | 225 | 250 | 255 |
| 9      | 190 |     | 185 | 240 | 250 | 250 |
| 10     |     |     | 185 | 260 | 265 | 255 |
| 11     |     | 240 | 180 | 220 | 265 | 250 |
| 12     |     | 230 | 180 | 270 | 265 | 250 |
| 平均     | 194 | 227 | 187 | 218 | 254 | 258 |

Type II 30 mm 3x6

| 年<br>月 | 33  | 34  | 35  | 36  | 37  | 38  |
|--------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 1      |     |     |     | 150 | 240 | 260 |
| 2      |     |     |     | 150 | 240 | 255 |
| 3      |     |     |     | 160 | 240 | 250 |
| 4      |     |     |     | 170 | 225 | 240 |
| 5      | 125 |     |     | 185 | 210 | 265 |
| 6      | 125 |     |     | 185 | 210 | 260 |
| 7      | 125 |     | 165 | 190 | 210 | 240 |
| 8      | 125 |     | 155 | 200 | 210 | 240 |
| 9      |     |     |     | 210 | 210 | 240 |
| 10     | 140 |     | 150 | 230 | 230 | 240 |
| 11     |     | 190 |     | 240 | 240 | 240 |
| 12     |     |     | 150 | 240 | 240 | 240 |
| 平均     | 128 | 170 | 155 | 193 | 225 | 242 |

Type I 40 mm 3x6

| 年<br>月 | 33 | 34  | 35  | 36  | 37  | 38  |
|--------|----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 1      |    |     |     | 230 | 325 |     |
| 2      |    |     |     | 240 | 325 | 340 |
| 3      |    |     |     | 255 | 325 | 330 |
| 4      |    |     |     | 265 | 325 | 330 |
| 5      |    |     |     | 275 | 310 | 330 |
| 6      |    |     | 250 |     | 300 | 325 |
| 7      |    |     | 250 | 280 | 290 | 325 |
| 8      |    |     | 250 | 290 | 290 | 300 |
| 9      |    |     | 220 | 300 | 300 | 300 |
| 10     |    | 300 | 220 | 330 | 310 | 300 |
| 11     |    |     |     | 330 | 320 | 305 |
| 12     |    | 500 |     | 330 | 320 | 300 |
| 平均     |    | 300 | 238 | 284 | 313 | 317 |



名古屋台板価格の推移

Type II 40mm 3×6

| 年<br>月 | 33  | 34  | 35  | 36  | 37  | 38  |
|--------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 1      |     | 180 | 245 | 180 | 255 | 265 |
| 2      |     | 190 | 240 | 200 | 260 | 265 |
| 3      |     |     | 240 | 220 | 255 | 260 |
| 4      |     | 210 | 210 | 220 | 255 | 260 |
| 5      |     | 200 |     | 220 | 255 | 260 |
| 6      | 160 | 200 | 190 | 230 | 235 | 255 |
| 7      |     | 200 | 190 | 235 | 235 | 260 |
| 8      | 165 | 200 | 190 | 235 | 235 | 260 |
| 9      | 165 | 230 | 170 | 240 | 245 | 250 |
| 10     | 170 | 250 | 170 | 295 | 250 | 250 |
| 11     |     | 250 | 190 | 295 | 260 | 255 |
| 12     | 170 | 250 | 170 | 280 | 265 | 250 |
| 平均     | 166 | 215 | 192 | 234 | 250 | 258 |

Type I 5.5mm 3×6

| 年<br>月 | 33  | 34  | 35  | 36  | 37  | 38  |
|--------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 1      |     |     | 400 | 330 | 420 | 420 |
| 2      |     |     |     | 330 |     | 425 |
| 3      |     |     |     |     |     | 420 |
| 4      |     |     |     | 335 |     | 420 |
| 5      |     |     |     | 365 | 430 |     |
| 6      |     |     |     |     | 400 | 425 |
| 7      |     |     |     |     | 400 | 415 |
| 8      |     |     | 350 | 380 | 400 | 415 |
| 9      | 350 |     | 330 | 400 | 410 | 410 |
| 10     |     |     |     | 420 | 410 | 410 |
| 11     |     |     |     | 440 | 420 | 415 |
| 12     |     | 400 | 310 | 440 | 420 | 410 |
| 平均     | 350 | 400 | 348 | 392 | 412 | 412 |

Type II 5.5mm 3×6

| 年<br>月 | 33  | 34  | 35  | 36  | 37  | 38  |
|--------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 1      |     |     | 350 |     | 355 | 365 |
| 2      |     |     | 350 | 240 | 355 | 365 |
| 3      |     | 300 | 345 | 260 | 365 | 365 |
| 4      |     | 300 | 270 | 300 | 350 | 365 |
| 5      |     | 300 |     | 300 | 350 | 365 |
| 6      |     | 300 |     | 320 | 330 | 360 |
| 7      | 250 | 310 |     | 330 | 335 | 340 |
| 8      | 255 | 310 | 220 | 345 | 335 | 340 |
| 9      |     | 320 | 270 | 350 | 335 | 340 |
| 10     | 280 | 350 | 270 | 370 | 350 | 345 |
| 11     | 270 | 340 | 270 | 370 | 360 | 345 |
| 12     |     | 340 | 265 | 370 | 360 | 345 |
| 平均     | 264 | 317 | 299 | 323 | 348 | 353 |



仙台地区台板价格推移表

Type II 3 mm 3 x 6 57 x 枕

| 年<br>月 | 27  | 28  | 29  | 30  | 31  | 32  | 33  | 34  | 35  | 36  | 37  | 38  |
|--------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 1      |     | 165 |     | 185 |     | 165 | 140 | 185 |     |     | 240 | 260 |
| 2      |     | 165 |     | 185 | 140 | 165 | 135 | 185 | 225 | 190 | 240 | 260 |
| 3      |     | 165 | 190 | 185 | 140 | 165 | 120 | 185 | 220 | 205 | 240 | 265 |
| 4      |     | 185 | 180 | 180 | 140 | 165 | 120 | 185 | 210 | 195 | 280 | 295 |
| 5      |     | 175 | 175 | 165 | 135 | 155 | 125 | 185 | 190 | 200 | 275 | 290 |
| 6      |     | 170 |     | 160 | 140 | 150 | 120 | 185 | 190 | 210 | 275 | 285 |
| 7      |     | 170 | 175 | 155 | 145 | 135 | 110 | 195 | 190 | 210 | 275 | 255 |
| 8      |     | 180 | 175 | 155 | 160 | 140 | 120 | 195 | 190 | 225 | 275 | 255 |
| 9      |     | 180 | 190 | 150 | 165 | 140 |     | 210 | 185 | 240 | 280 | 255 |
| 10     |     | 175 | 175 | 140 | 165 | 140 | 125 | 225 | 180 | 240 | 285 |     |
| 11     | 150 | 180 | 180 | 140 | 160 | 140 | 125 | 230 |     | 240 | 285 | 260 |
| 12     | 145 | 185 | 175 | 135 | 160 | 140 | 130 | 230 | 180 |     | 285 | 265 |
| 平均     | 145 | 175 | 170 | 161 | 150 | 150 | 125 | 200 | 176 | 216 | 270 | 262 |

Type II 4 mm 3 x 6 , 7

| 年<br>月 | 27  | 28  | 29  | 30  | 31  | 32  | 33  | 34  | 35  | 36  | 37  | 38  |
|--------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 1      |     | 250 |     | 335 | 290 |     | 350 | 275 |     |     | 395 | 425 |
| 2      |     | 250 |     | 335 | 290 | 350 | 335 | 260 | 390 | 360 | 395 | 425 |
| 3      |     | 250 | 350 | 335 | 290 | 350 | 335 | 260 | 380 | 360 | 395 | 425 |
| 4      |     | 250 | 350 | 325 | 290 | 350 | 350 | 260 | 380 | 360 | 395 | 425 |
| 5      |     | 250 | 325 | 325 |     | 350 | 350 | 330 | 380 | 360 | 395 | 415 |
| 6      |     | 250 |     | 325 |     | 350 | 295 | 330 | 380 | 360 | 400 | 410 |
| 7      |     | 275 | 325 | 325 |     | 350 | 295 | 330 | 365 | 325 | 400 | 405 |
| 8      |     | 275 | 325 | 325 |     | 350 | 295 | 330 | 390 | 375 | 400 | 405 |
| 9      |     | 275 | 305 | 300 |     | 350 |     | 360 | 370 | 390 | 425 | 405 |
| 10     |     | 300 | 305 | 300 |     | 350 | 295 | 375 | 390 | 375 | 425 | 405 |
| 11     |     |     | 315 | 300 | 325 | 350 | 295 | 380 |     | 375 | 425 | 405 |
| 12     | 255 | 285 | 325 | 300 | 325 | 350 | 295 | 380 | 360 | 375 | 425 | 405 |
| 平均     | 255 | 265 | 325 | 319 | 302 | 350 | 317 | 324 | 372 | 368 | 406 | 413 |



仙台地区台板价格推移表

Type II 4mm 3x6 2x

| 年<br>月 | 27  | 28  | 29  | 30  | 31  | 32  | 33  | 34  | 35  | 36  | 37  | 38  |
|--------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 1      |     | 290 |     | 385 |     |     | 455 | 455 |     |     | 500 |     |
| 2      |     | 290 |     | 385 | 390 | 440 | 455 | 460 | 485 | 475 | 500 | 500 |
| 3      |     | 290 | 360 | 385 | 390 | 415 | 455 | 460 | 525 | 450 | 500 | 500 |
| 4      |     | 290 | 360 | 385 | 390 | 415 | 455 | 460 | 525 | 440 | 480 | 500 |
| 5      |     | 290 | 375 | 395 | 390 | 455 | 455 | 460 | 525 | 500 | 450 | 500 |
| 6      |     | 290 | 375 | 395 |     | 455 | 455 | 460 | 525 | 500 | 450 | 500 |
| 7      |     | 325 | 375 | 395 |     | 455 | 455 | 460 | 525 | 500 | 440 | 500 |
| 8      |     | 335 | 350 | 400 |     | 455 | 455 | 460 | 525 | 525 | 450 | 500 |
| 9      |     | 335 | 335 | 400 |     | 455 | 455 | 475 | 525 | 525 | 490 | 500 |
| 10     |     | 360 | 335 | 400 |     | 455 | 455 | 500 | 475 | 550 | 490 |     |
| 11     |     |     | 365 | 400 |     | 455 | 455 | 485 |     | 500 | 500 | 500 |
| 12     | 290 | 350 | 375 | 400 |     | 455 | 455 | 485 | 450 | 500 | 500 | 500 |
| 平均     | 290 | 313 | 341 | 389 | 390 | 426 | 455 | 468 | 509 | 490 | 440 | 500 |

成島市合板生産者価格

Type II 2.7mm 3x6

| 年<br>月 | 36  | 37  | 38  |
|--------|-----|-----|-----|
| 1      | 148 | 210 | 195 |
| 2      | 146 | 210 | 195 |
| 3      | 151 | 210 | 200 |
| 4      | 162 | 210 | 200 |
| 5      | 162 | 200 | 200 |
| 6      | 162 | 190 | 200 |
| 7      | 170 | 175 | 200 |
| 8      | 175 | 175 | 200 |
| 9      | 185 | 180 | 200 |
| 10     | 198 | 185 | 200 |
| 11     | 205 | 190 | 200 |
| 12     | 210 | 170 | 200 |
| 計      | 193 | 194 | 199 |

Type IV 2.7mm 3x6

| 年<br>月 | 27  | 28  | 29  | 30  | 31  | 32  | 33  | 34  | 35  | 36  | 37  | 38  |
|--------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 1      |     |     |     |     |     | 150 |     | 128 | 165 | 148 | 210 | 195 |
| 2      |     |     |     |     |     | 150 |     | 135 | 160 | 146 | 210 | 195 |
| 3      |     |     |     |     |     | 150 | 120 | 140 | 160 | 151 | 210 | 200 |
| 4      |     |     |     |     |     | 150 | 124 | 138 | 147 | 162 | 210 | 200 |
| 5      |     |     |     |     |     | 150 | 115 | 136 | 135 | 162 | 200 | 200 |
| 6      |     |     | 145 |     | 125 |     | 115 | 135 | 130 | 162 | 190 | 200 |
| 7      | 112 |     | 145 |     | 135 | 145 | 115 | 135 | 130 | 170 | 175 | 200 |
| 8      |     |     |     |     |     |     | 105 | 135 | 130 | 175 | 175 | 200 |
| 9      |     | 170 |     |     |     |     | 106 | 142 | 123 | 185 | 180 | 200 |
| 10     |     | 170 |     |     |     |     | 110 | 153 | 123 | 198 | 190 | 200 |
| 11     |     |     | 160 | 135 |     |     | 115 | 165 | 123 | 205 | 190 | 200 |
| 12     | 125 |     |     |     |     |     | 120 | 165 | 120 | 210 | 190 | 200 |
| 計      | 119 | 170 | 150 | 135 | 130 | 149 | 114 | 142 | 137 | 173 | 174 | 199 |



板台板生產者價格

Type I 30 mm 3x6

| #  | 34  | 35  | 36  | 37  | 38  |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 1  |     |     |     | 305 | 290 |
| 2  |     |     |     | 305 | 290 |
| 3  |     |     |     | 305 | 290 |
| 4  |     |     |     | 300 | 290 |
| 5  |     |     | 230 | 290 | 295 |
| 6  |     | 240 | 230 | 285 | 295 |
| 7  |     | 240 | 230 | 280 | 290 |
| 8  |     | 230 | 250 | 290 | 285 |
| 9  |     | 230 | 280 | 280 | 260 |
| 10 |     | 230 | 290 | 280 | 260 |
| 11 | 215 | 230 | 305 | 290 | 260 |
| 12 |     | 210 | 305 | 290 | 260 |
| 平均 | 215 | 230 | 265 | 290 | 280 |

Type II 30 mm 3x6

| #  | 33  | 34  | 35  | 36  | 37  | 38  |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 1  |     | 165 | 195 | 160 | 235 | 240 |
| 2  |     | 165 | 195 | 160 | 235 | 240 |
| 3  |     | 165 | 195 |     | 235 | 250 |
| 4  |     | 162 | 180 |     | 235 | 250 |
| 5  |     | 162 | 195 |     | 235 | 250 |
| 6  |     | 165 | 195 |     | 230 | 250 |
| 7  |     | 165 | 195 | 195 | 225 | 250 |
| 8  |     | 167 | 195 | 200 | 225 | 240 |
| 9  |     | 190 | 195 | 205 | 230 | 240 |
| 10 |     | 195 | 195 | 220 | 230 | 240 |
| 11 | 155 | 200 | 190 | 235 | 235 | 240 |
| 12 | 165 | 200 | 160 | 235 | 240 | 240 |
| 平均 | 160 | 172 | 177 | 201 | 233 | 244 |

Type I 30 mm 3x6

| #  | 34  | 35  | 36  | 37  | 38  |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 1  | 155 | 180 | 150 | 210 | 215 |
| 2  | 155 | 180 | 150 | 220 | 215 |
| 3  | 155 | 180 | 155 | 220 | 215 |
| 4  | 150 | 190 | 155 | 220 | 215 |
| 5  | 150 | 160 | 160 | 220 | 215 |
| 6  | 147 | 160 | 170 | 210 | 215 |
| 7  | 147 | 160 | 175 | 210 | 210 |
| 8  | 152 | 160 | 185 | 210 | 210 |
| 9  | 152 | 160 | 195 | 210 | 210 |
| 10 | 155 | 160 | 210 | 210 | 210 |
| 11 | 180 | 155 | 210 | 210 | 210 |
| 12 | 180 | 150 | 210 | 215 | 210 |
| 平均 | 157 | 165 | 177 | 214 | 213 |

Type II 40 mm 3x6

| #  | 35  | 36  | 37  | 38  |
|----|-----|-----|-----|-----|
| 1  |     | 215 | 290 | 290 |
| 2  |     | 215 | 290 | 290 |
| 3  |     | 215 | 290 | 290 |
| 4  |     | 220 | 290 | 290 |
| 5  |     | 220 | 285 | 290 |
| 6  |     | 220 | 280 | 285 |
| 7  | 215 | 240 | 250 | 285 |
| 8  |     | 260 | 255 | 285 |
| 9  |     | 270 | 280 | 280 |
| 10 |     | 280 | 280 | 290 |
| 11 |     | 290 | 290 | 280 |
| 12 |     | 290 | 290 | 290 |
| 平均 | 215 | 245 | 263 | 265 |



広島市台板生産者価格

Type II 400mm 3x6

| 年<br>月 | 34  | 35  | 36  | 37  | 38  |
|--------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 1      |     |     | 185 | 270 | 265 |
| 2      |     |     | 185 | 270 | 265 |
| 3      | 220 |     | 185 | 270 | 265 |
| 4      |     | 250 | 190 | 270 | 265 |
| 5      |     |     | 200 | 260 | 265 |
| 6      |     |     | 200 | 260 | 265 |
| 7      |     | 200 | 220 | 260 | 260 |
| 8      |     | 200 | 255 | 240 | 260 |
| 9      |     | 200 | 255 | 260 | 255 |
| 10     |     | 190 | 270 | 265 | 255 |
| 11     |     | 185 | 270 | 265 | 255 |
| 12     |     | 185 | 270 | 265 | 255 |
| 平均     | 220 | 201 | 224 | 263 | 261 |

Type I 55mm 3x6

| 年<br>月 | 35  | 36  | 37  | 38  |
|--------|-----|-----|-----|-----|
| 1      |     | 400 |     | 460 |
| 2      |     |     |     | 460 |
| 3      |     |     |     | 460 |
| 4      |     |     |     | 460 |
| 5      |     |     |     | 460 |
| 6      |     |     |     | 460 |
| 7      |     |     |     | 460 |
| 8      |     |     |     | 460 |
| 9      |     |     |     | 460 |
| 10     |     |     |     | 460 |
| 11     |     |     |     | 460 |
| 12     | 400 |     | 415 | 460 |
| 平均     | 400 | 400 | 415 | 460 |

Type II 55mm 3x6

| 年<br>月 | 34  | 35  | 36  | 37  | 38  |
|--------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 1      |     | 360 | 360 | 410 | 390 |
| 2      |     | 360 | 300 | 410 | 390 |
| 3      |     | 360 | 310 | 400 | 390 |
| 4      |     |     | 315 | 400 | 390 |
| 5      |     |     | 315 | 380 | 390 |
| 6      |     |     | 315 | 380 | 390 |
| 7      | 310 |     | 315 | 380 | 395 |
| 8      | 310 | 310 | 350 | 360 | 395 |
| 9      | 330 | 310 | 365 | 370 | 395 |
| 10     |     | 310 | 380 | 380 | 395 |
| 11     |     | 310 | 410 | 380 | 395 |
| 12     |     | 300 | 410 | 390 | 395 |
| 平均     | 317 | 265 | 340 | 383 | 383 |

Type III 55mm 3x6

| 年<br>月 | 33  | 34  | 35  | 36  | 37  | 38  |
|--------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 1      |     | 270 | 340 | 280 | 345 | 360 |
| 2      |     | 270 | 335 | 280 | 390 | 360 |
| 3      |     | 295 | 335 | 280 | 375 | 360 |
| 4      |     | 280 | 315 | 290 | 375 | 370 |
| 5      |     | 290 | 295 | 290 | 365 | 370 |
| 6      |     | 290 | 290 | 290 | 360 | 370 |
| 7      |     | 287 | 290 | 300 | 360 | 370 |
| 8      |     | 292 | 290 | 335 | 340 | 360 |
| 9      |     | 300 | 290 | 345 | 350 | 350 |
| 10     | 255 | 340 | 280 | 370 | 360 | 350 |
| 11     | 290 | 340 | 275 | 395 | 365 | 350 |
| 12     | 270 | 340 | 280 | 395 | 365 | 350 |
| 平均     | 265 | 302 | 301 | 321 | 367 | 360 |



広島市合板生産者価格

Type II 90mm 3x6

| 年<br>月 | 33  | 34  | 35  | 36 | 37  | 38  |
|--------|-----|-----|-----|----|-----|-----|
| 1      |     |     |     |    |     | 640 |
| 2      |     | 495 |     |    |     | 640 |
| 3      |     | 510 | 600 |    |     | 640 |
| 4      |     | 472 | 540 |    |     | 640 |
| 5      |     | 490 | 520 |    |     | 640 |
| 6      |     |     | 520 |    |     | 640 |
| 7      |     |     | 520 |    |     | 640 |
| 8      |     |     | 520 |    |     | 640 |
| 9      |     |     | 520 |    |     | 640 |
| 10     | 500 |     | 515 |    |     | 640 |
| 11     | 460 |     | 515 |    |     | 640 |
| 12     |     |     | 490 |    | 640 | 640 |
| 平均     | 480 | 494 | 526 |    | 640 | 640 |

広島市合板価格推移表

Type III 2.7mm 3x6

| 年<br>月 | 33  | 34  | 35  | 36  | 37  | 38  |
|--------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 1      |     | 155 | 190 | 115 | 185 | 180 |
| 2      |     | 140 | 165 | 115 | 180 | 185 |
| 3      | 125 | 145 | 165 | 130 | 180 | 185 |
| 4      | 130 | 145 | 155 | 135 | 180 | 185 |
| 5      | 120 | 140 | 140 | 140 | 180 | 190 |
| 6      | 120 | 140 | 135 | 140 | 178 | 190 |
| 7      | 120 | 140 | 135 | 145 | 155 | 190 |
| 8      | 110 | 140 | 135 | 150 | 155 | 180 |
| 9      | 110 | 150 | 130 | 160 | 155 | 180 |
| 10     | 115 | 160 | 130 | 170 | 165 | 180 |
| 11     | 128 | 170 | 130 | 175 | 165 | 180 |
| 12     | 130 | 190 | 125 | 185 | 170 | 180 |
| 平均     | 123 | 148 | 143 | 147 | 170 | 184 |

Type I 3.0mm 3x6

| 年<br>月 | 36  | 37  | 38  |
|--------|-----|-----|-----|
| 1      | 190 | 275 | 310 |
| 2      | 190 | 295 | 300 |
| 3      | 190 | 275 | 300 |
| 4      | 190 | 275 | 310 |
| 5      | 205 | 295 | 310 |
| 6      | 215 | 290 | 290 |
| 7      | 235 | 260 | 310 |
| 8      | 250 | 260 | 290 |
| 9      | 255 | 265 | 290 |
| 10     | 255 | 275 | 290 |
| 11     | 255 | 290 | 290 |
| 12     | 255 | 265 | 290 |
| 平均     | 227 | 270 | 298 |

Type I 4.0mm 3x6

| 年<br>月 | 37  | 38  |
|--------|-----|-----|
| 1      |     | 390 |
| 2      |     | 390 |
| 3      |     | 390 |
| 4      | 360 | 390 |
| 5      |     | 380 |
| 6      |     | 380 |
| 7      |     | 380 |
| 8      |     | 390 |
| 9      |     | 390 |
| 10     |     | 390 |
| 11     |     | 390 |
| 12     |     | 390 |
| 平均     | 360 | 392 |



底島市台板價格推移表

Type II 30mm 3x6

| 年<br>月 | 33  | 34  | 35  | 36  | 37  | 38  |
|--------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 1      |     | 175 | 210 | 150 | 235 | 260 |
| 2      |     | 175 | 210 | 150 | 235 | 255 |
| 3      |     | 175 | 210 | 150 | 235 | 255 |
| 4      |     | 175 | 195 | 150 | 235 | 260 |
| 5      |     | 175 | 190 | 155 | 235 | 260 |
| 6      |     | 180 | 190 | 165 | 225 | 260 |
| 7      |     | 180 | 190 | 175 | 215 | 260 |
| 8      |     | 180 | 190 | 195 | 210 | 250 |
| 9      |     | 190 | 190 | 195 | 210 | 250 |
| 10     |     | 190 | 190 | 215 | 210 | 250 |
| 11     | 165 | 215 | 180 | 235 | 220 | 250 |
| 12     | 170 | 215 | 190 | 235 | 220 | 260 |
| 平均     | 168 | 185 | 193 | 181 | 224 | 255 |

Type III 30mm 3x6

| 年<br>月 | 38  |
|--------|-----|
| 1      | 210 |
| 2      | 210 |
| 3      | 200 |
| 4      | 200 |
| 5      | 200 |
| 6      | 200 |
| 7      | 200 |
| 8      | 210 |
| 9      | 210 |
| 10     | 210 |
| 11     | 220 |
| 12     | 220 |
| 平均     | 208 |

Type II 40mm 3x6

| 年<br>月 | 36  | 37  | 38  |
|--------|-----|-----|-----|
| 1      | 170 |     | 300 |
| 2      | 170 | 285 | 305 |
| 3      | 185 |     | 305 |
| 4      | 190 |     | 305 |
| 5      |     | 285 | 305 |
| 6      | 220 | 275 | 305 |
| 7      | 220 |     | 305 |
| 8      |     |     | 295 |
| 9      | 250 | 255 | 295 |
| 10     | 270 | 275 | 295 |
| 11     |     | 270 | 295 |
| 12     |     | 270 | 295 |
| 平均     | 207 | 274 | 300 |

Type I 30mm 3x6

| 年<br>月 | 36  | 37  | 38  |
|--------|-----|-----|-----|
| 1      |     |     | 275 |
| 2      | 160 |     | 285 |
| 3      | 170 |     | 285 |
| 4      | 170 |     | 285 |
| 5      |     | 275 | 285 |
| 6      | 200 | 265 | 285 |
| 7      | 210 | 265 | 285 |
| 8      |     | 240 | 275 |
| 9      | 230 |     | 275 |
| 10     |     | 245 | 275 |
| 11     |     | 255 | 275 |
| 12     |     | 245 | 275 |
| 平均     | 190 | 254 | 280 |

Type I 55mm 3x6

| 年<br>月 | 37  | 38  |
|--------|-----|-----|
| 1      | 435 | 475 |
| 2      | 435 | 485 |
| 3      | 435 | 485 |
| 4      | 435 | 485 |
| 5      | 435 | 485 |
| 6      | 435 | 485 |
| 7      | 435 | 485 |
| 8      | 435 | 475 |
| 9      | 435 | 475 |
| 10     | 435 | 475 |
| 11     | 435 | 475 |
| 12     | 435 | 475 |
| 平均     | 435 | 480 |

Type II 55mm 3x6

| 年<br>月 | 36  | 37  | 38  |
|--------|-----|-----|-----|
| 1      |     | 380 | 390 |
| 2      |     | 380 | 400 |
| 3      | 260 | 380 | 400 |
| 4      | 285 | 380 | 400 |
| 5      |     | 360 | 400 |
| 6      |     |     | 400 |
| 7      |     |     | 410 |
| 8      |     |     | 390 |
| 9      |     |     | 390 |
| 10     |     |     | 390 |
| 11     |     |     | 390 |
| 12     | 380 |     | 390 |
| 平均     | 308 | 376 | 395 |



広島市台板価移表

Type II 5.5 mm 3x6

| 年<br>月 | 36  | 37  | 38  |
|--------|-----|-----|-----|
| 1      | 255 | 365 | 380 |
| 2      | 235 | 365 | 390 |
| 3      | 240 | 360 | 390 |
| 4      | 265 | 360 | 390 |
| 5      | 280 | 350 | 390 |
| 6      | 280 | 350 | 390 |
| 7      | 300 | 345 | 390 |
| 8      | 315 | 330 | 380 |
| 9      | 315 | 345 | 380 |
| 10     | 330 | 355 | 380 |
| 11     | 370 | 355 | 380 |
| 12     | 370 | 365 | 380 |
| 平均     | 295 | 353 | 385 |

Type I 90 mm 3x6

| 年<br>月 | 38  |
|--------|-----|
| 1      | 880 |
| 2      | 890 |
| 3      | 890 |
| 4      | 890 |
| 5      | 890 |
| 6      | 890 |
| 7      | 890 |
| 8      | 890 |
| 9      | 890 |
| 10     | 890 |
| 11     | 890 |
| 12     | 890 |
| 平均     | 889 |

Type II 90 mm 3x6

| 年<br>月 | 36  | 37  | 38  |
|--------|-----|-----|-----|
| 1      | 460 | 640 | 690 |
| 2      | 460 | 640 | 680 |
| 3      | 480 | 640 | 680 |
| 4      | 480 | 605 | 680 |
| 5      | 470 | 605 | 680 |
| 6      | 470 | 605 | 680 |
| 7      | 470 | 590 | 680 |
| 8      | 470 | 590 | 680 |
| 9      | 600 | 590 | 680 |
| 10     | 600 | 590 | 680 |
| 11     | 680 | 600 | 680 |
| 12     | 680 | 600 | 680 |
| 平均     | 627 | 608 | 680 |

広島市台板小丸価移表

Type II 27 mm 3x6

| 年<br>月 | 33  | 34  | 35  | 36  | 37  | 38  |
|--------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 1      |     | 155 | 185 | 135 | 195 | 190 |
| 2      |     | 160 | 180 | 135 | 190 | 200 |
| 3      | 140 | 160 | 180 | 150 | 190 | 200 |
| 4      | 140 | 160 | 170 | 150 | 190 | 200 |
| 5      | 140 | 160 | 155 | 155 | 190 | 200 |
| 6      | 140 | 160 | 150 | 155 | 180 | 200 |
| 7      | 140 | 160 | 150 | 160 | 170 | 200 |
| 8      | 130 | 160 | 150 | 170 | 170 | 190 |
| 9      | 150 | 170 | 150 | 195 | 170 | 190 |
| 10     | 135 | 175 | 150 | 185 | 170 | 190 |
| 11     | 140 | 185 | 150 | 190 | 190 | 190 |
| 12     | 150 | 185 | 140 | 200 | 185 | 190 |
| 平均     | 139 | 166 | 159 | 163 | 181 | 195 |

Type I 30 mm 3x6

| 年<br>月 | 36  | 37  | 38  |
|--------|-----|-----|-----|
| 1      | 250 | 315 | 350 |
| 2      | 230 | 315 | 340 |
| 3      | 230 | 315 | 340 |
| 4      | 230 | 315 | 350 |
| 5      | 240 | 310 | 350 |
| 6      | 250 | 310 | 330 |
| 7      | 270 | 300 | 340 |
| 8      | 290 | 300 | 330 |
| 9      | 290 | 300 | 330 |
| 10     | 290 | 310 | 330 |
| 11     | 290 | 310 | 330 |
| 12     | 310 | 300 | 330 |
| 平均     | 263 | 305 | 336 |

Type I 40 mm 3x6

| 年<br>月 | 38  |
|--------|-----|
| 1      | 430 |
| 2      | 430 |
| 3      | 430 |
| 4      | 430 |
| 5      | 430 |
| 6      | 430 |
| 7      | 430 |
| 8      | 430 |
| 9      | 430 |
| 10     | 430 |
| 11     | 430 |
| 12     | 430 |
| 平均     | 430 |



板面市台板小壳價格

Type II 3.0mm 3x6

| 年<br>月 | 33  | 34  | 35  | 36  | 37  | 38  |
|--------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 1      |     | 195 | 230 | 190 | 255 | 280 |
| 2      |     | 195 | 230 | 190 | 255 | 280 |
| 3      |     | 195 | 230 | 190 | 255 | 280 |
| 4      |     | 195 | 215 | 190 | 255 | 280 |
| 5      |     | 185 | 210 | 195 | 255 | 280 |
| 6      |     | 190 | 210 | 185 | 245 | 280 |
| 7      |     | 190 | 210 | 195 | 235 | 280 |
| 8      |     | 190 | 210 | 215 | 230 | 275 |
| 9      |     | 210 | 210 | 215 | 230 | 275 |
| 10     |     | 210 | 210 | 235 | 235 | 275 |
| 11     | 185 | 235 | 200 | 255 | 240 | 275 |
| 12     | 190 | 235 | 190 | 255 | 240 | 275 |
| 平均     | 188 | 202 | 213 | 201 | 244 | 278 |

Type II 4.0mm 3x6

| 年<br>月 | 37  | 38  |
|--------|-----|-----|
| 1      |     | 340 |
| 2      |     | 345 |
| 3      |     | 345 |
| 4      |     | 345 |
| 5      |     | 345 |
| 6      |     | 345 |
| 7      |     | 345 |
| 8      |     | 335 |
| 9      | 295 | 335 |
| 10     | 315 | 335 |
| 11     | 310 | 335 |
| 12     | 310 | 335 |
| 平均     | 308 | 340 |

Type III 4.0mm 3x6

| 年<br>月 | 37  | 38  |
|--------|-----|-----|
| 1      |     | 305 |
| 2      |     | 315 |
| 3      |     | 315 |
| 4      |     | 315 |
| 5      |     | 315 |
| 6      |     | 315 |
| 7      |     | 315 |
| 8      |     | 305 |
| 9      |     | 305 |
| 10     | 275 | 305 |
| 11     | 285 | 305 |
| 12     | 275 | 305 |
| 平均     | 278 | 310 |

Type I 5.5mm 3x6

| 年<br>月 | 38  |
|--------|-----|
| 1      | 535 |
| 2      | 545 |
| 3      | 545 |
| 4      | 545 |
| 5      | 545 |
| 6      | 545 |
| 7      | 545 |
| 8      | 535 |
| 9      | 535 |
| 10     | 535 |
| 11     | 535 |
| 12     | 535 |
| 平均     | 540 |

Type III 5.5mm 3x6

| 年<br>月 | 38  |
|--------|-----|
| 1      | 450 |
| 2      | 460 |
| 3      | 460 |
| 4      | 460 |
| 5      | 460 |
| 6      | 460 |
| 7      | 460 |
| 8      | 450 |
| 9      | 450 |
| 10     | 450 |
| 11     | 450 |
| 12     | 450 |
| 平均     | 455 |

Type III 5.5mm 3x6

| 年<br>月 | 36  | 37  | 38  |
|--------|-----|-----|-----|
| 1      | 285 | 415 | 430 |
| 2      | 285 | 415 | 440 |
| 3      | 290 | 410 | 440 |
| 4      | 315 | 410 | 440 |
| 5      | 330 | 400 | 440 |
| 6      | 330 | 400 | 440 |
| 7      | 350 | 395 | 440 |
| 8      | 365 | 380 | 430 |
| 9      | 365 | 395 | 430 |
| 10     | 380 | 405 | 430 |
| 11     | 420 | 405 | 430 |
| 12     | 420 | 405 | 430 |
| 平均     | 345 | 403 | 435 |



広島市台板小売価格

Type I  
90mm 3x6

| 年<br>月 | 36  | 37 | 38 |
|--------|-----|----|----|
| 1      | 980 |    |    |
| 2      | 980 |    |    |
| 3      | 980 |    |    |
| 4      | 980 |    |    |
| 5      | 980 |    |    |
| 6      | 980 |    |    |
| 7      | 980 |    |    |
| 8      | 980 |    |    |
| 9      | 980 |    |    |
| 10     | 980 |    |    |
| 11     | 980 |    |    |
| 12     | 980 |    |    |
| 平均     | 980 |    |    |

Type II 90mm 3x6

| 年<br>月 | 36  | 37  | 38  |
|--------|-----|-----|-----|
| 1      | 530 | 710 | 940 |
| 2      | 530 | 710 | 750 |
| 3      | 550 | 710 | 750 |
| 4      | 550 | 695 | 750 |
| 5      | 540 | 675 | 750 |
| 6      | 540 | 675 | 750 |
| 7      | 540 | 660 | 750 |
| 8      | 540 | 660 | 750 |
| 9      | 670 | 660 | 750 |
| 10     | 670 | 660 | 750 |
| 11     | 750 | 670 | 750 |
| 12     | 750 | 670 | 750 |
| 平均     | 597 | 678 | 750 |

特殊台板価格推移表 (広島市)

プリント台板販売価格

| 年<br>月 | 36  | 37  | 38  |
|--------|-----|-----|-----|
| 1      | 760 | 760 | 760 |
| 2      | 760 | 760 | 760 |
| 3      | 760 | 760 | 760 |
| 4      | 760 | 760 | 760 |
| 5      | 760 | 760 | 760 |
| 6      | 760 | 760 | 760 |
| 7      | 760 | 760 | 760 |
| 8      | 760 | 760 | 760 |
| 9      | 760 | 760 | 760 |
| 10     | 760 | 760 | 760 |
| 11     | 760 | 760 | 760 |
| 12     | 760 | 760 | 760 |
| 平均     | 760 | 760 | 760 |

プリント台板小売価格

| 年<br>月 | 36    | 37    | 38    |
|--------|-------|-------|-------|
| 1      | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| 2      | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| 3      | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| 4      | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| 5      | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| 6      | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| 7      | 1,000 | 1,000 | 950   |
| 8      | 1,000 | 1,000 | 950   |
| 9      | 1,000 | 1,000 | 950   |
| 10     | 1,000 | 1,000 | 950   |
| 11     | 1,000 | 1,000 | 950   |
| 12     | 1,000 | 1,000 | 950   |
| 平均     | 1,000 | 1,000 | 975   |

オーバーレイ台板販売価格

| 年<br>月 | 36    | 37    | 38    |
|--------|-------|-------|-------|
| 1      | 1,050 | 1,050 | 1,050 |
| 2      | 1,050 | 1,050 | 1,050 |
| 3      | 1,050 | 1,050 | 1,050 |
| 4      | 1,050 | 1,050 | 1,050 |
| 5      | 1,050 | 1,050 | 1,050 |
| 6      | 1,050 | 1,050 | 1,050 |
| 7      | 1,050 | 1,050 | 1,050 |
| 8      | 1,050 | 1,050 | 1,050 |
| 9      | 1,050 | 1,050 | 1,050 |
| 10     | 1,050 | 1,050 | 1,050 |
| 11     | 1,050 | 1,050 | 1,050 |
| 12     | 1,050 | 1,050 | 1,050 |
| 平均     | 1,050 | 1,050 | 1,050 |



オーバーレイ台板小売価格

| 年<br>月 | 36   | 37   | 38   |
|--------|------|------|------|
| 1      | 1200 | 1210 | 1200 |
| 2      | 1200 | 1200 | 1200 |
| 3      | 1200 | 1200 | 1200 |
| 4      | 1200 | 1200 | 1200 |
| 5      | 1200 | 1200 | 1200 |
| 6      | 1200 | 1200 | 1200 |
| 7      | 1200 | 1200 | 1200 |
| 8      | 1200 | 1200 | 1200 |
| 9      | 1200 | 1200 | 1200 |
| 10     | 1200 | 1200 | 1200 |
| 11     | 1200 | 1200 | 1200 |
| 12     | 1200 | 1200 | 1200 |
| 平均     | 1200 | 1200 | 1200 |

塗装台板卸売価格

| 年<br>月 | 36  | 37  | 38  |
|--------|-----|-----|-----|
| 1      | 290 | 290 | 290 |
| 2      | 290 | 290 | 290 |
| 3      | 290 | 290 | 290 |
| 4      | 290 | 290 | 290 |
| 5      | 290 | 290 | 290 |
| 6      | 290 | 290 | 290 |
| 7      | 290 | 290 | 290 |
| 8      | 290 | 290 | 290 |
| 9      | 290 | 290 | 290 |
| 10     | 290 | 290 | 290 |
| 11     | 290 | 290 | 290 |
| 12     | 290 | 290 | 290 |
| 平均     | 290 | 290 | 290 |

塗装台板小売価格

| 年<br>月 | 36  | 37  | 38  |
|--------|-----|-----|-----|
| 1      | 350 | 350 | 350 |
| 2      | 350 | 350 | 350 |
| 3      | 350 | 350 | 350 |
| 4      | 350 | 350 | 350 |
| 5      | 350 | 350 | 350 |
| 6      | 350 | 350 | 350 |
| 7      | 350 | 350 | 350 |
| 8      | 350 | 350 | 350 |
| 9      | 350 | 350 | 350 |
| 10     | 350 | 350 | 350 |
| 11     | 350 | 350 | 350 |
| 12     | 350 | 350 | 350 |
| 平均     | 350 | 350 | 350 |

福岡の生産者価格

Type III 27mm 3x6

| 年<br>月 | 34  | 35  | 36  | 37  | 38  |
|--------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 1      |     | 174 | 120 | 185 | 170 |
| 2      |     | 168 | 122 | 185 | 170 |
| 3      |     | 165 | 131 | 185 | 170 |
| 4      |     | 155 | 138 | 182 | 175 |
| 5      |     | 129 | 140 | 182 | 175 |
| 6      |     | 129 | 145 | 170 | 175 |
| 7      |     | 133 | 145 | 160 | 165 |
| 8      |     | 133 | 145 | 155 | 165 |
| 9      |     | 130 | 160 | 160 | 165 |
| 10     |     | 128 | 180 | 165 | 165 |
| 11     |     | 123 | 183 | 190 | 165 |
| 12     | 195 | 121 | 185 | 170 | 165 |
| 平均     | 175 | 141 | 150 | 172 | 169 |

(輸入税)

Type III 40mm 3x6

| 年<br>月 | 35  | 36  | 37  | 38  |
|--------|-----|-----|-----|-----|
| 1      |     | 170 | 280 | 255 |
| 2      |     | 175 | 280 | 255 |
| 3      |     | 185 | 280 | 260 |
| 4      |     | 190 | 280 | 265 |
| 5      |     | 200 | 280 | 265 |
| 6      | 195 | 215 | 260 | 260 |
| 7      |     | 215 | 230 | 260 |
| 8      |     | 215 | 250 | 250 |
| 9      | 185 | 225 | 250 | 250 |
| 10     |     | 290 | 255 | 250 |
| 11     |     | 280 | 255 | 250 |
| 12     | 170 | 280 | 255 | 250 |
| 平均     | 183 | 218 | 265 | 256 |



Type II 40 mm 3x6

| 年<br>月 | 35  | 36  | 37  | 38  | 39 |
|--------|-----|-----|-----|-----|----|
| 1      |     | 190 | 275 | 265 |    |
| 2      |     | 195 | 285 | 270 |    |
| 3      |     |     | 285 | 280 |    |
| 4      |     |     | 285 | 280 |    |
| 5      |     |     | 285 | 280 |    |
| 6      |     | 235 | 260 | 275 |    |
| 7      | 220 | 235 | 265 | 275 |    |
| 8      |     | 235 | 265 | 265 |    |
| 9      |     | 245 | 265 | 265 |    |
| 10     |     | 285 | 290 | 265 |    |
| 11     |     | 295 | 265 | 265 |    |
| 12     | 190 | 295 | 290 | 265 |    |
| 平均     | 205 | 246 | 275 | 271 |    |

Type II 5.5 mm 3x6

| 年<br>月 | 35  | 36  | 37  | 38  |
|--------|-----|-----|-----|-----|
| 1      |     |     | 405 | 390 |
| 2      |     |     | 405 | 390 |
| 3      |     |     | 405 | 385 |
| 4      |     |     | 395 | 385 |
| 5      |     |     | 395 | 385 |
| 6      |     | 320 | 395 | 380 |
| 7      |     | 320 | 360 | 375 |
| 8      |     | 330 | 360 | 365 |
| 9      |     | 375 | 365 | 365 |
| 10     |     | 390 | 365 | 365 |
| 11     |     | 395 | 370 | 365 |
| 12     | 265 | 405 | 390 | 365 |
| 平均     | 265 | 362 | 381 | 361 |

(輸入枕)

| 年<br>月 | 35  | 36  | 37  | 38  |
|--------|-----|-----|-----|-----|
| 1      |     |     | 385 | 350 |
| 2      |     |     | 385 | 350 |
| 3      |     |     | 385 | 350 |
| 4      |     | 285 | 385 | 360 |
| 5      |     | 285 | 375 | 360 |
| 6      | 295 | 300 | 355 | 360 |
| 7      |     | 300 | 345 | 360 |
| 8      |     | 310 | 345 | 350 |
| 9      |     | 300 | 345 | 350 |
| 10     | 270 | 310 | 345 | 350 |
| 11     |     | 365 | 350 | 350 |
| 12     |     | 385 | 350 | 350 |
| 平均     | 273 | 322 | 363 | 353 |



福同小電極格

Type II 27mm 3x6

| 序<br>号 | 35  | 36  | 37  | 38  |
|--------|-----|-----|-----|-----|
| 1      | 210 | 190 | 245 | 235 |
| 2      | 205 | 170 | 245 | 240 |
| 3      | 200 | 170 | 245 | 240 |
| 4      | 195 | 170 | 245 | 240 |
| 5      | 190 | 185 | 245 | 240 |
| 6      | 180 | 185 | 245 | 240 |
| 7      | 195 | 185 | 225 | 240 |
| 8      | 195 | 210 | 225 | 220 |
| 9      | 190 | 220 | 230 | 220 |
| 10     | 190 | 245 | 235 | 220 |
| 11     | 190 | 245 | 235 | 220 |
| 12     | 190 | 245 | 235 | 220 |
| 平均     | 192 | 180 | 238 | 231 |

Type III 27mm 3x6

| 序<br>号 | 34  | 35  | 36  | 37  | 38  |
|--------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 1      | 140 | 185 | 145 | 215 | 195 |
| 2      | 140 | 190 | 145 | 215 | 200 |
| 3      | 145 | 180 | 150 | 215 | 200 |
| 4      | 145 | 190 | 160 | 215 | 200 |
| 5      | 145 | 165 | 165 | 215 | 200 |
| 6      | 145 | 155 | 165 | 215 | 200 |
| 7      | 150 | 155 | 170 | 195 | 195 |
| 8      | 155 | 165 | 170 | 185 | 190 |
| 9      | 165 | 150 | 200 | 190 | 190 |
| 10     | 180 | 150 | 205 | 185 | 185 |
| 11     | 190 | 150 | 215 | 185 | 185 |
| 12     | 190 | 150 | 215 | 195 | 195 |
| 平均     | 158 | 164 | 190 | 204 | 196 |

Type I 30mm 3x6

| 序<br>号 | 35  | 36  | 37  | 38  |
|--------|-----|-----|-----|-----|
| 1      | 310 | 235 | 325 | 320 |
| 2      | 300 | 235 | 325 | 320 |
| 3      | 300 | 240 | 325 | 320 |
| 4      | 295 | 250 | 325 | 320 |
| 5      | 280 | 255 | 325 | 320 |
| 6      | 255 | 250 | 325 | 320 |
| 7      | 250 | 260 | 310 | 320 |
| 8      | 250 | 280 | 315 | 310 |
| 9      | 250 | 300 | 320 | 310 |
| 10     | 250 | 320 | 320 | 310 |
| 11     | 250 | 325 | 320 | 310 |
| 12     | 250 | 325 | 320 | 310 |
| 平均     | 270 | 258 | 321 | 316 |

Type II 30mm 3x6

| 序<br>号 | 35  | 36  | 37  | 38  |
|--------|-----|-----|-----|-----|
| 1      | 250 | 195 | 290 | 280 |
| 2      | 240 | 195 | 290 | 280 |
| 3      | 240 | 210 | 285 | 280 |
| 4      | 230 | 210 | 285 | 280 |
| 5      | 225 | 220 | 285 | 280 |
| 6      | 210 | 220 | 285 | 280 |
| 7      | 210 | 240 | 270 | 280 |
| 8      | 210 | 250 | 270 | 275 |
| 9      | 195 | 265 | 275 | 275 |
| 10     | 195 | 275 | 280 | 275 |
| 11     | 195 | 285 | 280 | 275 |
| 12     | 195 | 285 | 280 | 275 |
| 平均     | 216 | 238 | 281 | 278 |

Type III 30mm 3x6

| 序<br>号 | 34  | 35  | 36  |
|--------|-----|-----|-----|
| 1      | 155 | 195 | 155 |
| 2      | 155 | 190 | 155 |
| 3      | 160 | 190 | 195 |
| 4      | 160 | 185 | 195 |
| 5      | 160 | 180 | 180 |
| 6      | 160 | 170 | 180 |
| 7      | 160 | 165 | 195 |
| 8      | 165 | 165 | 205 |
| 9      | 190 | 155 | 215 |
| 10     | 190 | 155 | 230 |
| 11     | 200 | 155 | 235 |
| 12     | 200 | 155 | 235 |
| 平均     | 170 | 172 | 195 |



相同小壳西格

Type I 40mm 3x6

| 序<br>号 | 35  | 36  | 37  | 38  |
|--------|-----|-----|-----|-----|
| 1      | 360 | 300 | 445 | 420 |
| 2      | 360 | 300 | 445 | 420 |
| 3      | 355 | 320 | 445 | 420 |
| 4      | 345 | 320 | 445 | 420 |
| 5      | 355 | 330 | 445 | 420 |
| 6      | 355 | 330 | 440 | 420 |
| 7      | 335 | 350 | 440 | 420 |
| 8      | 330 | 375 | 440 | 410 |
| 9      | 330 | 395 | 410 | 410 |
| 10     | 330 | 420 | 420 | 410 |
| 11     | 330 | 445 | 420 | 410 |
| 12     | 330 | 445 | 420 | 410 |
| 平均     | 340 | 361 | 428 | 416 |

Type II 40mm 3x6

| 序<br>号 | 34  | 35  | 36  | 37  | 38  |
|--------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 1      | 255 | 305 | 235 | 360 | 320 |
| 2      | 255 | 305 | 235 | 360 | 320 |
| 3      | 260 | 300 | 250 | 360 | 340 |
| 4      | 260 | 300 | 250 | 360 | 340 |
| 5      | 260 | 275 | 265 | 360 | 340 |
| 6      | 260 | 280 | 265 | 360 | 340 |
| 7      | 260 | 270 | 300 | 325 | 340 |
| 8      | 270 | 265 | 310 | 325 | 325 |
| 9      | 295 | 250 | 330 | 330 | 325 |
| 10     | 310 | 250 | 335 | 340 | 325 |
| 11     | 310 | 250 | 360 | 340 | 325 |
| 12     | 310 | 250 | 365 | 340 | 325 |
| 平均     | 272 | 273 | 291 | 342 | 312 |

Type III 40mm 3x6

| 序<br>号 | 34  | 35  | 36  | 37  | 38  |
|--------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 1      | 230 | 280 | 225 | 390 | 325 |
| 2      | 230 | 280 | 225 | 340 | 325 |
| 3      | 235 | 280 | 240 | 340 | 325 |
| 4      | 235 | 265 | 240 | 340 | 325 |
| 5      | 235 | 260 | 250 | 340 | 325 |
| 6      | 235 | 250 | 250 | 340 | 325 |
| 7      | 235 | 250 | 225 | 310 | 325 |
| 8      | 250 | 250 | 300 | 310 | 310 |
| 9      | 255 | 245 | 320 | 315 | 310 |
| 10     | 285 | 235 | 325 | 325 | 310 |
| 11     | 285 | 235 | 340 | 325 | 310 |
| 12     | 285 | 245 | 340 | 325 | 310 |
| 平均     | 250 | 255 | 292 | 329 | 319 |

Type I 5.5mm 3x6

| 序<br>号 | 35  | 36  | 37  | 38  |
|--------|-----|-----|-----|-----|
| 1      | 535 | 450 | 500 | 550 |
| 2      | 530 | 430 | 520 | 550 |
| 3      | 530 | 430 | 500 | 550 |
| 4      | 495 | 430 | 580 | 550 |
| 5      | 490 | 440 | 580 | 550 |
| 6      | 485 | 440 | 580 | 550 |
| 7      | 485 | 460 | 520 | 550 |
| 8      | 450 | 410 | 520 | 530 |
| 9      | 440 | 505 | 530 | 530 |
| 10     | 440 | 550 | 550 | 530 |
| 11     | 440 | 580 | 550 | 530 |
| 12     | 440 | 515 | 530 | 530 |
| 平均     | 480 | 508 | 518 | 542 |



福岡小売価格

Type II 5.5mm 3x6

| 坪<br>月 | 34  | 35  | 36  | 37  | 38  |
|--------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 1      | 395 | 425 | 340 | 460 | 445 |
| 2      | 395 | 415 | 340 | 460 | 445 |
| 3      | 395 | 415 | 340 | 460 | 445 |
| 4      | 390 | 400 | 350 | 460 | 445 |
| 5      | 380 | 395 | 395 | 460 | 445 |
| 6      | 390 | 385 | 395 | 460 | 445 |
| 7      | 380 | 385 | 395 | 430 | 445 |
| 8      | 380 | 370 | 420 | 435 | 430 |
| 9      | 395 | 380 | 420 | 435 | 430 |
| 10     | 435 | 380 | 440 | 445 | 430 |
| 11     | 435 | 380 | 440 | 445 | 430 |
| 12     | 435 | 380 | 460 | 445 | 430 |
| 坪<br>月 | 394 | 399 | 396 | 450 | 439 |

Type IV 5.5mm 3x6

| 坪<br>月 | 34  | 35  | 36  | 37  | 38  |
|--------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 1      | 340 | 385 | 325 | 445 | 430 |
| 2      | 340 | 385 | 325 | 445 | 430 |
| 3      | 340 | 385 | 330 | 445 | 430 |
| 4      | 345 | 365 | 340 | 445 | 430 |
| 5      | 385 | 355 | 310 | 445 | 430 |
| 6      | 345 | 350 | 360 | 445 | 430 |
| 7      | 345 | 350 | 385 | 445 | 430 |
| 8      | 340 | 345 | 410 | 410 | 415 |
| 9      | 410 | 325 | 420 | 430 | 415 |
| 10     | 410 | 325 | 430 | 430 | 415 |
| 11     | 410 | 325 | 445 | 430 | 415 |
| 12     | 410 | 325 | 440 | 430 | 415 |
| 坪<br>月 | 367 | 357 | 391 | 433 | 424 |